

GAIA

paradigm

東北本部設立50周年記念特集号



技術士 東北

機 械	船舶・海洋	航空・宇宙	電 気 電 子	化 学	織 維	金 属
資 源 工 学	建 設	上 下 水 道	衛 生 工 学	農 業	森 林	水 産
経 営 工 学	情 報 工 学	応 用 理 学	生 物 工 学	環 境	原 子 力・放 射 線	総 合 技 術 監 理

東北本部 10年ビジョン (2023)

～ 東北の技術士会が実現すべき将来像 ～

1. 会員サービスの向上

- ・会員の自己研鑽や後進育成のためのCPD行事等が充実している
- ・会員相互の交流が活発に行われ、幅広い人脈形成と人格形成ができる機会が増えている
- ・多くの若手技術士や女性技術士が日本技術士会の活動に積極的に参加している

2. 他団体との連携強化

- ・科学技術に関連する他の学協会等と、公益活動の共催やCPD行事等に関する相互参加が活発に行われて、協調体制が確立されている
- ・教育・研究機関（大学・高専等）との連携強化が図られ、科学技術の創造と教育、社会実装において、各々の立場から協力している

3. 技術士の知名度向上

- ・技術士は科学技術をもって持続可能な社会の実現に貢献し、その活動が社会に認知されている
- ・技術士・技術士会会員であることが、優れた科学技術と公益を優先した職業倫理を兼ね備えていると社会に認められている
- ・多くの技術者は技術士を目指し、技術士となった暁には日本技術士会に入会している

4. 安全文化 (Safety Culture) の浸透と恒常化

- ・大震災と多様な災害を経験した地域本部として、技術士が「安全文化」による技術者倫理を学び、それを広く伝えることで、安全で安心な社会の実現に寄与している

「東北本部 10年ビジョン (2023)」について

私たち東北本部は、統括本部および他の地域本部等と協調し、東北の地域本部としての役割を果たしたいと考えております。この役割を果たすためには、将来あるべき姿の共通認識が必要と考え、東北本部設立50周年の節目でもある今年、「東北本部10年ビジョン (2023)」を作成しました。このビジョンの実現には、会員ならびに協賛団体、また関係する皆様のご支援とご協力が不可欠です。今後とも日本技術士会、東北の地域本部として、社会に貢献して参りますので、皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2023年5月30日

公益社団法人 日本技術士会東北本部本部長 熊谷 和夫

GAIA paradigm とは

「GAIA」は、生命体である地球を意味し、「paradigm」は、科学者が普通に理解している考え方・新しいものの見方を意味し、「世界に向けて発信するパワーを秘めた東北の技術士集団」の「新たなる考え」との意味を込めて命名されたものです。

も く じ

第1章 東北本部設立50周年記念特集

◇東北本部長挨拶

.....	(熊谷 和夫)	1
-------	---------	---

◇来賓祝辞

・ 日本技術士会会長	(寺井 和弘)	2
・ 宮城県知事	(村井 嘉浩)	3
・ 仙台市長	(郡 和子)	4
・ 一般社団法人東北経済連合会会長	(増子 次郎)	5
・ 東北大学総長	(大野 英男)	6

◇東北本部のあゆみとこれからの期待すること

・ 人類の未来を託せる科学技術の提案と国際化の取組みを	(吉川 謙造)	7
・ 「技術士ビジョン21」に基づいた組織づくり ～ 東北支部と宮城県技術士会の連携 ～	(吉田 康彦)	9
・ 諸先輩方に感謝を捧げ、ビジョン達成に向けて歩み出そう！	(渡邊 嘉男)	11

◇東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

県支部

・ 青森県支部	12
・ 岩手県支部	14
・ 宮城県支部	16
・ 秋田県支部	18
・ 山形県支部	20
・ 福島県支部	22

委員会・部会

・ 総務委員会	24
・ 広報委員会	25
・ CPD委員会	26
・ 青年技術士交流委員会	27
・ 防災委員会	28
・ 倫理研究委員会	29
・ ITS研究委員会	30
・ 男女共同参画推進委員会	31
・ ふくしま未来委員会	32
・ 建設部会	33
・ 農業部会	34
・ 電気電子部会	35
・ 応用理学部会	36
・ 衛生工学・環境・上下水道部会	37
・ 技術情報部会	38

◇50周年記念事業

・ 東北本部設立50周年記念式典報告	39
--------------------------	----

◇資料集

・ 年譜	44
・ 東北本部管内開催会議のテーマ	48
・ 東北本部組織の変革	52
・ 歴代名簿	54
・ 東北本部締結協定等	61
・ 地域への貢献	62
・ 東北本部会員数の推移	63
・ 協賛団体数の推移	64
・ 写真で見る50年の歩み	65
・ 実行委員会名簿	75

第2章 活動報告(2022年度後期 活動報告)

◇催事報告 令和4年度技術士合格祝賀研修会報告	79
◇委員会・部会活動報告	
・青年技術士交流委員会	81
・防災委員会	82
・倫理研究委員会	83
・ITS研究委員会	84
・男女共同参画推進委員会	85
・農業部会	87
・電気電子部会	88
・応用理学部会	89
・衛生工学・環境・上下水道部会	90
・技術情報部会	91
◇各県支部活動報告	
・青森県支部	92
・岩手県支部	93
・宮城県支部	95
・秋田県支部	98
・山形県支部	99
・福島県支部	100
◇技術士試験合格体験記	
・技術士二次試験に合格すると、何かが変わる！	(志小田可奈子) 102
・技術士第二次試験に合格して	(遠藤 新一) 103
◇表彰者の紹介	
・2023年度日本技術士会会長表彰	104
・2023年度東北本部本部長表彰	105
◇お知らせ	
・2022年度後期新規新規入会者	107
・2023年度協賛団体	108
◇あとがき	110

掲 示 板

1. ガイア77号は「日本技術士会東北本部設立50周年記念特集号」として発行しました。第1章は、東北本部設立50周年記念特集、第2章は、活動報告(2022年度後期)の構成となっています。
また、本誌掲載の役職名は、5月30日に開催された「日本技術士会東北本部設立50周年記念式典」当時の役職名です。
2. 6月15日に大手町サンケイプラザにて開催された「日本技術士会 第65回定時総会」で、2023年度日本技術士会会長表彰を東北本部から7名の方が受賞されました。おめでとうございます。詳細は、お知らせを参照願います。
3. 7月10日に仙台商工会議所で開催された「東北本部 第51回年次大会」において、2023年度東北本部長表彰式が行われ表彰状授与11名、感謝状贈呈 協賛団体3社が受賞されました。おめでとうございます。詳細はお知らせをご覧ください。
4. これからの開催される東北本部の主な行事は以下の通りです。
(1) 10月20日(金) 第43回 地域産学官と技術士合同セミナー(山形県支部で開催)
(2) 10月27日(金) 東日本大震災復興10年事業(2023)(福島県支部で開催)
開催内容につきましては、東北本部ホームページを参照願います。

第1章

東北本部設立50周年記念特集

東北本部設立50周年記念号挨拶

GAIA東北本部設立50周年記念号発刊にあたり



公益社団法人 日本技術士会

東北本部 本部長 熊谷 和夫

東北本部長の熊谷和夫です。東北本部設立50周年記念号発刊にあたり、一言挨拶を申し上げます。

設立当初、22名の会員で出発した東北本部ですが、50年の間に現在1,400名の会員が活躍する地域本部に育ちました。これは、皆様のご尽力のたまものであると深く感謝を申し上げる次第です。また、設立50周年式典大会に、当会の寺井会長、宮城県知事様はじめ各界のリーダーの皆様のご臨席を賜り、会員ならびに協賛団体の皆様にも多数ご出席をいただき感謝いたします。

日本技術士会東北本部は、会員のためにあると考えております。会員の皆様が技術士として生き生きと活躍すること、東北本部はこれを支え応援することが東北地域への貢献につながることであり、かたく信じております。地域を活性化させ、安全・安心で持続可能な社会を創るのは、政治や企業経営者だけではありません。産・学・官が一体となり、様々な方面で科学技術が、技術士が活躍しなくてはならないと切に考えております。技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）には、「実務経験に基づく専門的学識及び高等の専門的応用能力を有し、かつ豊かな創造性を持って複合的な問題を明確にして解決できる技術者（技術士）として活躍することが期待される」とあります。この「期待」を「実現」することが、私たち技術士の大きな生きがいであり、それを支える東北本部でありたいと考えております。

そのために、技術士としての資質向上、技術士の認知度向上、また技術士の活躍の場を拡大・創出することなど、日本技術士会として、東北本部として取り組むべきことはたくさんあります。しかし、東北は広く地域間格差が大きいこと、多くの会員が企業内技術士であり、特に若手の会員が思うように活動できないなど、様々な課題があることも事実です。この課題を認識しつつも、正面から向き合っ

てこなかったのかなと感じるところがありました。そこで設立50周年を機に、課題解決に向け、東北の地域本部としての役割を見直し、10年後の将来あるべき姿の共通認識を持つため、「東北本部10年ビジョン」をまとめました。このビジョンは2004年6月に日本技術士会が制定した「ビジョン21」をベースにしたものです。作成にあたり、貴重な意見を頂いた各部会、委員会、県支部の皆様、とりまとめにあたり中心的な役割で尽力された滝上事務局長にあらためて感謝を申し上げます。

東北本部10年ビジョンは、「1.会員サービスの向上、2.他団体との連携強化、3.技術士の知名度向上、4.安全文化（Safety Culture）の浸透と恒常化」の四つの大項目に分けて構成されています。このビジョンは、どれか一つ二つはすぐ役立ち、どれかはずぐには役に立たないように見えているかもしれませんが、いつかあなたのためになり、ときには生き方さえも変えてしまう、そのようなビジョンであると考えております。

このGAIA東北本部設立50周年記念号には、東北本部の部会長、委員長および県支部長の皆様に、「東北本部10年ビジョン」実現のため、今後どう取り組むかの考えを載せていただいております。これからその取組みの意見を尊重し、調整を図って、ビジョン実現に向けロードマップを作り、新たに活動を始めます。

結びになりますが、東北本部が50周年を迎えることができたことについて、お世話になっております協賛団体の皆様、関係各位の皆様に変更して感謝を申し上げます。東北本部の会員の皆様が、今後も科学技術交流の促進と相互理解の発展に寄与され、技術士として、益々活躍でき、素晴らしい生き方が実現できることとなりますよう、ご祈念申し上げます。

日本技術士会 東北本部設立50周年記念式典 来賓祝辞

公益社団法人 日本技術士会

会長 寺井 和弘

公益社団法人日本技術士会の会長を仰せつかっております寺井でございます。

日本技術士会東北本部が設立50周年を迎えられたとのこと、誠にめでたうございます。

東北本部の前身は1970年に産声をあげた宮城県技術士協会の発足と伺っております。その翌年には組織を拡大し東北技術士協会と改称され、1973年に日本技術士会の東北支部として位置づけられました。

設立当初の正会員数は22名であったと伺っておりますが、現在、東北6県のすべてに県支部が組織され、正会員、準会員合わせて1,400名規模の会員数を誇る地域本部として発展されました。

この間、東北管内の産学官と連携して、地域社会経済の発展に貢献されるとともに、所属する会員の皆様の技術者倫理の啓発をはじめとする技術士の継続研さん活動の支援に努めてこられました。

東北本部の発展に貢献された歴代の本部長はじめ役員そして県支部の役員、会員の皆様の高い志とご尽力に心から敬意を表するものであります。

さて、気候変動、パンデミック、ロシアによるウクライナ侵攻、そして、人間の能力を超える可能性のあるAI技術の進化など、未来がますます予測しづらくなっている時代において、人々の不安感が非常に勢いで増大してゆくことが予想されます。私たち技術者には、この不安感に押しつぶされることなく、人々の命と暮らしを守るために、もてる技術を使いこなしていくことが求められています。

例えば、AI技術の進展は、私たちの仕事を大きく変えようとしています。とりわけ、Chat-GPTに代表される生成系AIの登場は、社会的に大きな注目を集めています。生成系AIとは、インターネット上などに存在する既存の文章や画像イメージを大量に機械学習し、これに強化学習を組み合わせて一定レベルの品質の文章や画像を生成するシステムです。

こうしたAI技術は、平和的かつ上手に制御して利用すれば、人類の言語活動や知的創作活動の一部を補完し、私たちのwell-being向上に大きく寄与することが期待できますが、AIの利活用に伴う情報漏洩、著作権、説明責任の困難性など、倫理上の問題も数多く指摘されています。

こうした不測の時代にあって、新しい技術を駆使しつつ、AIの出した答えの信憑性を判断するためにも技術者倫理の重要性が増しているのではないのでしょうか。

そのためには、どのような社会を創るべきなのかという共通認識が必要であり、そこに技術者倫理の原点があるのではないかと考えます。

私たち技術士はプロフェッションであります。プロフェッションとは社会が必要とする特定の業務に関して、高度な知的訓練と技能に基づいてサービスを提供する専門職業です。不断の継続研さんにより、それぞれの技術領域における最新の専門的学識をアップデートするとともに、その技術を社会実装していくための技術者としての資質、すなわち学際的、総合的な知見と倫理観を絶え間なくメンテナンスしていく責務を果たしていきましょう。

日本技術士会では、技術士の資質向上と資格活用の促進を図っていくことにより、公益に貢献していきたいと考えております。東北本部の技術士の皆様におかれましても、これまで培ってこられた倫理観、理念、価値観といった主体的な意思により、一層の継続研さんの実践とその実績の登録をお願いするものであります。

最後に、東北本部が50周年を迎えられたことを契機に、東北本部に所属する会員の皆さまが今後、ますます地域内外での科学技術交流の促進ならびに、相互理解と友誼の進展に寄与されますことを心より祈念申し上げまして、祝辞とさせていただきます。

日本技術士会 東北本部設立50周年記念式典 来賓祝辞



宮城県知事

村井 嘉浩

公益社団法人日本技術士会東北本部が設立50周年を迎えられ、新型コロナウイルス感染症の取扱いも新たな段階に移ったことで、このように盛大な式典が開催されましたこと、心からお祝い申し上げます。

また、貴会並びに会員の皆様におかれましては、日頃から技術士としての品位向上、技術の研さん、技術者の育成及び後世への技術伝承に努められ、科学技術により我が県を含む社会の発展と環境の保全に多大な貢献をされておりますことに、厚く御礼申し上げます。

2011年3月11日に発生した東日本大震災から12年が経過いたしました。これまで、我が県では被災した市町や国、関係機関と力を合わせ、復旧・復興に向けた様々な取組みを進めてきた結果、ハード面の復旧・復興については概ね完了し、被災地の姿は震災直後とは大きく変貌を遂げました。

一方で、被災された方々の心のケアや地域コミュニティの再生、産業・なりわいの回復などのソフト面の取組みは、ある時点をもって完結するものではなく、今後も一つひとつの課題に応じた丁寧かつ継続的な支援が必要でありますので、これからも取組みを続けてまいります。

公益社団法人日本技術士会の皆様には、東日本大震災の発災に際して、いち早く復興支援のための防災会議を組織され、現地調査団の派遣や復興支援のための技術協力をいただいただけでなく、被災地の復旧・復興のため、12年間様々な御支援・御尽力をいただきました。

加えまして、令和3年度からは「東日本大震災復興10年事業」を立ち上げられ、震災からの復旧・

復興に携わった様々な知見や経験を、広く世界へ共有されながら、後世に対する震災の記憶や教訓の伝承、各地域での災害対応力の向上にも御尽力いただいておりますこと、深く敬意を表するとともに、重ねて御礼申し上げます。

さて、今年度は、我が県の県政運営の基本方針であります「新・宮城の将来ビジョン」がスタートし、3年目を迎えております。本格的な人口減少局面を迎える中、不安定な国際情勢や物価高騰などへの対応にもしっかりと取組みながら、富県躍進に向けて様々な取組みを推し進めていく必要があると考えております。

特にDXによる「変革みやぎ」の実現に向け、技術力の高いデジタル人材を育成し、あらゆる分野でICT等のデジタル技術を活用することで、県民サービスの向上や県内産業の活性化、働き方改革の推進等を図るとともに、若者の県内定着や子ども・子育てを社会全体で支える環境整備、頻発化・激甚化する自然災害への対応など、直面する課題に重点的に取組んでいくこととしております。

貴会会員の皆様におかれましては、高度な専門知識と応用能力を遺憾なく発揮し、様々な分野の課題解決に取組まれ、我が県のみならず、東北の持続的な発展になお一層の御支援・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、貴会が我が県と引き続き良好なパートナーシップのもと連携した取組みをお願いいたしますとともに、公益社団法人日本技術士会の今後ますますの御発展と、御参会の皆様方の御健勝・御多幸を心から祈念申し上げます、私からの祝辞とさせていただきます。

日本技術士会 東北本部設立50周年記念式典 来賓祝辞



仙台市長

郡 和子

このたび、日本技術士会東北本部が設立50周年を迎えられ、設立されました日と同じ5月30日に記念式典開催の運びとなりましたこと、心からお祝い申し上げます。また、皆様におかれましては、日頃より本市の都市基盤を支えるパートナーとして、本市のまちづくり、そして市政の発展に多大なるご貢献をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

2011年に発生し未曾有の被害を引き起こした東日本大震災から、本年で12年が経過いたしました。本市におきましても、最大震度6強の地震があり、東部沿岸部を襲った津波被害のほか、北西丘陵地を中心に大規模な地すべりなどの宅地被害が発生し、市全体で約14万戸の家屋が半壊以上の被害を受けるなど、多くの尊い命と貴重な財産が奪われました。

この東日本大震災を経験することで、都市が様々な災害の脅威にさらされていることを改めて認識し、本市では、「ビルド・バック・ベター（より良い復興）」の考えに基づいた復旧・復興と、災害に強いまちづくりに取り組んでまいりました。今年、仙台で採択された国際的な防災指針「仙台防災枠組2015－2030」が折り返しの時期を迎えます。先日、私はニューヨークを訪問し、国連総会議長により召集される「仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる国連ハイレベル会合」において、本市の経験と教訓を世界の防災・減災に役立てていただけるよう、これまでの復興や防災の取り組みを発表する貴重な機会をいただきました。このように、世界からも注目される本市の防災環境都市づくりを進めるうえでは、技術士会の皆様方が持つ高い技術力が大いに活かされてきたものと認識して

おり、この間の積極的なご貢献と多大なるお力添えに、心より敬意を表するとともに感謝申し上げる次第です。

さて、長きにわたった新型コロナウイルス感染症との戦いは大きな節目を迎え、いよいよアフターコロナが本格化しております。本市では「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City” SENDAI～」の理念のもと、多くの方々から選ばれるまちを目指し、脱炭素や新たなテクノロジーへの対応など、世界の潮流も的確に捉えながら、都市の魅力を高める取組みを進めてまいります。

高度な都市機能と緑豊かな自然環境が調和する「杜の都」を持続的に成長・発展させていくためには、先人が培ってきた資産や知恵を余すことなくいかしていかなければなりません。インフラや公共施設の長寿命化、防災・安全対策などを計画的に実施することはもとより、あらゆる関係者が協働しながら都市基盤の適切な維持・保全に努めていくことが必要であり、日頃より技術を研鑽されてこられた技術士会の皆様方のご協力が不可欠でございます。

そして、誰もが安全安心で、心豊かに暮らせるまちを次世代に引き継いでいくうえでは、将来にわたって担い手となる技術者の育成が重要となります。人材育成におきましても、高度な専門的能力を持つ皆様方に、引き続きご指導を賜りたくこの場を借りてお願い申し上げます。

最後になりますが、日本技術士会東北本部の今後益々のご発展と、貴団体の皆様のご健勝・ご活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

日本技術士会 東北本部設立50周年記念式典 来賓祝辞

一般社団法人東北経済連合会

会長 増子 次郎

日本技術士会東北本部様の設立50周年記念式典の開催にあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本日、会場に集う「技術士」の皆様は、産業経済分野から社会生活の科学技術に関する高度な専門知識と応用能力を駆使され、多様化・複雑化する社会的課題の解決に取組まれておられます。

そして、日本技術士協会東北本部様は、昭和48年5月の設立以来、技術士の継続研鑽に主導的役割を担い、官公庁・地方自治体・海外業務関係機関などにおける技術士の活用促進に大きな成果を上げられております。

また、東北本部の会員の皆様は、各部門の技術力の総力を結集して復興に貢献されておられるとともに、2021年より開始された「東日本大震災復興10年事業」では、防災の主流化に向けて、技術士の人材育成や組織形成に取り組まれていると伺っております。

近年、気候変動による台風や豪雨が頻発かつ強大化し、災害も激甚化していく中で、災害復旧はもとより、防災・減災に果たす技術士の皆様の役割は極めて大きいことから、大変心強く、また大いに期待するところでございます。

このような東北本部様のこれまでの歩みと数多くの実績は、熊谷本部長様ならびに歴代本部長様をはじめ事務局の皆様、そして会員である技術士の皆様のたゆまぬご努力の賜物であり、改めて敬意を表するものであります。

さて、私ども東北経済連合会は昨年10月、日本経済団体連合会と、「科学技術を源泉とする産業競争力の強化により、社会変革の姿を描く」とする共同宣言をとりまとめました。

共同宣言では、わが国産業がさらなる成長・革新を遂げるため、科学技術を核に、価値創造を最大化することを目指していくこととしています。

具体的には、東北・新潟地域の日本海側では、洋上風力発電をはじめとする再生可能エネルギーの開発が進められており、太平洋側では国際熱核融合実験炉ITER、国際リニアコライダーILC、次世代放射光施設NanoTerasu、福島イノベーション・コースト構想が、最先端の科学技術プロジェクトとして多数進められる中で、結集した科学技術力をトリガーに、イノベーション創出に取組み、わが国の産業競争力強化に貢献するとしています。

このような東北・新潟地域で進む科学技術プロジェクトの推進や社会実装を推し進めるためには、高度な専門知識と応用能力を有する技術士の皆様は、中核的な役割を担うことが不可欠であり、東北本部様、そして技術士の皆様と連携をより一層強化し、共に取組んで参りたいと存じます。

改めて、日本技術士会東北本部様が、設立50周年を機に今後益々ご発展されますこと、そして会員の皆様が益々ご活躍されますことをご祈念申し上げます。私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうでございます。

日本技術士会 東北本部設立50周年記念式典 来賓祝辞

東北大学総長

大野 英男

日本技術士会東北本部の設立50周年にあたり、本日ここに記念式典が開催されますことに、東北大学を代表して心よりお祝い申し上げます。

1973年に正会員22名でスタートした東北本部は、現在、東北六県1,400名の会員を擁する組織に成長され、科学技術に関するさまざまな分野を専門とする技術士及び技術者の資質向上、社会貢献、人材育成など精力的に取り組んでこられました。2021年には「東日本大震災復興10年事業」を開始するなど、震災の復旧復興に携わった技術士としての知見と経験を将来に活かす、地域社会に根差した活動も強化されています。

設立から50年間の長きにわたり、東北本部の発展に尽力してこられた関係者の皆様、また、技術のプロフェッショナルとして、高度な専門知識で社会課題の解決と産業の発展に貢献されてきた技術士の皆様方に心より敬意を表します。

第二次世界大戦後の日本において、資源の乏しい我が国が急速な高度経済成長を遂げてきた背景には、高い専門性をもつ技術者の皆様に支えられてきた社会の発展があり、それは日本技術士会の皆様の日々の努力とご尽力なしには果たし得ませんでした。

近年は気候変動に伴う自然災害、カーボンニュートラル、国家間の紛争などの地政学的変化に伴うエネルギー問題など、国内のみならず世界中が大きな

課題に直面しています。いずれも持続可能な社会に向けた革新的な技術の開発やその早期の社会実装が求められており、科学の専門技術と応用能力、そして高い倫理観をもつ技術者集団としての日本技術士会への期待は増すばかりです。

私ども東北大学は、東京と京都に次ぐ第三の大学として1907年に創設され、以来、独創的かつ卓越した研究活動を行ってまいりました。東日本大震災からの復興に関しては、災害科学国際研究所を中核として地域から世界までを視野に防災・減災に取り組んできております。取り分け工学の成果に関しては、皆様がご使用になっている全てのハードディスクに使用されている垂直磁気記録、そしてフラッシュメモリは、本学出身者が発明したものです。21世紀はデータの世紀と呼ばれておりますが、そのデータが収められているほとんどの装置には本学関係者の発明が用いられています。

本学は、これからも科学技術の社会実装の現場で活躍する技術士の皆さまとともに、人類社会のグローバルアジェンダの解決と豊かな未来社会の実現に向けた挑戦を続けてまいります。

最後となりますが、日本技術士会東北本部のさらなるご発展と、本日まで出席の皆さま、そして会員の皆様のますますのご活躍を祈念いたしまして、私からの祝辞とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございませう。

東北本部の歩みとこれからの期待すること

人類の未来を託せる科学技術の提案と
国際化の取組みを

吉川 謙造

公益社団法人 日本技術士会東北本部
前・東北本部長

わが国では、新型コロナウイルスによるパンデミックからの経済回復と国際化が同時進行している。「技術士」はアメリカのP.E（プロフェッショナル・エンジニア）制度を手本に創設された文科省（旧科学技術庁）所管の国家資格で、機械、電気電子、化学、繊維、航空・宇宙、資源工学、建設、上下水道、農業、森林、水産、経営工学、情報工学、応用理学、生物工学、環境など20の部門があり、人文科学と医学を除くほとんどあらゆる部門で資格の取得が可能であるが、世間の認知度は十分とはいえず、かつては「技能士」の一部と間違えられたことすらあった。

しかし近年、社会的な認知度は徐々に高まっており、中立・公平を要求される監査業務や、PL（製造物責任）法に基づく訴訟、請求に対する判定業務に、技術士会や個人技術士が依頼を受けることも多くなってきている。ところが「技術士」は職業法が確立されていないためか、「技術士」といっても、何かの業務を独占できるといったものではなく「十分な経験を積み、高度な応用能力を備えた人である」と、国家が認定し「技術士」という称号の使用を認めるといった資格なのである。

ところで、今まで「技術士」はどちらかといえば国内よりも海外、特に東南アジアなどで高い評価を得てきた。JICAの調査団などでは、並み居る大権威の先生方を尻目に、団長に次ぐ上等のホテルの部屋を与えられ、恐縮して固辞しても、あなたは「技術士」なのだからこれが当然だと、誠に申し訳ないほどの良い待遇を受けたという話も伝えられている。

また、かつてのわが国の高度経済成長を支えた科学技術の発展が、本制度によるものらしいと、途上国などから目をつけられ、お隣の韓国などは日本の「技術士」と非常に似通った制度を作って、日本追

撃の先鋒にしようとしているほどである。

過日、NHKの特集「テクノパワー・本四架橋」で放映され、ようやく社会的にこの資格が認められつつあるようであるが、業界で「技術士」が最大限に活用されているのは建設コンサルタント位である。

ところが、である。この「地味資格」に1999（平成11）年7月、突如として強烈なスポットライトがあてられた。それは、内閣総理大臣の諮問機関である経済審議会の答申「経済社会のあるべき姿と経済新生の政策方針」の中に、いきなり「技術士」が出てきたのである。

第3部・経済新生の政策方針

第1章・多様な知恵の社会の形成

第2節・多様な人材の教育と科学技術の振興とあって、日本経済にとって大きな役割を果たしてきた「ものづくり」の重要性を再認識し、「・・・さらに、日本の技術士制度を、技術の変化に柔軟に対応し、より広範囲な技術者のために活用できる国際的に整合性のとれた制度に改善することにより、海外の技術者との相互移動を促進するとともに、技術者の活性化を図る」というものである。

ここに来て国際化の進展は急で、過去50年以上にわたって運営されてきた技術士制度が大きな曲がり角にきたことがはっきりしてきた。

今、この資格が欧米の資格と肩を並べ、PE やヨーロッパのCE（チャータード・エンジニア）と相互に承認し合うことになり、APECエンジニアという資格が誕生している。

ところが、ここに大きな問題が伏在している。現在日本の技術士は約10万人にすぎない。さらに、このうち建設部門の技術士はその半分程度で、1級建築士と併せても、アメリカだけで40万人もいるPEと相互乗り入れをしたのでは不公平になって

しまう。そのため、もっと技術士の合格者を増やして、他国のエンジニアと数において対抗しようという考えも出てきている。

この政策・方針も、一時的にはその後の政権交代により「コンクリートから人へ」のスローガンの下大幅な後退を余儀なくされた時もあったが、さらにその後の2011年に経験した「東日本大震災」で我が国の特殊性・脆弱性が再認識され、これに加えて世界的にも頻発している地震・津波、火山噴火災害の復興、さらには地球温暖化による急激な気候変動への対応などで、我が国の災害対応技術が世界的にも必要とされる時代が、間違いなく到来している。

そして、多くの学・協会などの中でも「技術者倫理」と「男女共同参画」を前面に強く押し出してこれを強力に推進する組織としては、本会は我が国でも代表的な存在であると自負できる。

いずれにしても、「今の技術士」も「これからの技術士」もみんなあわせて「技術士」の将来は明るく開けていると確信するものである。

ところで、地球46億年の歴史は、原生代、古生代、中生代、新生代など、生物の発生・進化・消滅によっていくつかの地質時代に区分され、現在は新生代・第四紀（人類の発生から）・完新世（最終氷河期後の1万1,500年）とされている。

この地球上に人類が出現してから250万年、今は75億人以上が（地上に）繁栄しているが、17世紀末にヨーロッパに勃発した「産業革命」以来、急速に増加した人口と化石燃料・石油に依存してきた文明は、地球環境に大きな影響を与えているとして、我々の生き方に警鐘がならされている。

イ) 「沈黙の春」(レイチェル・カーソン1962)

ロ) 「成長の限界」(ローマクラブ・レポート1972)

ハ) 「不都合な真実」(アル・ゴア米副大統領 2006)

2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで持続可能な開発目標(SDGs)で持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットが提言されている。

「人新世」(アントロポセーン)という概念は、2000年2月メキシコで開催された地球圏・生物圏国際会議で、オゾン層の研究でノーベル化学賞を受賞した大気科学者パウル・クルツェン(独)によ

る「多くの面で人間活動が支配的となった現在に至る地質時代に『人新世』という用語を与えることが適当である」という発言から来ている。

「人新世」を証明する多くの指標が、世界の終りを示しているのではないにしても、明らかに一つの時代の終りを示しており、その指標は、人口の急増(10億→80億)・都市化の進展、工業、農業などの産業構造の発達(農薬使用量の増加)、化石燃料(石油・石炭・天然ガス)を主体としたエネルギー革命の進展とCO₂の排出量増加による地球温暖化、廃プラスチックの増加と海洋汚染、フロンガスによるオゾンホール拡大、多様な生物種と生態系の急激な喪失、原子力発電所の増設と多量の放射性廃棄物の発生などの他、経済活動のグローバル化など多岐にわたっており、すでに人類は後戻りできないところまで来ている。

仮に数万～数百万年後に、地質学者(いたとして)が地球上の地層を発掘した時、この時代のきわだった地層の特徴は、はっきりと識別され、これが後世「人新世」と名づけられるであろう。

地質学的な時間スケールで見た場合、地球の誕生以来46億年を1日24時間の時計とすれば、第四紀の始まりは最後の1分間、完新世はさらにその最後の1/4秒にしかならない。このように見た時、70～250年といわれる「人新世」は、ほんの一瞬に過ぎない。こんな短期間で、人類が地球を台無しにしてしまい、荒廃させることがあってはならないだろう。

バートランド・ラッセル卿(英)の「人類にとっての最良の時は、未来にある」(科学技術の発展が、数々の困難を克服するはずだから、人類にとって未来は明るいもの)という主張は、これまでの私の心の拠り所であったが、原子力技術ひとつを取ってみても、残念ながらこの考えに疑念を抱かざるを得ない。この困難な時代にあって「人新世」を生き抜かなければならない私たちは、どう生きたら良いか?を真剣に考え、少なくとも人類が永続的に生きていける可能性を見出す技術的提案をしなければならないと思う。残された時間はあと10年と言われる。

東北本部の歩みとこれからの期待すること**「技術士ビジョン21」に基づいた組織づくり**

～ 東北支部と宮城県技術士会の連携 ～

吉田 康彦公益社団法人 日本技術士会東北本部
元 東北支部 副支部長**1. 「祝」東北本部の50周年**

東北本部の50周年を迎え、心よりお祝い申し上げます。また、活動を支えた歴代役員ならびに会員の皆様のご努力に感謝申し上げます。

日本技術士会が2011年4月11日に公益社団法人の登記手続きを完了したのにもない、東北支部も同年7月15日に日本技術士会東北本部と名称を改めました。引き続き、宮城県技術士会も日本技術士会の「地域組織の設置運営に関する規則」及び「地域組織の設置運営に関する手引き」に基づき、同年12月26日付けで日本技術士会東北本部宮城県支部となりました。まさしく、技術士ビジョン21に基づく東北本部と各県支部の組織連携がスタートしたのです。

2. 東北支部と宮城県技術士会の関係

2001年当時は、東北地区には日本技術士会東北支部（会員のみ）と東北技術士協会（日本技術士会の非会員も加盟）の2系統の組織団体があり、前者は技術士法に基づく組織団体であり、後者は有資格者であっても本部会員でない立場から、親睦団体として活動していました。

宮城県においては、2003年度以前は宮城県技術士協会として活動していましたが、2003年8月に日本技術士会の会員で構成する宮城県技術士会への移行を承認し、協会組織は余剰金を県技術士会に寄付するなどして発展的に解消するに至りました。これによって、宮城県技術士協会に在籍する技術士は全て日本技術士会所属の宮城県技術士会会員になったわけです。

しかし、宮城県技術士会が会員だけの組織に一本化されたといっても、宮城県には東北支部と県技術士会があって2重構造になっている関係上、その役割分担が明確に整理出来ていないという問題がありました。

支部組織からみて宮城県技術士会は必要ないという意見も根強くありましたし、他の県技術士会から

は東北支部が宮城県地区の活動に力を入れすぎれば、その他県技術士会の指導や連携が疎かになるという真逆の懸念がありました。

2006年5月の東北支部内部資料によると、支部会員721名の内、520名程度（63%）が宮城県技術士会会員となっており、支部会員構成上は宮城県技術士会会員が極めて高い構成率を誇っていました。

東北支部と宮城県技術士会の幹部は、この大所帯の宮城県技術士会を混沌とした組織状況の中に放置するのは得策では無いと考え、積極的に協議を重ね組織の在り方を模索したのでした。

最終的に吉川東北支部長と井上宮城県技術士会代表幹事が調整して、相互の役割分担や県技術士会の活動費予算の還付を取り決めて活動を始めたのですが、当時の宮城県技術士会は自らが積極的に活動をするというよりは、支部行事への参加支援をする程度にとどまり、会員からは存在感が薄く地域に密着した活動が出来ていないという指摘がありました。

これを克服するために2007年度からは、「事務局体制の確立」「委員会の設置」「技術研修会」「東北支部行事の連携支援」「宮城県の産学官連携」「宮城県における地域貢献（防災・環境面の啓蒙）」等の体制を整えて活動を開始しました。

2007年度から、小生が宮城県技術士会の代表幹事に選任されましたので、東北支部と重複しない人材を役員として選出するとともに、情報交換やデータ活用を効率的にするために、県技術士会の事務局を東北支部事務局に同居させていただきました。

3. 東北地区の連携とイベント開催

新体制では、東北支部が首都圏本部と密接に関わりながら東北地域における組織活動と各県技術士会の指導育成を行い、各県技術士会は地域に根付いた技術士活動を実践することを明確にしました。そのような中で、宮城県技術士会の場合は東北支部との連携を先頭に立って実行し、他県技術士会の模範となる成功事例を見せることが期待されていました。

2008年～2009年に立て続けに、その成果を出す機会が訪れました。第27回「地域産学官と技術士合同セミナー」と第36回技術士全国大会（仙台）を宮城県技術士会担当で開催することになったのです。

この大イベントを実行するに先立って、「地域産学官と技術士合同セミナー」は県技術士会が主体的に実行する。「全国大会」は東北支部が中心となって担当県技術士会がサポートし、さらには他県技術士会の支援も受けながら、東北支部技術士会が一丸となって開催するという、連携ルールが打ち出されました。宮城県技術士会として、早速体制を構築するとともに、イベントを成功裏に導く実施計画案を策定し、幅広い協力体制を確保しました。

2008年度の第27回「地域産学官と技術士合同セミナー」は、テーマを「文明の転換と科学技術」副題～これからの技術と技術者の役割～とし、科学技術を活用するために必要となる人材の確保、技術の伝承や深度化・高度化、技術者倫理の醸成等について、如何に技術士が取組むべきかを考え、地域社会の発展に貢献しようという内容にしました。

基調講演演題「文明の転換と科学技術」講演者は丹保憲仁氏、北海道開拓記念館館長（元北海道大学総長、前放送大学学長）にお願いしました。

パネルディスカッション「これからの技術と技術者の役割」コーディネーター吉川謙造東北支部長パネリストは大山健太郎アイリスオオヤマ社長、加藤公樹東北電力株式会社環境部長、両角和夫東北大学大学院農学研究科教授、福井孝氏国土交通省東北地方整備局企画部長です。

宮城県技術士会が前面に立って企画立案し、実施するに至りましたが、内容的にも規模的にも成功裏に開催することが出来ました。

2009年度は、第36回 技術士全国大会（仙台）テーマは「社会の安全・安心と技術士の役割」副題～未来創造、東北からの発信～です。

第1日目は 記念式典・基調講演・交流パーティ

第2日目基調講演演題「将来社会の見とおしと科学技術の役割」分科会・総合シンポジウムは国民の安全・安心のニーズに応えることとし、「社会の安全・安心と技術士の役割」を主テーマに掲げ、「食の安定的な確保と安全な供給」「資源・エネルギーの有効利用と循環型社会」「地震災害に備え、地域社会の安全向上に貢献する」「技術のマネジメント」「中立公正の堅持と自律的な規範」の5つの課題について、社会に開かれた技術士会として一般市民と共に考えながら議論を行い、技術の向上と活用のあり方を社会に提言することとしました。

大会の特徴は、5つの分科会テーマを掲げ、本部の各部会、支部や府県技術士会等において、事前に深く議論を重ねていただき、会員の意見や提案を広く集めて、社会に向けて技術士としての意見・提言を発信しようと行動したことです。

大会組織は、総務部会・行事部会・分科会・総合シンポジウム部会の3部会より構成し、各部会の中に細部の役割担当班を設けて、会員全員が総力を挙げて取組める組織体制を構築しました。

その結果、会員各位のご協力と奮闘を頂戴し、さらには東北支部と宮城県技術士会、他5県技術士会がまさしく一丸となって協力して行動した結果、全国大会を成功裏に開催することができました。大会後に各方面から成功を祝福する言葉を多数頂戴しましたが、苦勞が報われた思いがしました。

後の東北本部管轄の「地域産学官と技術士合同セミナー」と「全国大会」の開催では、この時の方針や連携ルールに基づいて実行され、常に盛大に開催されています。

4. 組織の強化に向けて

2021年度の資料によると、技術士登録者数が118,265名、その内、日本技術士会会員技術士は15,823名で組織率は13.3%です。この比率は極めて低い水準にあると思いますので、結集率を高める工夫が必要です。結集率が低レベルに止まっている要因は、日本技術士会以外に大学や企業、産業界がまとめている任意組織の技術士会が多々あって、その会員になることで日本技術士会加入を見送っている技術士の方が多数いるようです。この傾向は首都圏地区に多く見られ、任意組織の技術士を日本技術士会に誘い切れていません。まずは首都圏本部に会員加入を働きかけていただきたいと思います。

また、企業における有資格者の処遇改善を進めて、取得意欲を高揚させることも重要であると思います。

建設部門の技術だけは、公共事業入札参加の管理技術者設置要件として独占的有利な扱いを受けていますが、他部門についても何らかの公的独占権利が付与されれば技術士の地位向上となり、取得意欲の高揚、合格者増につながるのではないかと考えます。

他の技術士会や技術士に働きかけ、日本技術士会に加入していただくような組織づくりを首都圏本部に期待する次第です。

東北本部の歩みとこれからの期待すること



諸先輩方に感謝を捧げ、 ビジョン達成に向けて歩み出そう！

渡邊 嘉男

公益社団法人 日本技術士会東北本部
元 東北支部 広報委員会委員長

2023年5月30日、東北本部は50周年を無事お祝いすることができ、誠にありがとうございました。個人的には記念祝賀会で挨拶の機会をいただき、心より御礼申し上げます。

顧みると1969年1月に発足した宮城県（2年後「東北」に改称）技術士協会が受け皿となり、1973年5月24日 日本技術士会東北支部設立、その後2003年3月、東北技術士協会が解散して1本化された東北支部が現在の組織の卵として生まれ変わりました。協会存続時代は独立技術士が中心で、会活動と家業が連環する個人企業の方々の活動が中心の時代でした。この間カオス状態の会をパラダイムとして活躍された先輩方に今日に至る基礎を固めていただきました。ここに感謝を捧げ、厚く御礼申し上げます。その後皆様の活動と結束の努力が実を結び、今日を迎えることができましたことを心よりお慶び申し上げます。

私どもは、2011年の東日本大震災・福島第一原発事故以降今日まで、この体験を生かして震災の伝承・防災・震災時対応の行動計画等と技術の安全について、幅広い行動により復興に力を尽くしてきました。現在の社会情勢はウクライナへのロシア侵攻戦争とそれに伴う経済への影響が世界的に広がっています。科学技術については、各種の研究が進み、海底ボーリングによると、1950年以降の新地層には、化石燃料燃焼灰の球状炭化粒子、化学肥料の富栄養による藻類・植物プランクトン死骸、プラスチック微小粒子、重金属粒子の堆積が明らかとなり、さらに異常気象の連続による降雨災害、季節交代の異常さ等、環境異変が続いて気候変動が急を告げており、その対策は待ったを許されない状況にあります。さらに世界は情報化革命が進み、AI普及の時代となっています。このような状況を打開・進化させるためにも、さらなる技術の創生が期待されています。

このような中で、今後に向けて「東北本部10年

東北本部 10年ビジョン (2023)

～ 東北の技術士会が実現すべき将来像 ～

1. 会員サービスの向上
2. 他団体との連携強化
3. 技術士の知名度向上
4. 安全文化 (Safety Culture) の浸透と恒常化

ビジョン」4テーマが発表されました。これは、即実行に移し、実現していくべき目標 (What to achieve (goal)) である「会員サービスの向上」、「他団体との連携強化」、「技術士の知名度向上」の3テーマと、長期にわたりじっくりと取り組むべき目的 (What you want to do) である「安全文化 (Safety Culture) の浸透と恒常化」の1テーマです。第4のテーマは2009年仙台開催の第36回全国大会のテーマ「社会の安全・安心と技術士の役割～未来創造、東北からの発信～」の承継でもあり、技術および自然災害についての安全を確立し、これを世の中に広く伝えることを恒常化し、安全を積み重ねた極致として、安心な社会を築き上げていくということです。前3テーマは今すぐにも実現しなければならぬ緊急の課題であり、総力を挙げて即実行しなければなりません。第4のテーマは、じっくりと腰を据えて戦略を練り、個々の力を総合的に取りまとめ一束とした総合力を結集して挑み続けなければなりません。

このようなビジョンを掲げたのは地域本部としては初であり、しかも変化の目まぐるしい時代を映しとった10年間という設定であり、誠に時宜を得た策定であるといえます。吉田松陰は「夢なき者に成功なし」と言い残していますが、我々は夢ではなく、明確なビジョンを掲げたのであるから「ビジョン持つ者は成功あるのみ」です。「さあー、東北本部全員挙 (コソ) って今後10年間の活動で、ビジョン達成に向けて、今すぐに歩み出していこう!!」。

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

青森県支部

専門分野の垣根を越えて

～ 東北、青森のために ～

1. 現在の状況

設 立	2012年6月9日
現 在 会 員 数	154名
協 賛 団 体 数	15団体

2. 年譜

- 1978年 1月 青森県技術士協会設立
 1984年 11月 青森県技術士協議会に改称
 1991年 2月 青森県技術士協会に改称
 2003年 6月 青森県技術士協会を解散し、社団法人日本技術士会東北支部青森県技術士会を設立
 2011年 6月 青森県に震災復興寄付金として30万円を寄付 (写真1)。
 2012年 6月 公益社団法人日本技術士会東北本部 青森県支部を設立
 2016年 9月 八戸工業大学と連携・協力に関する協定を締結

3. 今日までの歩み

青森県支部では、会員がメリットを享受できるように様々な講演会、施設見学会をこれまで企画、実施してきた。現在ではその積み重ねを継承し、以下の活動にっなげている。

3.1 テーマを持って活動

ここ数年、青森県支部では、技術士がとりくむべき課題を取り上げて、そのテーマに沿って講演会、施設見学会を実施している。現在は2021年から「SDGs」をテーマに掲げ、SDGsに対してどのように技術士が貢献できるかに焦点を当てて企画を提供している。



写真1. 日刊建設青森
2011年6月16日

3.2 施設見学会

技術士会の会員へのサービスとして施設見学会を開催し、毎回好評を博している。

3.3 外部機関との提携

2016年9月26日に、青森県支部は八戸工業大学と「連携・協力に関する協定」を締結し現在までセミナーの共同開催や講師派遣等の協力関係を維持している。

また、近年は「あおもりの川を愛する会」や、青森大学との連携関係を強めている。特に青森大学との連携では、SDGsに関する講演をいただいたご縁で、大学が保有する研修施設の水管路施設復旧に関する技術指導を行った。

3.4 青森県支部会報「技術士」の発刊

1992年に青森県「技術士のしおり」を発刊して以来、今日まで研修会の様子や会員による最新技術などを紹介し、会員への情報共有を図っている。また、公共機関などへも進呈し、技術士の認知度向上に努めている (写真2)。



写真2. 青森県支部
会報「技術士」

4. ビジョンに向けた取組み

これからの10年を見据えて、青森県支部の役員のうち若手が中心になって、どのような青森県支部にしていくべきか、意見を出し合った。意見を募るにあたっては、現役世代の多忙な最中にある若手技術士が、日常業務に加えて県支部の活動にどれだけ関与できるかは未知数であることを前提として、理想とする県支部の姿、自分たちにとって魅力的な技術士会のあり方について自由な発想で意見できるように配慮した。出された意見を図上に配置したところ「東北本部10年ビジョン」で示された会員サービスの向上、関係組織との連携、技術士の知名度向

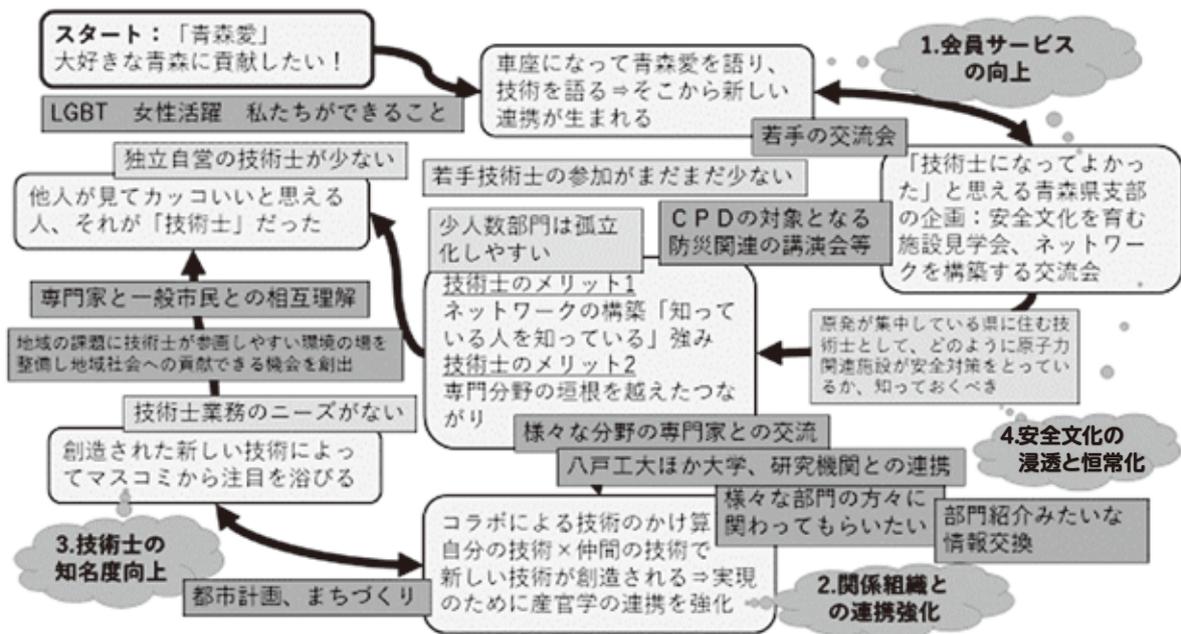


図1. 若手有志が考える理想の青森県支部の姿と課題

上、安全文化の浸透と恒常化のいずれも県支部のあるべき姿を目指す過程と密接に関連付けられることが分かった(図1)。

4.1 会員サービスの向上

上述のように青森県支部では、様々な会員サービスを提供している。その一方で、講演会や見学会には、これからの県支部をリードする若手技術士の参加が少ない。若手会員の参加を増やすために、若手会員が技術士になってよかったと思えるような、魅力あふれる企画を提供することが望ましい。有志からは、「技術士同士のネットワークが強くなることや、技術分野の垣根を越えたつながりを構築することができることがメリットである。それを実現するために、気取らない雰囲気のある交流会があるといい」との意見が出された。このことから、若手の参加促進につながる敷居の低い企画が必要と考える。

4.2 関係組織との連携強化

会員同士の交流が活発になると、お互いの強みが理解し合えるようになる。技術者同士のかけ算によって、より良い社会基盤作りや、青森を良くするコラボが生まれれば、当事者にとっては、さらに周囲の技術者にとっても刺激的な試みになるであろう。そうしたプロジェクトを推進することをつうじて、技術士だけでなく、関係組織との広い連携関係の必要性が高まる。その結果、おのずと連携強化の道筋ができる。さらに、専門家と一般市民が技術的な話題を共有し、理解を深めることも期待したい。

4.3 技術士の知名度向上

技術士同士のコラボが青森県にとって魅力的な取り組みであれば、必然的に注目されることになるだろう。マスコミから注目されることは効果的であるが、本当に大切なのは、普段から信頼される仕事ぶりを発揮し、隣人に魅力的な人間像を認めてもらうことである。そんな魅力的な背中を見せる人が技術士であれば、私も技術士を目指したいと思う若者が増えるはずだ。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

青森県は、原発を持ちながら、自然エネルギーでも日本有数の風力発電量を誇る。こうした土地に住む技術者として、「立地区域の安全性を含めて多様な発電施設のことを知り、周囲の一般の方々に伝えるスキルを身につけておきたい。そこで自身の強みである技術士ネットワークを有効に活用したい」との意見があった。技術士の多様性を存分に発揮して、青森らしいソリューションを提案したい。

それぞれに高い技術を持った技術士が、その技術を技術士同士で力を合わせ、東北や青森のために貢献していく。それを実現するために、これからの10年を高い志を持って青森県支部を盛り上げていきたい。

(青森県支部支部長 八木澤、広報委員 田村 記)

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

岩手県支部

これまでの歩み と これからの取組み

～ 歴史を踏まえ、未来へつなぐ ～

1. 現在の状況

設 立	2013年7月20日
現在会員数	119名
協賛団体数	9団体

2. 年譜

- 1985年 : 岩手県技術士協会
(任意団体) 発足
- 2004年6月19日: 岩手県技術士協会解散
同日 : 日本技術士会東北本部
岩手県技術士会設立



写真1. 岩手県技術士会設立記念パーティーの様子

2013年7月20日: 日本技術士会東北本部
岩手県支部設立

3. 今日までの歩み

3.1 活動理念

次の4項目を支部の活動理念として、さまざまな活動を展開してきている。

- ① 自らの資質を向上させるよう、社会の変化に対応した技術の研鑽に継続して取り組む。
- ② 岩手県支部の総合力を向上させるよう、支部活動を通じて会員相互の連携を強化する。
- ③ 社会・地域により一層の貢献ができるよう、公益的な活動や他機関との協働を進める。
- ④ 技術士活動の継続的な発展が図れるよう、あらゆる場で若い技術者の育成を心がける。

3.2 研究会活動

道路、河川、鉄道、都市、施工、農業、機械電気、森林水産、応用理学、鋼構造コンクリート、建設ICT生産システムの11の研究会を設置し、現場研修や研究活動を行っている。



写真2. 応用理学研究会 野外見学会
(北上市和賀町「水沢鉱山跡」2022.10.28)

3.3 市民参加型講演会の開催

2012年7月に講演会の在りようについて、有識者との懇談会を開催し、いただいたご意見をもとに検討し、2012年11月開催の秋季講演会から「シリーズ岩手を知る」と銘打って、継続的に開催している。

【主なご意見】

- ① 技術士会（技術士）は、知名度の向上を意識した活動を行うべきである。
- ② 講演会については、広い視点で岩手に関連する話題を提供することによって一般県民の参加を促し、技術士の知名度向上につなげるのが良い。

【これまでの開催経緯】

2012年11月の秋季講演会「くらしに息づく技のこころ」から、2023年1月の新春講演会「地域とともに創る減災を目指して」まで、計24回の市民参加型講演会を開催している。



写真3. 新春講演会の様子（2023.01.28）

講演会の開催に際しては、ポスター作成・掲示のほか、新聞での案内など、PRに努めている。



写真4. 2018年
新春講演会ポスター

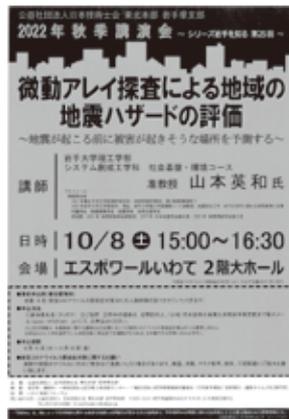


写真5. 2022年
秋季講演会ポスター

3.4 県主催イベントへの参加・出典

2016年から岩手県が主催し、全20機関ほどが参加する「いわてまるとと科学館」（2022年からは「いわてまるとと科学・情報館」）の構成団体として、ブース出展などを行っている。

このイベントは、子供たちの科学への興味の動機付け的な意味合いも持っており、将来の技術士の誕生も期待されるものである。



写真6. ブース出展の様子（2023.12.17）

3.5 全国規模の大会等の開催

① 第27回技術士全国大会

- ・開催年月日：2000年10月11～15日
- ・開催会場：ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING
- ・参加人数：513名



写真7. 全国大会記念式典の様子（2000.10.12）

- ② 第34回地域産学官と技術士との合同セミナー
 - ・開催年月日：2014年10月17日
 - ・開催会場：ホテルニューカーリーナ（盛岡市）
 - ・参加人数：145名



写真8. 会場からの質問の様子（2014.10.17）

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

支部活動理念①にも通じるところであるが、支部会員が自己研鑽に継続して取り組めるようにCPD行事をさらに充実させる。

活動理念④の若い技術者の育成の観点からも、現場研修や研究活動、会員相互の交流など多様な機会の提供に努める（活動理念②の実践）。

4.2 関係組織との連携強化

地域・社会への貢献は、これからも支部活動の大きな柱に据えているものである。

これを実践するため、公益的な活動やCPD行事などへの相互参加など、関連する他機関との協働を進める（活動理念③の実践）。

4.3 技術士の知名度向上

技術士の知名度向上は長年の課題であり、これまでも市民参加型の講演会の開催や県民が多く参加する県主催のイベントへの参加などを通じて、取り組んできたところである。

知名度の向上によって、活動理念③に掲げる一層の地域貢献にもつながるものであり、これからも地道に、かつ継続的に取り組む。

4.4 安全に対する意識の共有

2011年3月11日の東日本大震災津波の被災地の技術士として果たすべき役割がある。経験を踏まえた教訓を伝承し、防災文化を育み、安全に対する意識を県民の皆さんと共有する。

それは、いわて県民計画に掲げる復興の4本の柱の一つ、「未来のための伝承・発信」に通じるものである。

（岩手県支部支部長 小野寺 記）

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

宮城県支部

発足から20年間の足跡とこれからの活動計画

～ 大震災とコロナを乗り越えてこれからの技術士の役割 ～

1. 現在の状況

設 立	2012年7月31日
現 在 会 員 数	621名
協 賛 団 体 数	95団体

2. 年譜 別表参照

3. 今日までの歩み

技術士会宮城県支部の前身と思われる宮城県技術士協会は、東北本部の沿革に示されるように、1969年6月に発足し、この組織が東北技術士協会と改称（1971年）して、東北地域に発展して参りました。その後1973年5月30日には、社）日本技術士会東北支部を設立し、東北技術士協会と併設しております。

宮城県の技術士会（宮城県技術士協会）の設立は、2002年10月3日としており、この日を既述の東北技術士協会の解散に伴い、宮城県技術士協会を創設した日としております。

このような経緯を辿った背景には、当時の宮城県技術士協会の活動は、東北支部と一体で運営されてきており、宮城県に技術士会を設置すると、圧倒的な人数を背景に、宮城県が活動の中心になることが懸念されたようです。従って宮城県の技術士会は他県より十数年も遅れて設置されています。2003年8月25日に、日本技術士会東北支部宮城県技術士会として、東北支部の傘下になり（写真1）、その後10年近くを経て、統括本部の公益法人化に伴い2012年3月15日の理事会で東北全県の支部が承認され宮城県技術士会は正式名称が、公社）日本技術士会東北本部宮城県支部と改められ、昨年10周年を迎えました。10周年記念事業として宮城県支部表彰規程を策定し、これまでの功績・功勞に対して、感謝状及び表彰状の授与式を挙行致しました。

支部長（代表幹事）は設立以来の21年間で吉川

謙造氏、井上英雄氏（物故者）、吉田康彦氏、藤島芳男氏、遠藤敏雄の5名の方々が就任されました。設立以来から、宮城県支部の活動は東北本部と同調しながら協力して進めることにし、支部単独が好ましい事業は積極的に単独で取組んでおります。

設立以来21年間、年次大会及び各委員会が主催する活動（イベント等）は74件で、年平均3.5件開催されています。2011年大震災、2020年はコロナ禍の影響で活動は自粛を余儀なくされました。2020年の年次大会はメールを活用した書類審査で実施するなど工夫して活動しました。講演会の形式もコロナ禍以降は、ほとんど「対面＋Web」のハイブリット形式になりWebによる参加者が急増しています。これを機会に広報の仕方をさらに工夫し、会員以外の参加者を増やし、支部活動をより広く一般の方々に理解して頂くこととしております。

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

(1) CPD行事の東北域内や広域的な展開

- ・各部会、県支部、支部委員会主催の行事情報の共有化
- ・研修会・講習会Web併用の励行
- ・現場見学会の展開拡大（支部共催や一般参加）
- ・CPD参加証明書の適切な発行、運用の統一化

(2) 統括本部・東北本部・支部の一体感醸成

- ・統括本部・東北本部・支部が共催する行事を新たに企画、構想、推進する。（事前準備活動及び行事実施においてオンラインを積極的に活用する）

(3) 若手技術者・女性技術者参加の促進

- ・若手技術者・女性技術者が技術士会活動に参加しやすくなることを目指し、協賛企業に企業内技術士会を設置するよう働きかけ、これを支援する。

4.2 関係組織の連携強化

- ・ 賛助会員及び行政機関毎に技術士会の結成を促進し、技術士資格の有効活用を促進する。
- ・ 関連団体と連携のための協定を締結する。
- ・ 協賛企業内の技術士会員増強のため、企業内技術士会等と協力体制を構築する。
- ・ 各公務員技術士会と意見交換を通じて、技術士の義務の履行・公益確保の徹底を図る。

4.3 技術士の知名度向上

(1) 災害協定の生かし方、技術士会のPR活動

- ・ 事前防災教育として、小中学校、コミュニティー（地域）自治体等に対し、被災の実態、防災と予防、ハザードマップの見方・活用方法の教育を行う。
- ・ 自治体に対する、災害査定時における実践的な協力要請に対する対応。

(2) 地域貢献を通じた地域産業界との交流

- ・ 「地域産学官セミナー」「年次大会」等の行事について、地域産業界へ招待状を発送する。
- ・ 土業連合活動への参画、仙台商工会議所行事への参加・参画等積極的な地域貢献活動を通じ、地域産業界との交流の場を作る。

(3) 協賛団体とのパートナーシップの構築

- ・ 企業内技術士会の組織化励行による技術士会の浸透と会員増強

- ・ 協賛団体との定期意見交換や懇親会開催による連携強化

(4) 教育と研修の充実

- ・ 他の団体との連携を通じて、教育や研修の充実に図る。共同でセミナーやワークショップを開催し、教育プログラムの相互認定を行うことで、技術士のスキル向上や専門教育の質の向上を図る。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

- ・ 技術士個人の責任ある行動を行うため、安全文化の教育プログラムにより、安全文化の醸成を図る。
- ・ 当面は、支部役員会で「安全文化」に関し毎回テーマを絞って勉強会を行い、安全文化の浸透と恒常化を図る。



写真1. 宮城県支部 2008年度 定時総会

表1. 年譜

西暦	和暦	主な東北本部宮城県支部の活動
2002	平成14年	宮城県技術士協会設立
2006	平成18年	宮城県技術士会現場見学会 仙台環境開発管理型最終処分場
2007	平成19年	宮城県技術士会総会及び講演会地球温暖化問題
2008	平成20年	宮城県技術士会豊年技術士懇話会「中国とどうつきあうか」（宮酪会館）他5件
2009	平成21年	宮城県技術士会豊年技術士懇話会「海外の経験」（宮酪会館）他1件
2010	平成22年	宮城県技術士会技術委員会研修会「技術者倫理要項（案）」に関する研修会（宮酪会館）他4件
2011	平成23年	宮城県技術士会記念講演「地域の発展と技術の活用」（仙台商工会議所）他2件
2012	平成24年	技術士会宮城県支部技術委員会「東日本大震災による河川構造物の被害と復旧状況」（国土交通省北上川下流河川事務所管内）他5件
2012	平成24年	日本技術士会東北本部宮城県支部設立
2013	平成25年	技術士会宮城県支部環境委員会第9回環境対応セミナー（仙台市市民活動サポートセンター）他2件
2014	平成26年	平成25年度第2回宮城県支部豊年技術士懇話会「日本のインフラの危機を克服するために～インフラの老朽化の現状と対策～」（宮酪会館）他5件
2015	平成27年	平成27年度第1回宮城県支部豊年技術士懇話会「本格的な維持管理、更新時代を迎えた高速道路にどう対処するのか～ドイツ、オーストリアの戦略マネジメントについて～」（仙台市市民活動サポートセンター）他5件
2016	平成28年	技術士会宮城県支部と宮城県の災害協定締結（宮城県庁）他4件
2017	平成29年	平成29年度第1回宮城県支部豊年技術士懇話会「政宗が伝えた宝・仙台～400年前の震災復興～」（仙台市市民活動サポートセンター）他4件
2018	平成30年	第1回宮城県支部豊年技術士懇話会「建設分野における『生産性革命』とは」（復建技術コンサルタント会議室）他3件
2019	平成31年	第2回宮城県支部豊年技術士懇話会「戦国日本を世界史から読み直す ～秀吉・家康・政宗の世界戦略～」（仙台市市民活動サポートセンター）他4件
2020	令和2年	技術士会東北本部 防災委員会、建設部会、宮城県支部防災委員会「福島第一原発20km圏内ツアー」他3件
2021	令和3年	第1回宮城県支部豊年技術士懇話会「震災10年とコロナ時代の観光の変化について」（仙台市市民活動サポートセンター）他2件
2022	令和4年	第1回宮城県支部豊年技術士懇話会「知っておきたい気象の知識～日常生活から防災まで～」（復建技術コンサルタント会議室+web）他5件
2023	令和5年	第2回宮城県支部豊年技術士懇話会「伊達政宗の城づくりと国づくり」（復建技術コンサルタント会議室+web）

(宮城県支部支部長 遠藤 記)

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

秋田県支部

地域活性化に資する技術士会の取組み

～産・学・官と技術士会の継続的な連携とそのための会員の協同～

1. 現在の状況

設 立	2012年6月29日
現在会員数	139名
協賛団体数	5団体

2. 年譜

- 1982年 4月 秋田県技術士協議会設立
初代会長 松本 秀三
会員10人
- 1987年 4月 第二代会長 太田 規
- 1988年 4月 秋田県技術士協会に名称
・組織変更 会長 太田 規
- 2002年 4月 秋田県技術士会に名称変更
代表幹事 太田 規
- 2008年 4月 代表幹事 佐々木 俊吉
- 2010年 10月 「第30回地域産学官と技術士との
合同セミナー秋田大会」開催
- 2012年 6月 東北本部秋田県支部設立
支部長 佐々木 俊吉
- 2015年 6月 支部長 田森 宏
- 2019年 6月 支部長 菊地 豊
- 2021年 10月 「第41回地域産学官と技術士との
合同セミナー（秋田）」開催
- 2023年 6月 支部長 桜田 裕之

3. 今日までの歩み

秋田県支部の会員は1982年発足時の10人から2023年の41年後に139人と増加している。その間、地域の未来に向けて技術士が果たすべき役割を考え、次なる行動指標を見つけるため、地域産学官合同セミナーを2回開催した。

1回目（第30回）は「資源を活かした地域力の向上」と題して資源有効活用の課題と技術者の役割を学んだ。さらに2回目（第41回）は「秋田の元気な未来に向けて」と題して超スマート社会（Society5.0）への対応に向けた活動について考え

た。これらの開催は、会員の社会変化への対応力向上と結束に繋がっている。



写真1. 2004年秋田支部総会の様子
（奥側列の右から4人目が当時の太田規代表幹事）



写真2. 2010年第30回地域産学官と技術士との
合同セミナー秋田大会の様子



写真3. 2021年第41回地域産学官と技術士との
合同セミナー（秋田）の様子
（オンライン開催時の秋田県支部スタッフ）

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

(1) いつでもCPD行事等に参加する機会がある

会員相互及び講師とのコミュニケーションが図りやすい対面式を基本としつつ下記を推進する。

- ①どこにいても参加可能なオンライン配信を拡大する。
- ②開催後日でもオンライン講習が受けられ、CPDポイントを獲得できるようにする。
- ③東北本部の部会および各県支部とCPDに関わる連携を強化し、多様な分野でCPD参加の機会を増やす。

(2) 会員の交流が活発に行われ豊かな人脈形成ができる

- ①支部内に技術部門秋田県支部会を設け、会員相互の交流と東北本部技術部会との交流の機会を増やす。
- ②東北本部技術部会役員に支部から派遣し、その情報を支部に伝達して交流を活発化する。

(3) 若手も女性も積極的に活動に参加している

- ①技術士会活動の魅力とメリットについて資料を用いて説明をする。
- ②技術士会活動の参加には所属企業の理解が必要であり、所属企業へ技術士会活動の内容報告の機会を設ける。

4.2 関係組織との連携強化

(1) 学会・協会等と公益活動の共催やCPD活動に向けた協調体制が確立されている

- ①技術士会年次大会、CPD講演会への関係組織の参加を通じ、技術士会活動の理解と併せて会の活動への要望を伺う機会とする。

(2) 教育機関（大学・高専）との連携強化により、技術の社会還元的一端を担うと同時に会員の学習機会の創出に協力している

- ①大学と技術部門秋田県支部会による定期的な研修会の開催や共同研究の実施を目指す。
- ②上記研修会には学生を招待し、将来、技術士を目指すための啓蒙活動の機会とする。

4.3 技術士の知名度向上

技術士・技術士会会員であることが、優れた技術と公益を優先した職業倫理を兼ね備えていると社会に認められている

- ①「技術士」は、文部科学省所管の国家資格で技術士法に基づく職業倫理を備え、継続研鑽を責

務として公益活動をしていることのPRを行う。

- ②CPD講演会（研鑽活動）の活動報告資料を作成して大学・県庁等に展示し、学生や一般市民の手に触れるようにする。

- ③大学・協会・関連企業との交流の機会を増やし、技術士および技術士会の魅力のPRにより技術士となった暁には技術士会への入会を促す。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

多様な自然災害が発生している現状から技術士会として防災・減災に向けた役割を担っている

- ①教育機関（大学・高専）に防災・減災に向けた研修会の講師を依頼する。
- ②支部会員による防災・復旧対策事例の講習会を開催する。
- ③上記①、②に関する内容について東北本部との情報交換を継続的に行う。

5. おわりに

コロナ禍を経て、目指すべき超スマート社会（Society5.0）の実像が明確になったと考えます。そこで、我々技術士は地域社会の課題解決に向けて担うべき役割を果たす必要があります。そのためには、より一層、関係機関との情報交換や会員相互の協力体制が重要になっていくでしょう。

これからの東北本部10年ビジョンに向けての秋田県支部の活動は、技術士会員相互の交流や関係組織との連携を強化し、地域活性化のために楽しみながら活動を進めていきたいと考えます。

(秋田県支部 桜田 記)

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

山形県支部

学而時習之 以技術立国

～ 専門的応用能力と高度な技術力により安全で豊かな社会を ～

1. 現在の状況

設 立	2012年7月 6 日
現 在 会 員 数	96 名
協 賛 団 体 数	28 団体

2. 年譜

1988年	4月	山形県技術士協会設立準備会開催
1988年	7月	設立総会及び第1回総会
1989年	7月	第1回受験研修会 (以後2019年まで開催)
1994年	10月	第1回技術教養講座 (以後今日まで毎年開催)
1997年	9月	創立10周年記念式典開催
1998年	9月	第1回現場研修会 (以後今日まで毎年開催)
2001年	3月	山形県技術士協会だよりを発刊
2003年	4月	山形県技術士会発足
2007年	7月	第20回定時総会及び 創立20周年記念式典開催
2007年	9月	20周年記念現場研修会
2009年	10月	「天地人」米沢地区現場研修会
2011年	7月	東日本大震災被災地にて現場研修 会実施
2012年	3月	山形県支部設立承認
2012年	7月	山形県支部設立
2012年	7月	第25回定時総会/年次大会 (以降は年次大会)
2012年	10月	地域産学官と技術士との合同セミ ナー山形大会開催
2016年	11月	小中学生対象の出前授業を開始 (毎年6校程度)
2017年	2月	東北本部倫理研究委員会と合同 セミナー開催 (技術者倫理ワークショップ)
2017年	7月	山形県支部年次大会及び発足30 周年記念式典開催

2017年	7月	支部専門部会に「社会学習委員会」 と「倫理委員会」を設置
2017年	10月	倫理委員会による第1回技術者倫 理ワークショップ開催 (毎年2回程度実施)
2018年	11月	技術士全国大会(福島)参加を 兼ね現場研修会を実施
2020年		コロナ禍で年次大会中止
2021年	7月	2年ぶりに年次大会を開催
2022年	3月	「山形技術者倫理ニュースレター」 創刊号発行
2022年	9月	支部に「地域産学官と技術士との 合同セミナー(山形)」実行委員 会を設立

3. 今日までの歩み

山形県支部は、1988年4月の設立準備会を経て、同年7月に山形県技術士協会として誕生した。

2001年に至り、山形県技術士会と名称を変更し、日本技術士会傘下の組織とする方針が本部より示され、2002年12月の臨時総会において移行を決定、設立申請の後2003年4月に新生山形県技術士会が発足した。

その後、2011年4月に日本技術士会が公益社団法人となったのに伴い、翌2012年3月に山形県支部が設置され、同年7月の定時総会において公益社団法人日本技術士会東北本部山形県支部へと移行した。

また、公益社団法人化により支部幹事選挙が実施され20名の支部幹事が選出された。

当支部において実施している様々な事業活動の内、主なものを以下に紹介する。

(1) 受験体験研修会

これは、技術士の普及拡大を目的に前年度の合格者を講師に迎え、その体験談を語ってもらうものである。

1989年より実施しているが、コロナ禍等により、2020年以降は中断している。

(2) 年次大会研修会

毎年の年次大会の際に、会員の継続研鑽の一環として、東北本部長はじめ技術士の方々に講師を依頼し研修会を行っている。

(3) 技術教養講座

会員のみならず一般の人も対象に、時流に則したテーマで、その道の権威の方々による講座を、1994年（平成6年）から毎年開催している。

(4) 現場研修会

会員を対象に主に県内の公共事業や各種試験研究機関、公益事業など多岐にわたる現場の視察研修を1998年より実施している。

(5) 出前授業

技術に興味や関心を持ってもらうことを目的に、主に県内小中学生を対象とした出前授業を2016年より毎年実施している。

(6) 技術者倫理ワークショップ

技術士の根幹とも言うべき技術者倫理について意識を高めるため、会員を対象としたワークショップを2017年より毎年実施している。

なお、これらの活動の外に今年10月には地域産学官と技術士との合同セミナー（山形）の開催が予定されている。



写真1. 30周年記念式典

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

山形県支部では毎年、講習会を年に2回、現場研修会を1回実施している。これからも継続して実施し、会員のCPD活動を支援して会員サービスの向上に努める。

4.2 関係組織との連携強化

2012年から県立産業短期大学校、2014年から

国立鶴岡工業高等専門学校にそれぞれ講師を派遣している。また、2015年からは山形県主催の「エキスパート育成研修」及び「1級土木施工管理講習会」に講師を派遣し連携を図っている（現在は山形県建設業協会及び山形県建設技術センター主催に移行）。また、2017年から開催している技術者倫理ワークショップには山形大学学生も参加し、教育機関との連携を図っている。今後もこれらの活動を継続し教育機関との連携を強化する。

4.3 技術士の知名度向上

技術士の知名度を向上させるためには社会貢献活動が重要と考え、2016年より主に小中学生を対象に出前授業を実施し、累計で37校、受講者は2003名を数える。2022年度は、6校（受講者225名）で実施し、地方紙にも掲載され技術士の知名度向上に寄与している。また、1994年より、広く社会人を対象にした「技術教養講座」を毎年開催しており、知名度向上に繋がっている。技術士は、建設業界や技術関連産業界では認知されているものの、残念ながら一般社会には十分に認知されていないのが現状である。そこで、知名度向上のためには技術士会内部の内向きの活動だけでなく、広く社会に向けた外向きの活動がより重要であると考え、これらの活動をより一層充実し継続して実施する。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

2016年より実施している出前授業において、地震や津波、地すべり等のメカニズムについて模型により説明し、早期避難の重要性や自助・共助・公助について啓発している。また、現場研修会では、これまで七五三掛地区地すべり対策工事や女川原子力発電所安全対策工事、仙台市立荒浜小学校震災遺構等を視察してきた。今後もこのような活動を通して、技術士が「安全文化」による技術者倫理を学び、それを広く伝えることにより安全安心で持続可能な社会の実現に貢献する。

（山形県支部支部長 須藤 記）



東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

福島県支部

歩みとビジョンふくしま

～先人たちの苦悩と10年後における技術士像～

1. 現在の状況

設 立	2012年7月5日
現 在 会 員 数	177名
協 賛 団 体 数	8団体

2. 年譜

1987年4月	福島県技術士協会代表	梅津誠司
1993年8月	福島県技術士協会会長	大堀 浩
2002年6月	福島県技術士協会会長	平井良一
2004年6月	福島県技術士会 会長	平井良一
2012年6月	福島県支部 支部長	長尾 晃
2017年6月	福島県支部 支部長	畠 良一

3. 今日までの歩み

3.1 福島県技術士会から協会へ ～推薦による会長選出～

1987年4月に福島県技術士協会を設立したが、全体としての主だった活動はなかった。

(1) 福島県技術士協会のスタート

1989年6月12日、技術士会東北支部への参加は、福島県から4名のみの参加となった(写真1)。



写真1. 福島県技術士協会スタート時のメンバー

(2) いわき技術士会の発足

1993年2月4日、福島工業高等専門学校の土井教授を中心に初会合を開催し、その後、年一回の頻度で定例会を実施した。県内各地で、それぞれに活動してきたが、一丸になろうという機運が高まり、1993年8月3日、正式に会長職を選任する目的で、福島市(杉妻会館と思う)で、20名ほどの県内技

術士が集結して会合を実施した。

大堀氏を推薦するも本人がなかなか承諾せず、時間ばかりが過ぎる中、私(長尾)が「下足番をするから引き受けてください」との一言で、ようやく「分かった」と言って、会長を引き受けてもらった(写真2)。



写真2. 会長選出時の様子

3.2 協会から公益社団法人へ ～1年遅れの支部参加～

幾度にもわたり会合を持ち、躊躇した経緯があった。2000年の「技術士法」改正に伴い、2003年6月20日に東北支部管轄下の福島県技術士会として設立、活動してきた。2011年4月11日、日本技術士会が、公益社団法人に移行となり、翌2012年7月5日、福島県技術士会の最終となる「第10回定時総会」を開催し、福島県技術士会は解散、公益社団法人日本技術士会東北本部福島県支部として発足した。公益社団法人化が1年遅れになった理由は、会計面での課題があった。

福島県支部の活動内容は、2000年創刊号として機関紙「たくみ」を発刊、現在は「たくみ」を中心に報告、掲載している。「たくみ」による記録によれば、1号(2000年)では会員数92名、23号(2023年)では177名を数える。

3.3 東日本大震災・福島第一原子力発電所事故

2011年3月11日14時46分発生の地震後の津波による原発事故時の対応について、技術士会として何をすべきか、どう考えていくべきかの議論に、「専門家でもないのに大げさだ」という異論があり逡巡した。しかし、その後、事態は変わった。

- (1) 2016年3月10日、福島県支部として防災委員会から要請され、「福島県の現状：あれから5年」と題して、東京で福島県の現状について講演・復興への足どりを公表し、各地・各団体より多くの支援を得ながら情報を発信した。
- (2) 福島県支部としては、「たくみ」を始めとし、機会あるごとに各方面へ向け、協力要請や復興状況について広報活動を繰り返した。
- (3) 2015年5月22日、「原子力・放射線部会」と復興についての議論をした結果、巻頭言を依頼され「科学技術者への期待」として、会報に執筆、投稿した。

3.4 第16回北東3地域本部技術士交流研修会

日時：2013年11月21日

会場：いわき市（スパリゾートハワイアンズ）

（写真3）

参加者：73名（東北本部17名、北海道本部19名、北陸本部15名、福島県支部22名）

演題：震災復興のスパリゾートハワイアンズの役割

講師：斎藤 一彦氏

（常磐興産（株）代表取締役会長）

研修発表：北海道2名、北陸2名、東北1名



写真3. 第16回北東3地域本部技術士交流研修会の様子

3.5 第36回地域産学官との合同セミナー

日時：2016年10月6日

会場：コラッセふくしま

テーマ：ふくしまの未来を考える～未来・創生～

演題：福島復興と再生

講師：中井 勝己氏（福島大学学長）

パネルディスカッション：

コディネーター：中井 勝己氏、パネリスト：5名

3.6 第45回技術士全国大会 in 福島

開催日：2018年11月11～14日

場所：福島県郡山市（ホテルハマツ）

参加者：695名

テーマ：未来技術の創生と展望

～巨大災害を生き抜く～

安積黎明高校合唱団のオープニングコーラスが大きな感動、反響を呼んだ（写真4）。



写真4. 安積黎明高校合唱団のコーラスの様子

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

福島県支部では女性技術者が徐々に入会している。それに伴い、CPD研修会などのイベントに気軽に参加できる技術士会とする。「女性の会」を設立し座談会を開く。また、若手が入会できるような技術士会とする。女性技術士もスタッフとなり、研修会やイベントを企画・運営する。

4.2 関係組織との連携強化

東北本部の委員会や部会と連携を図り、合同でセミナーなどを開催し、人脈・ネットワークを形成できる場とする。また、地元にある学校とのつながりを深め、ふくしまMEへの講師派遣、中高生向けの出前授業など、外部団体に向けて信号を発信する。外部団体と連携し人脈の輪を強める。

4.3 技術士の知名度向上

中高大学生を対象に出前授業などを通じて、学生、一般市民に対して、技術士の仕事、科学技術の面白さ・魅力を伝えていく。医師、弁護士と匹敵するくらい、技術士の知名度を向上させる。中高大学生が取得したい資格としてトップ10にランクインするようにする。イベントなどを通じて社会貢献している技術士の存在を外部へ発信する。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

2011年の「東日本大震災」「新潟・福島豪雨」の複合災害を経験した福島県。発災後の復興に携わった多くの技術士が福島県内には多くいる。この経験を活かして、技術者倫理にも視点を向けながら、後世に伝え続ける。公衆の安全・健康・福利の優先を遵守し、SDGsの目標実現に向けて、技術士として安全文化の浸透を常に目指し取り組んで行く。

（福島県支部 長尾、畠、小沼 記）

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

総務委員会

東北本部 10年ビジョン (2023) 実現に向けて

～ 社会に開かれた組織であるために ～

総務委員会は、CPD行事等の企画・実施主体である各県支部、委員会、部会等相互の全体調整機能、後方支援機能を発揮し、東北本部 10年ビジョン実現に向けて活動する。

1. 現在の委員構成

委員種別	人数	備 考
委員長	1	統括本部総務委員
各県支部選出委員	6	
地域部会長	5	技術情報部会除く
個別事項担当幹事	3	協賛団体担当他
合 計	15	

2. 歴代総務委員長

年 度	委員会名	委員長
2003～2004	政策事業委員会	加納 実
2005～2006	//	横山 正信
2007～2016	//	長沢 和夫
2017～2018	//	熊谷 和夫
2019～2020	//	井口 高夫
2021～2022	総務委員会	//
2023～	//	渡辺 将之

3. 今日までの歩み

【主な所掌事項】

東北本部総務委員会は、統括本部企画委員会及び総務委員会所掌事項のうち、東北本部に関連する事項を所掌し活動してきた。

- ① 東北本部基本運営に関わる事項の企画、立案
- ② 県支部及び委員会・部会の運営に関わる事項の企画、立案
- ③ 会員拡大に関する総合的な計画
- ④ 企業内、大学技術士会等、技術士関連外部団体との連携
- ⑤ 事業計画の立案及び事業報告の作成
- ⑥ 収支予算及び収支決算策定、収支予算執行管理
- ⑦ 名誉会員候補者、会長表彰候補者、本部長表彰候補者の推薦
- ⑧ 各種規定類の会員への周知、内規の制定等

【近年の主な活動実績】

- ① 本部長表彰制度の制定（2022年度制定）
- ② CPD行事等日程共有化システムの導入（2022年度試行開始）

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 東北本部全体運営に関する取組み

- ① 総務委員会の企画機能強化
 - ・総務委員会の運営方法を改善し、各組織の運営方針等を議論できる場とする。
- ② 統括本部部会と東北本部との連携強化
 - ・統括本部の組織改革委員会提言を受け「部会と地域組織との連携強化」の具体方策を検討し、統括本部に対して必要な提案を行う。

4.2 会員サービスの向上

- ① 新たなCPD実施規則等の会員への周知
 - ・CPD関連の規則は数多くあり、また規則改正等の動きも頻繁なため会員への周知を徹底する。
- ② 東北本部CPD委員会機能強化支援
 - ・CPD委員会所掌事項の1つ「委員会、部会主催CPD行事の支援、調整」の実現に向け委員会メンバーの増強などを支援する。

4.3 関係組織との連携強化

- ① 関連学協会とのCPD相互乗入れ検討
 - ・東北本部管内の関連学協会とのCPD共同企画や実施、講師相互派遣などの方策を検討する。
- ② 大学技術士会との連携策検討
 - ・大学との連携協定締結に向けて検討を進める。

4.4 技術士の知名度向上

- ① 外部団体委員等就任支援・管理
 - ・従来以上に組織的な対応を図る。
- ② 小中高校への出前講座等実施支援
 - ・未来の技術者・技術士との接点を持つ。

4.5 安全文化の浸透と恒常化

- ① 大学・高専での技術者倫理講座担当支援
 - ・従来以上に組織的対応を図る。
- ② 安全文化に関わる講演会等の積極的実施

(総務委員会委員長 井口 記)

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

広報委員会

東北本部10年ビジョン実現に向けて

～ 技術士会員活動を持続的に社会へ情報発信する広報活動 ～

広報委員会として、機関誌「GAIA paradigm」及び東北本部ホームページを活用して、社会に貢献する技術士会員の活動を広く社会に情報を発信し、技術士の知名度を向上させることで、東北本部10年ビジョン実現に向けて活動する。

1. 現在の委員構成

委員種別	人数	備考
委員長	1	
会誌検討会委員	10	機関誌企画
広報検討会委員	3	ホームページ企画
各県支部広報委員	6	県支部広報委員長
合計	20	

2. 歴代広報委員長

年度	委員長
1993～1995	玉木 登
1996～1997	渡邊 嘉男
1998～2001	望月 一良
2002～2010	井口 高夫
2011～2016	丹 収一
2017～2018	村上 康裕
2019～	伊藤 貞二



図1. 「GAIAparadigm」

3. 年譜

1996年6月 第1号発行(B5判)
表題:「ガイアパラダイム技術士東北」
発行回数:年間3～4回

1998年 第9号から外部配布開始。

1999年4月 第12号表紙の変更(A4判)

2001年 東北支部ホームページ開設

2005年 東北支部ホームページリニューアル

2008年1月 第46号 表紙及び名称の変更
表題:「GAIA paradigm」--(図1)
発行回数:年間2回

2011年8月 第53号「東日本大震災特集号」

2022年7月 東北本部ホームページリニューアル

2023年9月 第77号
「東北本部設立50周年記念特集号」
・発行部数 2,000部

4. 機関誌タイトル命名の主旨

【機関誌表題:GAIA paradigm】

「GAIA」は、生命体である地球を意味し、「paradigm」は、科学者が普通に理解している考え方・新しいものの見方を意味し、「世界に向けて発信するパワーを秘めた東北の技術士集団の新たな考え」との意味を含めて命名されたものである(図1)。

5. ビジョンに向けた取組み

東北本部10年ビジョン実現に向けて下記の活動を実施する。

5.1 会員サービスの向上

機関誌「GAIA paradigm」を活用した会員への情報発信。

- ・特定部門に偏らない記事の企画・編集
- ・会員に役立つ記事の企画・編集
- ・掲載記事への会員からの意見・感想・提言等の集約

5.2 関係組織との連携強化

行政機関、学校、図書館等への機関誌の外部配布を拡大することで関係組織との連携を深める。

5.3 技術士の知名度向上

- ① ホームページを活用した情報の発信
 - ・自己研鑽(CPD)のための講習会・講演会開催案内の情報発信
 - ・活躍する技術士の事例紹介の拡大
 - ・協賛団体様への情報発信
 - ・アーカイブによる活動履歴の蓄積
- ② マスメディアへの情報の発信
 - ・講習会開催等においては、新聞社等への情報提供を積極的に行い、新聞等への記事掲載による技術士会の活動を社会に広く情報を発信する。

5.4 安全文化の浸透と恒常化

東日本大震災復興10年事業の活動報告を継続的に機関誌へ掲載することで、安全意識の風化を防止する。

(広報委員会委員長 伊藤 記)

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

CPD委員会

CPD行事に充実に向けて

～ CPD行事に充実に向けて ～

1. 現在の状況

発 足	2002年2月
委員数	4名（2023年5月末現在）

委員長 名倉 隆（建設）
 委員 今村 隆広（建設、総合技術）
 委員 齋藤 大介（農業）
 委員 永澤 一也（電気電子）

2. 年譜

- ・2001年4月 CPD（継続教育）がスタート
- ・2002年2月 東北支部CPD委員会発足
- ・2002年4月 CPD実績登録がスタート
- ・2007年2月 技術士第一次試験合格者ガイダンスおよび祝賀会開催（写真1）。※以後、技術士第二次試験合格者研修会および祝賀会等、合格者向けのガイダンス、研修会を毎年実施。
- ・2021年 新・技術士CPD制度スタート
- ・2021年4月26日に発出された大臣通知および9月8日の文部科学省省令改正に基づき、新たに技術士CPD活動実績の管理及び活用制度（新・CPD制度）が始まる。
- ・2021年10月 技術士制度改革の説明会
講師：中川 裕康
（本部技術士制度検討委員会委員長）
- ・2023年1月 東北本部 新春講演会
演題「新・技術士CPD制度」
講師：中川 裕康
（日本技術士会 技術士制度検討委員会委員長）
- ・2023年5月 「CPD参加票」に代わり、「CPD受講証」の運用が始まる。

3. 今日までの歩み

- ・歴代CPD委員会委員長
 永山 克男（2001～2002年）
 橋本 正志（2003～2010年）
 加納 実（2011～2016年）
 井口 高夫（2017～2018年）
 丹 収一（2019～2020年）
 名倉 隆（2021～2022年）

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

- ・東北本部開催CPD行事のWeb配信により、地域格差是正を図り、受講機会を増やす。
- ・東北本部内のCPD行事の参加者状況を分析し、開催主体組織（県支部・部会等）に改善を促す。

4.2 関係組織との連携強化

- ・他組織とのCPD行事情報の共有
- ・共催型CPD行事開催

4.3 技術士の知名度向上

- ・一般参加型のCPD行事開催
- ・関連組織とのCPD行事情報の共有

4.4 安全文化の浸透と恒常化

- ・CPD行事に年間1CPD以上開催



写真1. ガイダンスの様子（2007年2月撮影）

5. 今後に向けて

- ・新・CPD制度の普及に努め、技術士のCPD実績登録管理の登録率を上げる。
- ・東北本部10年ビジョンの実現に向け、CPD行事の充実を図る。会員の受講機会を増やすため、オンラインを活用した講演会等を支援する。また、他組織とのCPD行事の情報共有に努める。
- ・推奨CPDに求められる倫理に関するCPD行事を毎年開催する。
- ・多くの会員がCPD行事に参加できるよう、CPD行事の実施状況、参加人数や内容等を整理し、開催行事等の見直しを検討する。

（CPD委員会委員長 名倉 記）

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

青年技術士交流委員会

脈々と受け継がれる、青年技術士交流の場

～ 創立27年の歩み ～

1. 現在の状況

発 足	1997年4月23日
委員数	8名（2023年5月現在）

2. 年譜

- 1997年4月 日本技術士会東北支部青年技術士懇談会として設立 設立総会実施
- 1997年7月 第1回勉強会開催
テーマ
「仙台高速鉄道誕生のあとさき」
- 2008年6月 「日本技術士会東北支部青年技術士懇談会10周年のあゆみ」を発行
- 2011年7月 「日本技術士会東北本部青年技術士交流委員会」に名称変更
- 2018年11月 第45回技術士全国大会（福島）

3. 今日までの歩み

本委員会は、今年で活動27年目を迎えます。9名の若い技術士有志にて立ち上がった本委員会ですが、これまで延べ80名を超えるメンバーにより脈々と受け継がれ現在に至ります。

本委員会の目的は、設立当初より変わらず「青年技術士による部門を超えた交流の場」を提供するものであります。主な活動は、約2か月に1回の頻度にて開催される委員会+懇親会となっております。

コロナ禍を受け、活動の場をオンラインに移しながらも活動を継続して参りました（写真1）。



写真1. オンラインでの活動の様子

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

今後も、引き続き青年層技術士の有益な交流の場を提供することを目的とします。

修習技術者にも広く門戸を開き、技術士に向けた支援等を行います。また、さらなるステップアップとして、総合技術監理部門への挑戦に係る相互研鑽の場も兼ね備えます。

4.2 関係組織との連携強化

オンライン環境の積極的利用により、技術士全国大会での交流を可能とします。他地域本部青年技術士交流委員会との共催イベントの開催や定期的な意見交換の場を積極的に設けます。また、日本技術士会以外の組織とも連携を図れるような活動を企画します。

4.3 技術士の知名度向上

前項の「関係組織との連携強化」を兼ね、技術士全体の知名度向上につながる活動を行います。その一つとして大学・高専をはじめとした教育研究機関に対する出前授業を実施します。学生の方々に対し、技術士の取組みを紹介することで、キャリアデザインの一助としていただくとともに、若い技術者の意識向上も狙います。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

青年層の技術者の交流をより深めることで、倫理観の高い技術士を育てる場とします。

5. おわりに

コロナ情勢の鎮静化を受け、本来目的に沿った取組みを今後も継続していく所存です。

対面とオンラインを併用しながら県外のメンバーも気軽に参加いただける場を提供いたします。

（青年技術士交流委員会委員長 高橋 記）

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

防災委員会

防災の主流化を担い防災文化の形成に向けて

～ 東日本大震災復興10年事業を通して ～

1. 現在の状況

発足	2003年6月
委員数	9名（2023年5月現在）

防災委員会（当時は防災研究会）は2003年6月に初代会長を神田重雄氏として各部会の委員により組織化された。

2. 年譜

- 2003年6月 防災研究会として発足
- 2006年～2008年 震災対策技術展に出展(写真1)
- 2015年10月 宮城県災害復興支援士業連絡会に加盟
- 2021年7月 東日本大震災復興10年事業2021年シンポジウムを開催
- 2022年7月 2022年シンポジウムを開催

3. 今日までの歩み

防災研究会の発足当時は、宮城県沖地震の備えのための産学官活動が起こり、東北本部では宮城県沖地震対策研究協議会（当時は東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター）に参加し、防災啓蒙に関する活動支援を行った。また、2006年には東北本部と東北福祉大学が「減災力向上のための連携協力に関する協定」を締結し、地域防災力向上のための講師派遣などによりリーダー育成支援を行ってきた。

年譜をみるとおり、2010年までは災害対策を「備え」として活動してきたが、2011年の東日本大震災発生からの5年間は会員の多くが復興業務に従事したこともあり主だった活動ができなかった。

その後は2015年の宮城県災害復興支援士業連絡会に加盟し、他の士業と連携して復興を支援する活動の取組みに従事している。

近年は東日本大震災から10年の節目に復興10年事業を立ち上げ、5年間連続のシンポジウム開催などを通して防災の伝承や減災活動に取り組んでいる。

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

現場見学会や防災委員会活動を通じ、会員の交流機会を設け、人脈形成や資質向上の機会を設ける。防災委員会幹事に若手や女性を積極的に登用し、様々な場面での活躍の機会を増やす。

4.2 関係組織との連携強化

東北本部で加盟している宮城県災害復興支援士業

連絡協議会は他都道府県下の連絡会として全国的に展開されている。このような他の災害時に関連する組織と協働した活動を充実させる。

また、東日本復興10年事業を通じ、災害時または事前防災活動における技術士会に求められる役割を明確にする。このためには、災害時または事前防災活動の様々な場面において、関係組織との事前調整等において、連携強化を図る。

4.3 技術士の知名度向上

一般の方も参加する事前防災等の活動を企画や他の関係する組織との協働活動を実施することで、技術士の知名度向上に努める。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

東日本大震災復興事業の推進や宮城県災害復興支援士業連絡会活動等を通して、防災文化のあり方や安全文化への展望などを築いていく。

事前の防災への投資が災害発生後の復旧・復興に比べてはるかに費用対効果が高い。そのため、事前防災投資や災害発生後の復興段階における抜本的な災害予防施策を、行政だけでなく多様な関係者が役割を十分に発揮して関係者全員で防災に取り組むことが「防災の主流化」や「防災文化の形成」につながる。東日本大震災の復興業務での私たち技術者の努力はまさに「復興知」の創造である。これらは伝承とともに事前防災の構築、災害現場での対応に活かされなければならない。



写真1. 震災対策技術展宮城（ガイア43号より）

（防災委員会委員長 齋藤 記）

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

倫理研究委員会 SGEEの会

G7コミュニケと技術士倫理綱領の改定

1. 現在の状況

発 足	2006年4月1日
委員数	12名（2023年5月現在）

2. 年譜

2000年：4月「技術開発研究会」倫理問題研究会（8月にワーキンググループと改称）佐々木氏による活動開始、11月に第2回開催、2001年4月に技術士法が見直され職業倫理が注目された。

2001年：6回の倫理問題WGが開催された。環境と科学技術者の倫理（日本技術士会訳編、杉本泰治）の事例が研究された。

2002年：8回の倫理問題WGが開催された。

2004年：倫理問題WGを倫理研究委員会に改称

2006年：予算が確保され委員長小野寺氏による技術者倫理シリーズが始まった。また東北学院大学や一関高専への倫理に関する講師紹介。大森氏の「情報倫理を考える」が報告された。

2007年：倫理シリーズで倫理観、企業内倫理、応用倫理等が研究された。

2008年：委員長江平氏により研究事例報告が発表された。以後2015年まで東北大学直江清隆准教授や県技術士会との連携、倫理綱領の改定、東日本大震災における技術者の役割、読書ノート、TSUNAMI（首藤伸夫）について研究がなされた。

2014年：1月に倫理研究会がSGEE（Study Group, Engineering Ethics）の会に改称された。

2016年：委員長名倉氏による富山全国大会、大学における技術者倫理、コロナ禍の対応が報告された。東北学院大学への講師紹介。

3. 今日までの歩み

2022年：委員長末岡によるSDGsの視点での倫理研修、技術士の省令改正の報告があった。改正により技術者倫理を学ぶことが義務化された。統括本部の倫理委員会や日本技術士会登録技術者倫理研究会とも密な情報共有を行っている。

また、山形県支部大岩氏、田村氏からの研修会へ参加や逆に山形県支部開催の倫理ワークショップへの参加、福島県支部への参加も行き連

携して活動が行われている。会員のCPD取得のために議事録の作成や、利便性向上の一環として電子データによる資料配布、投影を行っている。委員の田中氏が東北学院大学への講師として授業を行った。

2023年：読書ノート：会員から提案があり、気候変動と環境危機（グレタ・トゥーンベリ）、共生のプラクシス（中島隆博）、未来倫理（戸谷洋志）、カーボンニュートラルに向かう世界（高村ゆかり）を研究した。渡邊氏からChat-GPTに関する報告があった。

今年、日本はG7の議長国であり、そこでは広島首脳コミュニケが発出された。その内容には多様化、デリスキング、クリーンエネルギー経済への移行、質の高いインフラへの資金提供、SDGs、脱炭素・再生可能エネの加速、包括的なAIガバナンスが挙げられている。

一方、技術士倫理綱領が3月に統括本部で改定された。改定の背景は大規模自然災害、シビアアクシデント、組織ぐるみの不正の多発により技術者倫理に係る重大事象が発生、COP21においてパリ協定が採択された事である。5月30日に東北本部設立50周年記念式典で上記について委員長が講演した。

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

SNSによる発信により会員、各県支部との連携を今後も行っていく。CPD登録を促していく。

4.2 関係組織との連携強化

統括本部、技術者倫理研究会、東北本部、他本部倫理委員会、大学、高専、企業と連携していく。

4.3 技術士の知名度向上

技術士倫理綱領に沿って社会から広く信頼を得た技術士としての活動を行い、活躍が期待される。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

地球規模の環境変化、エネルギー危機、AI、大規模災害、社会環境の変化時での安全文化の倫理対応を研究していく。

（倫理研究委員会 SGEEの会委員長・末岡 記）

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

ITS研究委員会

ITS技術を活かした社会基盤整備

～ 東北における地域課題の解決に向けて ～

1. 現在の状況

発 足	2006年11月
委員数	20名 (2023年5月現在)

2. 年譜

2006年11月	建設部会ITS研究会 発足
	座 長 芝山 正登
2013年01月	ITS研究委員会 設立
	初代委員長 阿部 忠正
2015年07月	委員長 山田 進
2019年07月	委員長 武田 芳丈

3. 今日までの歩み

2006年「東北におけるITS技術を活かした社会基盤整備による社会貢献」を目的に、建設部会内にITS研究会(座長芝山正登)が設立された。

その後、ITSには多部門の技術士が関わることが望まれることから、2013年1月にITS研究委員会が発足し、多部門(建設・電気電子他)の会員26名で委員会活動(初代委員長阿部忠正)を開始した。

委員会活動は、各部門の技術士がそれぞれの専門技術の視野からITS技術の社会実装やその普及方法に関する調査・研究・取組みを以下の活動方針に基づき行っている。

- (1) ITSに関する地域課題の整理・検討
- (2) ITSに関する研修会の開催
- (3) ITSに関する普及啓発
- (4) ITSに関する情報の収集と提供
- (5) その他、目的を達するため必要な活動

なお、「ITS (Intelligent Transport Systems : 高度道路交通システム)」とは、最先端の情報通信技術を用いて、人、道路、車両を繋ぐことにより、交通事故や渋滞等の問題を解決するシステムを指すが、当委員会では、加えてITS関連技術が活用される交通サービス、交通安全、物流、まちづくり、観光、防災等の地域ソリューションの提供を含めた「広義のITS」を対象として活動している。

これまでの主要な活動として次の5項目に取組んだ。①定例会の開催(活動に関する必要事項を決める会議)、②スキルアップ研修の実施(発表グループ毎にITSに関する調査内容を発表し課題について

の意見交換を実施)、③課題検討会の実施(スキルアップ研修等で整理された課題のうち、主要課題についての解決策を検討)④見学会等の開催(事例抜粋:2013東京ITS世界会議、富山市LRT、仙台港高砂コンテナターミナル、東北大学未来科学技術共同研究センター、会津若松市スマートシティ)、⑤オンラインセミナーの開催(テーマ抜粋:コロナ禍による日常的な行動や意識の変化、新時代の高速バス貸切バスと地域社会、行動経済学入門)。



写真1. 委員会発足メンバーによる「2013東京ITS世界会議」参加の様子

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

会員アンケートにより客観的な活動評価を行い、多くの会員の意見や要望を反映して会員サービス(見学会等の開催)の向上を図る。

4.2 関係組織との連携強化

セミナーの合同開催や産学官の講師招聘を通じて関係組織との連携強化を図る。

4.3 技術士の知名度向上

学校や企業等で技術士の役割や技術の重要性を広く啓発するための出前講座等を実施することで技術士の知名度向上を図る。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

ITS技術の社会実装やその普及方法を研究する上で、常に安全を最優先として捉え、技術者倫理向上を意識して活動する。

(ITS研究委員会委員長 武田 記)

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

男女共同参画推進委員会

新生！ 男女共同参画推進委員会

～ 次のステージを目指します ～

1. 現在の状況

発 足	2017年7月1日
委員数	12名（2023年6月現在）

2. 年譜

年月	内容（委員敬称略）	報告
2017年 7月	委員会発足	GAIA 66号
2017年 12月	講演会&パネルディスカッション 「Lifeの中にWorkをおこう！」	GAIA 67号
2018年 8月	平成30年度男女共同参画 推進フォーラム参加	GAIA 68号
2018年 11月	第45回全国大会（福島） 第4分科会企画運営協力	GAIA 69号
2019年 4月	統括本部との連携イベントアンコン シャスバイアスについての勉強会	GAIA 70号
2019年 7月	日本機械学会開催絵画コンテスト お祝いメッセージ協力	—
2019年 11月	男女共同参画推進せんだい フォーラム2019 ブース出展	GAIA 71号
2019年 11月	技術士学習ノート 【東北本部版】作成	GAIA 72号
2020年 11月	男女共同参画推進せんだい フォーラム2020 ブース出展	—
2020年 12月	8団体主催見学会 （小名浜港ほか）	—
2021年 2月	第1回PEレディ交流会開催	GAIA 73号
2021年 10月	第50回日韓技術士 国際会議プレイベント 第14回女性技術士 交流会運営協力	GAIA 74号 PE 663号
2021年 10月	8団体主催オンライン見学会 （成瀬ダム）	GAIA 75号
2022年 2月	「技術士になると人生は変わるか？」 アンケート実施&発表	GAIA 75号
2022年 8月	「改正育児・介護休業法」 についての講演・座談会	GAIA 76号
2022年 10月 12月	建築設備技術者協会東北支部 「設備女子会」交流会 「建築設備士の日」講演会後援	—
2023年 3月	8団体主催見学会 （名取市復興伝承館ほか）	GAIA 77号

3. 今日までの歩み

東北在住の女性技術士と技術士を目指す人たちの相談場所となり、かつ、多くの方に女性活躍に対しての関心を持っていただく機会を提供することを主目的とし、性別に関係なく個人の能力が活かされる社会の実現を目指して活動しています。

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

女性技術士と技術士を目指す人や学生たちとの交流の場「PEレディ交流会」を開催するとともに、講演会や勉強会等の開催により、後進の育成と会員の継続教育に資する活動を展開していきます。

4.2 関係組織との連携強化

（公社）土木学会東北支部、国土交通省東北地方整備局のほか、建築系や機械系の諸団体と協力して一般にも開かれた見学会や意見交換会を開催するとともに、業界内の組織間の交流と連携を深めていきます。

4.3 技術士の知名度向上

学校への出前授業や技術士学習ノートの配布などにより、一般の方や子どもたちに技術士を知らせる活動を継続していきます。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

東日本大震災の教訓の伝承のほか、技術士ならではの技術的な活動や、防災カードやSDGsカード遊びの紹介などを通じて、安全や衛生の啓発とともに、持続可能社会の実現に貢献していきます。

4.5 男女共同参画社会の実現

女性の社会進出及びリーダーへの登用、男性への育児休暇取得促進、イクボスの育成及び推奨など、男女共同参画社会実現のための様々な取組みについての協力を周囲に働きかけていきます。

5. おわりに

新旧委員の交代とともに2023年7月から新委員長になります。次のステージを目指していきますので、今後ご支援をお願いいたします。

（男女共同参画推進委員会委員長 石川 記）

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

ふくしま未来委員会

ふくしまの未来に向かって

～ 第45回技術士全国大会（福島）で発信 ～

ふくしま未来委員会は、つぎの所掌事項を遂行するとともに、会員相互の連携を深めるための活動することを目的として設立した。

- ・ふくしまの現状と未来についての情報収集と討議、諸行事の企画・運営
- ・ふくしま復興に関する国、県等の施策の調査・報告および技術支援、協力

福島県支部とのすみ分けを考慮して、原則、福島県外での行事を催すこととした。設立目的に沿い、2023年度末で終幕する予定である。

1. 現在の状況

発 足	2017年9月28日
委員数	9名（2023年5月現在）

2. 年譜

- 2017年9月 設立総会、初回講演会
「ふくしまの未来に向かって」
講師：上石美咲氏、竹村公太郎氏
（仙台 ㈱ユアテック本社）
- 2018年11月 技術士全国大会（福島）・特別分科会
「ふくしまの未来を考える」
（郡山ビューホテルアネックス）…概要は後述
- 2019年7月 研修会
「再生可能エネルギー普及と環境再生を通して」
講師：佐藤彌右衛門氏、小沢晴司氏
（仙台 ㈱ユアテック本社）
- 2020年9月 研修会
「ふくしまの未来に向けて～再生可能エネルギーの課題と将来」
講師：田村昌徳氏、服部靖弘氏
（仙台 ㈱ユアテック本社）
- 2022年7月 研修会
「ふくしまの将来を担う食と農の動向」
（オンライン配信併用）
講師：生源寺眞一氏、升本早枝子氏、原田英美氏
（ホテルメトロポリタン仙台）
- 2024年1月 フェアウェル講演会
「ふくしまの未来に向けて県外から支援する」
（オンライン配信併用、宮城県管工事会館）〔予定〕

3. 今日までの歩み

〔技術士全国大会（福島）/ 特別分科会〕

2018年11月、郡山市を中心に催した第45回技術士全国大会（福島）の初日午後、特別分科会「ふくしまの未来を考える～未来・創生～」を開いた（写真1）。第1部は、講演「きずなの力」講師：福島大学共生システム理工学類4年生 上石美咲氏（写真2）。第2部は、パネルディスカッションでコーディネータとパネリストは下記の通りであった（写真3）。

- ・コーディネータ：中井勝己氏（福島大学学長）
- ・パネリスト
長澤利枝氏（福島環境カウンセラー協会）
千葉悦子氏（福島大学名誉教授）
丹野純一氏（県立ふたば未来学園高等学校校長）
増田尚宏氏（東京電力HD(株)執行役副社長）
和田 豊（日本技術士会福島県支部、(株)ふたば）



写真1. 特別分科会 会場全景



写真2. 第1部 講演「きずなの力」



写真3. 第2部 パネルディスカッション

（ふくしま未来委員会委員長 赤井 記）

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

建設部会

これまで歩みとこれからの活動

～ 新しい社会・新しい働き方に向けて「専門的応用能力」を発揮 ～

1. 現在の状況

発 足	2001年
会員数	860名 (2023年3月末)

2. 年譜

(1) 歴代部会長

2001年～ 清水 哲 2003年～ 松田泰二郎
 2011年～ 遠藤 敏雄 2017年～ 神田 重雄
 2019年～ 加納 実

(2) 主な活動・協力事業など（発足前を含む）

1986年 プロジェクト「技術開発研究会」発足
 2001年 支部定期総会にて建設部会設立
 2002年 日韓技術士会議（仙台・松島）
 2010年 日本APEC高級実務者会合支援行事
 「国際交流を深めるタウンフォーラム仙台」
 2012年 シンポジウム
 「東日本大震災の復旧・復興に向けて」
 2015年 第3回 国連防災世界会議パブリック
 フォーラム
 2021年 東日本大震災復興10年事業
 日韓技術士国際会議（仙台）

3. 今日までの歩み

建設部会は現在、1,369名の東北本部会員のうち、860名を占める最大の部会である。

全国大会、地域産学官合同セミナー、北東3地域支部交流研修会、日韓技術士会議において建設部会員の積極的な活動をはじめ、独自の研修会、見学会を実施している。この数年は、新型コロナの影響により活動を縮小し、統括本部Web講演や宮城県支部等と合同で現場見学会を実施している。

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

近年公共調達において、CPD活動実績が評価対象となっている。オンラインやオンデマンド研修を増やし、継続的に「高度な専門的知識と応用能力」を習得するための機会として活用する。

テーマとしては、新しい働き方に向けた業務の生産性向上や若手・女性技術者をターゲットとした題材を積極的に取り上げる。また、建設部会幹事に若

手・女性技術者を登用し、HPなどを利用した情報発信についても検討する。

4.2 関連組織との連携強化

統括本部、東北本部内委員会・部会、県支部と相互の役割を明確にし、研修会・見学会を実施するほか、外部諸団体との協力体制を強化する。また、協賛企業や教育機関に対し、技術士会活動のアピールや理解を深めてもらうための取組み（リーフレット作成・出前講座など）を検討する。

4.3 技術士の知名度向上

企業内技術士は、OJTによる知識・技術習得のほか、OFF-JTによって専門的な知識を高める継続的な自己研鑽が必要である。技術士会は、技術者の横断的組織としてOFF-JTによる知識取得を支援する機関であり、その取組みの重要性を産業界や各企業に認知されるよう、広報活動の充実が重要である。また、特定分野での「名称独占資格」から、医師や弁護士のような「業務独占資格」を目指す（例えば、国家プロジェクトになりえる大深度地下構造物の設計・施工など）。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

東日本大震災や台風・豪雨災害など、近年自然災害が多発し、人命や財産に多くの被害が出ており、社会的な影響は増加傾向にある。

技術士は、国民の安全・安心な社会生活を維持するため「強靱な社会インフラの構築」「避難計画と防災教育の実践」「復旧計画や復興計画の策定」などに取組み、「安全文化」として定着するよう貢献することが求められる。また、東日本大震災での国内外から受けた支援の恩返しとして、「防災の主流化、ビルドバックベター」の伝承・実践を南海トラフ、首都圏直下さらには国外も含んだ復興全般に展開する。

4.5 建設部会からの提案

東北本部10年ビジョンに向け、東日本大震災、新型コロナ、激甚災害など激変する社会経済を踏まえてTIME (Technology Information Material Environment) の4要素を組み合わせた戦略を樹立する。

(建設部会 加納、向田、山蔭、柳沢、佐藤 記)

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

農業部会

これまでとこれからと

～ 東北ビジョンに基づく農業部会の今後の展開 ～

1. はじめに

農業部会の発足は、2001年9月28日で、現在の会員数は、136名（2023年3月）となっています。

2. 農業部会のこれまでの歩み

農業部会発足のきっかけは、当時の東北支部の吉川支部長の助言を受けてのものでした。2001年5月に農業部門の選択科目である農業土木の技術士の資格を持つ人達が、技術力の向上のために集まって研修会等を行う「東北農業土木技術士会」を発足させていますが、支部長から東北支部にも農業部会をつくって一緒に活動していこうということから、その中の十数人が集まって部会を立ち上げたという聞いています。部会としての本格的な活動は発足後一年半を経過した2003年4月からとなっています。この年から、現在のスタイルである年3回の研修会が始まっています。3回の研修会は、1回目が年次報告会時に開催する1講演の座学、2回目が1日かけた現地研修会、3回目が2講演の座学となっています。研修会の題材は、その時々々の社会情勢を踏まえた農業部会に関係することや現地研修会では、米の品種改良に関する試験場での見学、東北の自然を学ぶジオパークの見学等多岐にわたりますが、農業農村工学（農業土木）の会員が多いことから農業農村整備事業の建設現場が多い傾向となっています。



写真1. 農業用水路での現地研修会の様子

3. これからの農業部会の取組み

技術士会東北本部50周年の記念式典で、10年後の東北本部の活動をイメージした「東北ビジョン」

が示されました。農業部会もこれを踏まえた活動をしていこうと考えています。それぞれの項目に沿った活動は、以下のとおりです。

3.1 会員サービスの向上

部会としての活動の基本は、会員を増やすことだと考えています。農業部門の選択科目は、畜産、農業・食品、農業農村工学、農村地域・資源計画、植物保護の5科目からなっていますが、会員の85%が農業農村工学の人達です。今後はこれ以外の人達も増やして、広がりのある農業部会にしていきたいと考えています。その取組みの小さな一歩ですが、部会役員構成から初めていこうと考えています。また、座学研修会では仙台市まで来られない会員のためにオンラインシステムでの開催を考えています。

3.2 関係組織との連携強化

技術士資格を取得するためには修習技術者であることが条件となっています。この資格を有するための制度として、JABEE認定制度があります。東北管内の大学でも認定制度を受けている学部・学科がありますので、農業部会として、これら大学へ「技術士」について熱く語る場を設け、交流する機会を設けていきたいと考えています。

3.3 技術士の知名度向上

選択科目の農業農村工学の技術士は、農業農村整備事業の仕事をしている人にとっては、必須の資格となっています。官民を通じて一般の人にも知名度の向上を図っていきたいと考えています。

3.4 安全文化の浸透と恒常化

農業部門の各科目は、まさに食等を通して安全・安心を主体とした科目です。食の安全、災害復旧事業等の仕事を通して、安全で安心な社会の構築に努めていきたいと考えています。

4. おわりに

今後も年3回の研修会を継続させ、会員の技術力向上を図るとともに、ビジョンを踏まえて、農業部会の活動の幅を広げる今後の10年にしていきたいと考えています。

（農業部会会長 山田 記）

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

電気電子部会

電気電子部会の歩みとビジョン実現に向けて

1. 現在の状況

発 足	2003年7月10日
会員数	77名 (2023年6月現在)

2. 年譜

- ・2003年7月 電気電子部会発足
- ・初代から現在までの電気電子部会部会長

2003～2006年度	伊藤 重正
2007～2012年度	櫻井 研治
2013～2016年度	高橋 健二
2017～2020年度	太田 良治
2021～2022年度	佐久間章夫
2023年度～	川野 浩

3. 今日までの歩み

私たちが生活する中で、電気は社会インフラ網において欠かすことのできない存在に変化した。そのなかで電気・電子分野を取り巻く情勢は、多面的に大きな進展を見せ、技術開発においても新たな展開を迎えている。言い換えると、地球環境保全を見据えた大規模発電分野から、近年大きな発展を見せている情報通信分野までを包含し、極めて幅広い分野となり、鳥瞰することすら大変な分野にもなっている。このことから電気電子部会は、大きな研鑽努力が必要となり2003年7月10日に50名の会員で発足され、現在に至っている。



写真1. 2011年11月のWeb講演会の様子
(電気電子部会発足当初から当部会を支えてこられた諸先輩が写る思い出深い写真です)

発足以降の活動内容は、会員への情報提供、会員相互の情報交換とし、他の部会との協調をはかりCPD行事として研修会や見学会を実施してきた。また、2011年3月11日に発生した東日本大震災の電気設備の被害状況を、いち早く本誌53号(2011年8月)に報告できたことは本部会の活動の成果であることと、今後の自然災害の対策の一助になるものと考えている(写真1)。

4. ビジョンに向けた電気電子部会の取組み

4.1 会員サービスの向上

Web会議やオンライン研修などにより、場所や時間に限定されることなく自己研鑽の機会を増やす。また全国の電気電子部門の会員間で情報交換を行う機会を設ける。

4.2 関係組織との連携強化

地域の産・学・官との連携を図り、技術士会と公益活動を協働するなど、他組織と連携した活動を企画し実施する。具体的には公益に資するCPD行事の研修や講演会等を開催する。

4.3 技術士の知名度向上

地域の産・学・官と技術士会が協働した公益活動の実現により、技術士の知名度向上を図る。教育・研究機関(大学・高専等)に技術士をPRし、技術者が目指すべき推奨資格として位置付ける。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

安全文化について学び伝えることで、電気電子部門の業界においても、安全を最優先する技術者、組織またそれを取り巻く環境づくりを目指す。

(電気電子部会部会長 佐久間 記)



東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

応用理学部会

おかげさまで20周年

～ 応用理学部会の今までと今後の取組み ～

1. 現在の状況

発 足	2003年4月1日
会員数	79名 (2023年3月末現在)

2. 年譜

- 2003年4月 設立総会
 部会長 羽竜 忠男
 研修会 (9月と2月)
 現場見学会 (7月)
 特別講演 (総会時の5月) に実施
- 2005年4月 部会長 滝田 良基
- 2007年 技術サロン (年4～5回) 開始
 研修会を11月1回の開催とする
- 2009年4月 部会長 三浦 隆
- 2011年4月 部会長 滝田 良基
- 2011年 天候を考慮し、現場見学会を9月に、研修会を7月とする
- 2014年 公益社団法人化に伴い、総会を年次大会と称する
- 2015年4月 部会長 中里 俊行
- 2019年4月 部会長 黒墨 秀行
- 2023年4月 部会長 尾崎 裕司

* 就任期間は年度 (4～3月) で表示

* 中里氏は2020年9月14日ご逝去、合掌

3. 今日までの歩み

応用理学部会は、2003年4月に設立されて以降、以下の5つを目的とした活動を続けています。

- (1) 専門技術の観点から技術士会に協力する
- (2) 技術士の職業倫理の確立と地位の向上を図る
- (3) 部会員の技術の向上を図る
- (4) 部会員相互の親睦を図る
- (5) 専門技術を通し地域社会へ貢献する

これらの目的を達成するため「防災と環境」をキーワードとしたテーマを設けて、特別講演、研修会、現場見学会及び技術サロンを実施してきました (写真1)。これらの年7～8回のCPD活動数とその内容の質の高さ・興味深さは、誇れるものであると自負しています。これらの20年間の各種活動は、20周年記念誌として取りまとめ、2023年5月の年次大会で部会員等に配布いたしました。



写真1. 記念撮影 スパリゾートハワイアンズ

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

CO₂排出削減が世界的課題となり再生可能エネルギーの重要性が強調されている今日、CPD活動のテーマに「エネルギー」を加え、活動のフィールドを広げていこうと思います。また、運営側に女性を加え、女性技術士も参加しやすい活動を検討・展開したいと考えます。

4.2 関係組織との連携強化

認定NPO法人 防災・減災サポートセンターと連携した活動を継続していきます。また、CPD活動を通じて大学等研究機関との連携を強化し、学生を含めた合同現地見学会などの開催を検討していきます。

4.3 技術士の知名度向上

近年、豪雨災害や地震災害をきっかけに地盤リスクが注目されています。地盤リスクの理解の手助けや対応に関する啓蒙活動などの要請の高まりに対して、応用理学部門の技術士としての知見を活かし、安全安心な社会の実現に向けた活動に、より力を入れていきます。これにより、技術士の認知度や社会的地位の向上に貢献したいと思います。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

東日本大震災を経験した東北本部の中でも「地震」を最もよく知る応用理学部会は、上記の活動や取組みを通して、積極的に「安全文化」の浸透と恒常化に貢献していきたいと思ひます。

(応用理学部 尾崎 記)

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

衛生工学・環境・上下水道部会

エネルギーと環境、廃棄物等を俯瞰する

当部会の部門は、衛生工学部門と環境部門は隣接部門で、英訳もそれぞれEnvironmental eng.とEnvironmentと類似している。また、衛生工学部門の選択科目の2つ・水質管理と建築物環境衛生管理(含、給排水衛生)は、上下水道部門と深いことから3部門合同の部会で発足した。

1. 現在の状況

発 足	2003年9月25日
会員数	100名(2023年5月現在)

2. 年譜(主な行事)

2004年10月	本部衛生工学部会と新エネ見学会・講演会・親睦ゴルフ(仙台市泉区)
2006年12月	本部衛生工学部会と自然エネルギー・凍結等見学会(北海道札幌市等)
2008年7月	本部衛生工学部会と廃棄物不法投棄見学会(香川県豊島・直島・高松)
2008年12月	本部衛生工学部会と合同で豊島産廃不法投棄等シンポ(仙台)(写真1)
2009年10月	全国大会(仙台)に合わせて統括本部3部会と見学会・公開講演会
2011年7月	サンディエゴ州立大学・中村光太郎氏を迎え、災害・復興シンポ(写真2)
2013年10月	全国大会(札幌)に合わせて統括本部衛生工学部会、北海道本部と再エネ熱見学会・講演会
2014年12月	放射性物質中間貯蔵施設セミナー



写真1. 産廃不法投棄シンポ(2008年12月)



写真2. 災害・復興シンポ(2011年7月)

3. 今日までの歩み

年譜以外の行事として、毎年1～2回、東北各地で見学会を開催した。3部門会共通の話題から、エネルギーや環境、廃棄物等をキーワードとした企画が多かった。

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

CPD行事のオンライン配信や県支部との見学会や講演会の共催などにより、CPD行事の受講機会を増やします。またCPD行事の企画や親睦会を通じて、会員同士のコミュニケーションを充実させます。

4.2 関係組織との連携強化

部会に関連する他組織とのCPD行事の共有、または共催などを通じ他の組織との連携強化を図ります。

4.3 技術士の知名度向上

一般の方も参加できるCPD行事の開催または他組織との連携を通じ、技術士会活動をPRし、技術士の知名度向上に努めます。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

安全文化について学び、衛生工学、環境、上下水道分野においてもCPD行事などを通じ安全文化を広く伝えます。

(衛生工学・環境・上下水道部会長 菅原 一、
前部会長 赤井 記)

東北本部のあゆみとビジョン実現に向けたこれからの取組み

技術情報部会

新技術の把握と開発創造促進を継承

～ 先人たちの意思を継承する10年後の技術情報部会の姿 ～

1. 現在の状況

発 足	1985年度
会員数	主要対象部門延べ202名 (2023年3月現在)

2. 年譜

1985年度	技術開発研究会	発足
1998年7月	技術情報部会	設立
	初代部会長	渡邊嘉男
2003年7月	技術情報部会部会長	小野寺文昭
2015年7月	技術情報部会部会長	松野裕二
2021年7月	技術情報部会部会長	丹 取一

3. 今日までの歩み

3.1 技術情報部会の前身「技術開発研究会」発足

技術情報部会は、1985年度に東北支部内に発足された「技術開発研究会」（初代会長杉江政直）が前身である。研究会では、「会員相互の情報交換、異業種交流、研究発表会を行い、これにより新技術の把握と開発創造を図ること」を目的に、12年余り有益な活動を続けてきた。

3.2 技術情報部会設立

「技術情報部会」（初代部会長渡邊嘉男）は、1998年度に設立され、技術開発研究会の目的を継承している。そして、新たに「技術士継続教育プログラム（CPD）」に基づいた活動が追加され、CPD行事の活動を通して、新技術の把握と開発創造を図ることを目指している。

2002年度からは小野寺部会長、2015年度からは松野部会長が中心となり、時代の潮流をにらんだ多様な新技術等をテーマに、年2～5回の講演会・研修会を開催してきた。

その後、2021年度から、東北本部の命を受け、新たに幹事会（12名）を立ち上げ、定例会を開催しながら、先人たちの活動を継承してきている。定例会では、特に次に示した主要対象部門に関連する講演会・研修会の開催・運営方針を検討するとともに、会員間の交流を目指す活動を行ってきている。

01 機械部門 02 船舶・海洋部門 03 航空・宇宙部門 05 化学部門 06 繊維部門 07 金属部門 08 資源工学部門 13 森林部門 14 水産部門 15 経営工学部門 16 情報工学部門 18 生物工学部門 20 原子力・放射線部門

4. ビジョンに向けた取組み

4.1 会員サービスの向上

- ・幹事会メンバーに若手・女性を加え、部会の活性化を図る。
- ・技術士会会員に提供するCPD行事に関して、若手・女性の感性を踏まえたテーマで講演会・研修会を企画・運営するなど、幅広く、多様な会員サービスの向上と会員間の交流を促す。

4.2 関係組織との連携強化

- ・東北本部委員会や部会、支部との連携を図り、合同で講演会・研修会を開催するなど、これをきっかけとした優れた人脈形成を図る。
- ・技術に関する学会・協会、教育機関（大学、高専など）との連携により、CPD行事に講師として参画依頼をかけ、技術士会との関係構築とともに、テーマによっては継続的に講演会・研修会を開催し、技術の深度化を図る。

4.3 技術士の知名度向上

- ・多くの部門を対象とする当該部会のメリットを生かし、時代の潮流にあった多様な新技術等のテーマで、CPD行事を実施・公開することにより、技術士の知名度の向上に貢献する。
- ・CPD行事について、会員以外の技術士資格取得者に対し、講演会・研修会への参加をきっかけとした技術士会への入会を促す。

4.4 安全文化の浸透と恒常化

- ・技術情報部会では、東日本大震災並びに原子力災害を背景に、「安全文化」に関連する技術分野、例えば森林、水産、原子力・放射線、生物工学など多くの関連部門を対象としている。部会では、CPD行事を通じて、広く安全文化の浸透と恒常化を目指した活動を行っていく。

《技術情報部会の主要対象部門》

(技術情報部会部会長 丹 記)

50周年記念事業

東北本部設立 50周年記念式典

1. はじめに

日本技術士会東北本部設立50周年記念式典が、5月30日にホテルモントレ仙台にて開催されました。多くの来賓の方々にご出席を賜り厳粛にまた、有意義な交流の場となりました。司会は広報委員田中が務めました(写真1、2)。ここにその概要を報告致します。



写真1. 会場の様子



写真2. 司会 田中菜摘

2. 日時・場所・参加者

日 時：2023年5月30日(火)
14:00～17:00、17:30～19:30
場 所：ホテルモントレ仙台 3階翠鳴館
(オンライン併用開催)
参加者：会場+Web 173名

3. 東北本部設立50周年記念式典

(1) 東北本部長熊谷和夫氏 開会挨拶

要旨：設立当初22名が50年の間に1400名の会員に育ちました。皆様のご尽力のたまものと存じます。

技術士に求められる社会からの要望に対して、技術士本人へ支援していくことが東北本部の使命として10年ビジョンを作成しました。ビジョンの実現には、皆様のご支援が必要となります。ご協力のほどお願い致します。(写真3)。



写真3. 熊谷和夫本部長 挨拶

(2) 日本技術士会会長寺井和弘氏 祝辞

要旨：設立から50年間の歴代の支部・本部長、そして東北地方の産学官の皆様のご尽力に敬意を表します。技術者倫理はこれからさらに重要となってくるでしょう。プロフェッションの意識を持ち、総合的なより一層の資質向上を目指してまいりましょう。(写真4)。



写真4. 寺井和弘会長 祝辞

(3) 宮城県知事(代読 副知事) 祝辞

要旨：技術士としての品位向上、環境の保全に多大な貢献をされています事、令和3年度からは、震災

からの立ち上がりについて広く世界への発信を継続していただき、ありがとうございます。今後も、貴会の高度な専門知識と応用能力を発揮し宮城県および、東北全体の持続的な発展になお一層のご支援をお願い致します。(写真5)。



写真5. 伊藤哲也宮城県副知事（代読）祝辞

(4) 仙台市長 祝辞

要旨：日頃から仙台市の都市基盤を支えるパートナーとして、街づくりや市政の発展に多大なるご貢献をいただいております事、厚く感謝申し上げます。3.11震災復興、世界からも注目される仙台市の復興は技術士会の皆様の高い技術力が大いに生かされてきたものと認識しております。本日は誠におめでとうございます。(写真6)。



写真6. 郡和子仙台市長 祝辞

(5) 東北経済連合会会長（代読副会長）祝辞

要旨：近年災害が激甚化していく中で、2021年より開始した東日本大震災復興10年事業など、これまでの皆様のご尽力に改めて敬意を表すものがあります。東北・新潟地域で、多数の最先端技術の開発が進められている中で、社会実装を進めるためには、高度な技術と応用能力を有する技術士の皆様が

中核的な役割を担うことが不可欠であり今後連携を強化し、共に取り組んでいきましょう。(写真7)。



写真7. 阿部聡東北経済連合会副会長（代読）祝辞

(6) 東北大学総長 祝辞

要旨：2021年に東日本大震災復興10年事業を開始するなど、復旧・復興の知見と技術を将来に生かすという地域社会に根ざした事業を評価いたします。近年は気候変動、カーボンニュートラルへの流れ、地政学的変化に伴うエネルギー問題など様々な事象が起こる中で革新的な技術開発が求められます。21世紀はデータの世紀ですが、データ記録装置は東北大学からの発出された技術であります。技術の社会実装の現場におられる技術士の皆様と共に、東北大学はグローバルアジェンダの解決、豊かな未来社会の実現を目指したいと考えます。(写真8)。



写真8. 大野英男東北大学総長 祝辞

(7) 来賓紹介（ご挨拶を頂いた方以外の方）

以下の方々の紹介がなされ、ご起立いただき一言ご挨拶を頂きました。

・日本技術士会理事

佐久間章夫 氏（写真9）。

- ・駐仙台大韓民国総領事館総領事 金 要燮 氏
代理 領事 南 京美 氏 (写真10)。
- ・農林水産省東北農政局長 坂本 修 氏
代理 農村振興部長 川村 文洋 氏 (写真11)。
- ・経済産業省東北経済産業局長 戸邊 千広 氏
代理 地域経済部長 小林 和昭 氏 (写真12)。
- ・国土交通省東北地方整備局長 山本 巧 氏
代理 企画部長 中平 善伸 氏 (写真13)。



写真9. 佐久間氏



写真10. 南氏



写真11. 川村氏



写真12. 小林氏



写真13. 中平氏

(8) 東北本部功労者紹介

会長表彰受賞後も引続き東北本部の発展のためにご尽力いただき、東北本部の内規により、昨年度の年次大会で本部長より感謝状を贈呈された方々の紹介がなされ、ご起立いただき一言ご挨拶を頂きました。

- ・吉川 謙造 氏 (写真14)。
- ・渡邊 嘉男 氏 (写真15)。



写真14. 吉川氏



写真15. 渡邊氏

- ・川端 輝男 氏 (写真16)。
- ・吉田 康彦 氏 (写真17)。
- ・柴田 友禧 氏 (写真18)。



写真16. 川端氏



写真17. 吉田氏



写真18. 柴田氏

(9) 日本技術士会と東北本部10年ビジョン

1) 日本技術士会紹介動画

以下の日本技術士会PR動画が会場にて紹介された。①技術士とは、②技術士の専門分野、③技術士を紹介します、④技術士制度の説明。

2) 技術士倫理綱領の改訂について

倫理研究委員会委員長 末岡眞純 氏

要旨：倫理に関するテーマとして国内問題ではグリーン成長戦略・人新世の資本主義・ゆでガエル国家・志向倫理・ChatGPT・対話AI。国際問題では、IPCC報告、カーボンニュートラル、ダイバーシティが挙げられます。この他に、世界とエンジニア・倫理綱領の歴史がテーマとなっています。また、技術士倫理綱領改定については、安全・公益の確保・広く信頼を得てその使命を全うします。そして、安全・健康・福祉の優先、持続可能な社会の実現、信用の保持・有用性の重視・真実性の確保・公正かつ誠実な履行・秘密情報の保護・法令等の遵守・相互の尊重・継続研鑽と人材育成があります。これからの方向性G7広島コミュニケにおける議論はデカップリングではなくデリスキングであります。目指すべき方向はネットワークにおいて海外・他の地域・他の産業を把握、多様性では女性・若人の持続的な参加が重要との講演がなされました。(写真19)。



写真19. 講演の様子

3) 東北本部 50 年のあゆみ

東北本部参与 橋本 正志 氏

要旨：写真で見る東北本部 50 年のあゆみとして 50 年間の歴史について説明がなされました。昭和 48 年～昭和 53 年の支部長は故宮本保氏（平成 7 年に 100 歳になられた時に東北支部の総会にご出席）でした。昭和 54 年～平成 7 年は故杉江正直氏、平成 8 年～平成 9 年北松治男氏、平成 10 年～平成 30 年吉川謙造氏（東北支部⇒東北本部として 20 年間在籍）、そして令和元年～現在の熊谷和夫氏となります。東北支部における最初の日本技術士全国大会は 1983 年の第 10 回大会であり、仙台で開催された。次は 1992 年、技術士補施行 35 周年記念大会として第 19 回技術士全国大会がテーマ「あ（愛）・ゆ（夢）・み（未来）・21－都市と地方の調和・人と自然の和解」として開催された。記念講演は東北大学文学部渡辺信夫部長「海からの文化」にて十三湊の安東水軍の歴史などのお話をいただいた。2000 年の第 27 回技術士全国大会は岩手県盛岡市で、テーマ「今、地球に生きてめざそう 21 世紀に望まれる技術」でした。岩手山が 270 年ぶりに火山活動が活発化した年として記憶されている方もおられるでしょう。2009 年に第 36 回技術士全国大会が仙台開催 3 度目となった。その後、2018 年に第 45 回全国技術士全国大会が福島県郡山市で開催されました。2021 年第 50 回日韓技術士国際会議は、コロナ禍であったことから、韓国と Web を使ったの同時開催となりました。東日本大震災に係る活動の一部として、復興シンポジウムでは発災直後、技術士ならではのさまざまな分野について被害の状況と復興の見通しについて報告していただいた。産学官の有識者による適正な災害廃棄物の再利用についてのシンポジウムも開催されました。他、詳細は当日配布された年譜を参照願います。（写真 20）。



写真 20. 講演の様子

4) 東北本部 10 年ビジョン

東北本部事務局長 滝上 忠彦 氏

要旨：東北本部設立 50 周年を迎えるあたり、東北本部 10 年ビジョンを作成しました。このビジョンの作成は平成 16 年作成の「技術士ビジョン 21」を確認し、日本技術士会東北本部の役割を読み込み再確認、さらに東北本部役員に意見募集を行い、目指すべき将来イメージ（ビジョン）を整理して決定に至りました。今後は各県支部に意見を聴取し、行動計画を立案して年度毎に達成度評価をしていきたいと考えています。技術士ビジョン 21 では、国の姿と技術士像が記載されています。特に日本技術士会の役割と課題という部分について注目しました。また、統括本部と東北本部の役割区分表を作成して、項目ごとに東北本部としての活動範囲を判定して災害への備えと後進育成、教育研究機関との連携強化、若手・女性の活躍の場の創出という役割を決定しました。これを基に、わかりやすい言葉に再分類することを目指して作成したのが、今回作成した東北本部 10 年ビジョンであります。

東北本部 10 年ビジョン (2023)

～ 東北の技術士会が実現すべき将来像 ～

1. 会員サービスの向上

- ・会員の自己研鑽や後進育成のための CPD 行事等が充実している
- ・会員相互の交流が活発に行われ、幅広い人脈形成と人格形成ができる機会が増えている
- ・多くの若手技術士や女性技術士が日本技術士会の活動に積極的に参加している

2. 他団体との連携強化

- ・科学技術に関連する他の学協会等と、公益活動の共催や CPD 行事等に関する相互参加が活発に行われて、協働体制が確立されている
- ・教育・研究機関（大学・高専等）との連携強化が図られ、科学技術の製造と教育、社会実装において、各々の立場から協力している

3. 技術士の知名度向上

- ・技術士は科学技術をもって持続可能な社会の実現に貢献し、その活動が社会に認知されている
- ・技術士・技術士会会員であることが、優れた科学技術と公益を優先した職業倫理を兼ね備えていると社会に認められている
- ・多くの技術者は技術士を目指し、技術士となった際には日本技術士会に入会している

4. 安全文化 (Safety Culture) の浸透と恒常化

- ・大震災と多様な災害を経験した地域本部として、技術士が「安全文化」による技術者倫理を学び、それを広く伝えることで、安全で安心な社会の実現に寄与している

具体的には、1. オンライン活用、東北本部と県支部との共催、関連団体と CPD 行事の共有化、関係団体との共催、CPD 行事の録画。2. 大学等の研究内容を学ぶ機会、農業や理工系学生と技術士との座談会を企画。3. 技術士知名度の低い企業・団体への宣伝活動。企業内技術士の若手会員は、勤務先の理解なしでは活動に参加しにくいことから、会員の技術士活動参加のお礼、部会幹事や委員など会

員職員の派遣要請。4. 技術士が学協会等の広報誌などに記事・論文を載せる際に資格を記載することの徹底、マスコミ（TV・新聞）等で技術士資格を持つ人を取り上げる際、資格（技術士・部門名）を表示、記載のお願い。5. CPD行事で「安全文化」の講習会を実施、大震災を経験した東北の技術士として、すべきことの検討と実施。以上を実現していきます。（写真21）。



写真21. 講演の様子

(10) 東北本部副本部長 遠藤敏雄氏 閉会挨拶
 要旨：東北本部設立50周年式典にあたりまして、ご来賓の皆様、協賛企業の皆様、東北本部技術士会員の皆様のご臨席を賜り記念式典を滞りなく務めさせていただきましたことに心から感謝申し上げます。ご挨拶いただいた言葉に込められました技術士会への期待は、大変光栄なことでありしっかりと受け止め、今回掲げた東北本部10年ビジョンを今後の活動に活かしていきたいと存じます。本日はありがとうございました。（写真22）。



写真22. 閉会の挨拶

(11) 東北本部設立50周年記念祝賀会
 記念式典終了後に、会場を同じくして祝賀会が盛大

に開催されました。コロナ禍明けもあり、多数の方々の参加となりました。（写真23、24）。



写真23. 祝賀会の様子



写真24. 祝賀会の様子

（事務局次長 片岡 記）

資料集 年譜

通算 年号	西暦	和暦	月日	東北本部活動（関連活動を含む）	国内外での主な出来事
1	1973	昭和48年	5月24日 5月30日 10月15日	第15回日本技術士会定時総会で東北支部設立を議決 来賓：仙台商工会議所会頭 科学技術庁政務次官 伊藤宗一郎氏他から花輪の寄贈あり 日本技術士会東北支部設立（正会員22名） 日本技術士会東北支部発会式 事務局 株式会社東北開発コンサルタント（青葉区上杉）	中東戦争にて第一次石油危機 江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞
2	1974	昭和49年		技術士第二次試験 仙台市が試験会場	佐藤栄作ノーベル平和賞受賞，三木内閣発足
3	1975	昭和50年			山陽新幹線全通，沖縄海洋博開催
4	1976	昭和51年			福田内閣発足
5	1977	昭和52年			
6	1978	昭和53年			成田国際空港開港，日中平和友好条約調印 大平内閣発足
7	1979	昭和54年			米中国交樹立，東京サミット開催 第二次大平内閣発足
8	1980	昭和55年			モスクワオリンピック開催（日米中不参加） 鈴木内閣発足
9	1981	昭和56年			福井謙一ノーベル化学賞受賞
10	1982	昭和57年			中曽根内閣発足
11	1983	昭和58年	9月4日	第10回技術士全国大会（仙台市東急ホテル） テーマ「技術士としての使命を自覚し、研鑽に努め地域社会の発展に寄与しよう」	日本海中部地震発生，第二次中曽根内閣発足
12	1984	昭和59年			ロサンゼルスオリンピック開催（ソ連圏不参加）
13	1985	昭和60年		本部正式認可プロジェクトチーム「技術開発研究会」発足	つくば博開催，NTT発足 日航機御巣鷹山墜落
14	1986	昭和61年			東京サミット開催，三原山大噴火 スペースシャトル・チャレンジャー号爆発事故
15	1987	昭和62年			国鉄分割民営化 竹下内閣発足
16	1988	昭和63年			青函海底トンネル運転開始，ソウル五輪開催 本四連絡橋瀬戸大橋開通
17	1989	昭和64年 平成元年		技術士第一次試験 仙台市が試験会場	昭和天皇崩御，北京天安門事件発生 宇野内閣発足，海部内閣発足 ベルリンの壁取り壊し
18	1990	平成2年			東西ドイツ統一，ソ連ソユーズ打上げ 国際花と緑の博覧会（大阪）
19	1991	平成3年	11月1日	第11回地方公共団体職員との合同セミナー（ホテル白萩）150名 テーマ「21世紀へ向けての地域開発と技術開発の展望」	湾岸戦争突入，雲仙普賢岳火砕流発生 ゴルバチョフ大統領来日，宮沢内閣発足
20	1992	平成4年	10月21日	第19回技術士全国大会（仙台市ホテルメトロポリタン）325名 テーマ「あ・ゆ・み（愛・夢・未来）21・都市と地方の調和・人と自然の和解」	スペースシャトル・エンデバー打上げ 天皇，皇后中国訪問，韓国国交樹立
21	1993	平成5年			皇太子ご成婚，EC統合市場発足 江沢民国家主席就任，北海道南西沖地震 細川内閣発足，エリツィン大統領来日
22	1994	平成6年	5月20日	第13回地方公共団体職員との合同セミナー（ホテルリッチ盛岡） テーマ「快適な生活環境の創出と技術者の役割 ～自然環境の保全と景観の創出のために～」105名	羽田内閣発足，英仏海底トンネル開通 村山内閣発足，金日成総書記死去 スペースシャトルコロンビア号打上げ 関西空港が開港 大江健三郎ノーベル文学賞受賞
23	1995	平成7年		第23回日本技術士会東北支部・東北技術士協会定時総会 （ホテル白萩）	地下鉄サリン事件発生，WTO発足 阪神淡路大震災発生，米ベトナム国交樹立

通算 年号	西暦	和暦	月日	東北本部活動（関連活動を含む）	国内外での主な出来事
24	1996	平成8年	2月16日 3月31日 5月17日 6月26日 6月26日	合格祝賀会（仙台第二ワシントンホテル）186名 平成7年度会員名簿発行 800部 第15回地方公共団体職員との合同セミナー（仙台市パレス宮城野） テーマ「開発と環境の創生」109名 第24回日本技術士会東北支部 東北技術士協会定時総会（ホテル白萩） ガイアパラダイム技術士東北（支部・協会合同機関誌）発行	豊浜トンネル崩落事故 O-157大流行 沖縄普天間基地返還で日米合意 橋本内閣発足
25	1997	平成9年	3月31日 4月23日 6月26日	平成8年度会員名簿発行1,000部 青年技術士懇談会設立記念講演会（KKRホテル仙台） 第25回日本技術士会東北支部 東北技術士協会定時総会（ホテル白萩）	5%消費税スタート 香港返還一國二制度 金正日総書記就任
26	1998	平成10年	2月19日 6月26日 7月1日 9月24日 10月6日 11月1日	合格祝賀会（仙台第二ワシントンホテル）187名 平成9年度会員名簿発行 1,000部 第26回日本技術士会東北支部・東北技術士協会定時総会 （江陽グランドホテル） 事務局を株式会社復建技術コンサルタント（青葉区錦町）へ移転 第1回北東（北海道・東北・北陸）3支部技術士交流研修会 （復建技術コンサルタント）テーマ「雪と生活（くらし）」 第18回地域産学官と技術士との合同セミナー（江陽グランドホテル） テーマ「環境文化地域を目指して」112名 会誌の外部配布開始（9～10号 40部）	長野冬季オリンピック開催 韓国金大中大統領就任 明石海峡大橋開通 小淵内閣発足 クリントン大統領 江沢民主席来日 金大中大統領来日
27	1999	平成11年	4月30日 6月24日 7月30日 11月25日	ガイアパラダイムに合格体験記を掲載 第27回日本技術士会東北支部・東北技術士協会定時総会 （江陽グランドホテル）166名 ガイアに技術漫歩掲載 第2回北東3支部技術士交流研修会（北陸本部、新潟市）	トルコ北西部大地震発生、ユーロ通貨発足 朱鷺の国内人工孵化成功 台湾中部（集集）大地震発生 マカオ中国に返還
28	2000	平成12年	5月25日 6月28日 7月25日 9月25日 10月11日	合格祝賀会（江陽グランドホテル）263名 第28回日本技術士会東北支部・東北技術士協会定時総会 （江陽グランドホテル） 青年技術士懇談会第1回勉強会開催（みやぎ婦人会館） 第3回北東3支部技術士交流研修会（北海道本部、札幌市） 第27回技術士全国大会（メトロポリタン盛岡NEW WING）513名 テーマ「今、地球に生きてめざそう21世紀に望まれる技術」	有珠山噴火、森内閣発足 プーチン大統領就任、沖縄サミット開催 金大中大統領と金日成総書記会談 第二次森内閣発足 三宅島雄山大噴火 白川英樹ノーベル化学賞受賞
29	2001	平成13年	1月15日 4月20日 5月18日 6月29日 9月28日 10月25日 11月26日	ホームページ開設 第20回地域産学官と技術士との合同セミナー（ハーネル仙台） テーマ「宮城県沖地震にどう備えるか?」200名 東北農業土木技術士会の設立（会長 増田明德） ガイアパラダイムの外部配布 76か所 103部 第29回日本技術士会東北支部・東北技術士協会定時総会 （江陽グランドホテル） 東北支部農業部会設立総会（部会長 藤森惇一） 第1回技術士研究・業績成果発表会（KKR ホテル仙台） 第4回北東3支部技術士交流研修会（東北支部、仙台市）	小泉内閣発足 野依良治ノーベル化学賞受賞
30	2002	平成14年	6月28日 11月8日 11月17日 10月3日 10月18日	第30回東北支部定時総会（江陽グランドホテル） 第2回技術士研究・業績成果発表会（仙台メディアテーク） 第32回日韓技術士国際会議（仙台・松島）261名 （日本172名、韓国99名） テーマ日本「持続可能な社会における技術士の役割 —技術Utopia—」 韓国「自然順応に基づいた技術倫理の実践」 宮城県技術士協会設立（会長 吉川謙造） （宮城県在住有資格者 674名） 第5回北東3支部技術士交流研修会（北陸本部、新潟市）	ブッシュ大統領訪韓 小柴昌俊ノーベル物理学賞受賞 田中耕一ノーベル化学賞受賞 北朝鮮拉致被害者6名帰還
31	2003	平成15年	3月31日 4月1日 4月11日 6月26日 6月26日 7月10日 8月25日 9月25日 10月4日 11月7日 11月12日	東北技術士協会の解散 県技術士会設立準備（岩手県を除き申請手続き開始） 秋田県技術士会設立（会員数50名） 応用理学部会設立（部会長 羽電忠男） 防災研究会設立（会長 神田重雄） 第31回東北支部定時総会（江陽グランドホテル） 第22回地域産学官と技術士との合同セミナー （郡山ビューホテルアネックス） テーマ「科学技術者の育成を目指して地方からの発信」 ～地方における技術者の育成と活用を考える～ 電気電子部会の発足（部会長 伊藤重正） 宮城県、福島県技術士会設立 衛生工学・環境・上水道部会の発足（部会長 赤井仁志） 第3回技術士研究・業績成果発表会（かんぼヘルスプラザ） 県技術士会設立準備（岩手県技術士会申請手続き開始） 第6回北東3支部技術士交流研修会（北海道支部、札幌） 東北技術士センター企業組合発足（北松治男理事長） （東北技術士協会の解散に伴い新たに発足）	中国 SARS 大流行 胡锦涛主席、温家宝首相就任 第二次小泉内閣発足 スペースシャトル・コロンビア号空中分解事故

通算 年号	西暦	和暦	月日	東北本部活動（関連活動を含む）	国内外での主な出来事
32	2004	平成16年	3月5日 6月25日 6月 11月26日 12月16日	合格祝賀会（ホテル仙台プラザ） 第32回東北支部定時総会（江陽グランドホテル） 岩手県技術士会設立 第7回北東3支部技術士交流研修会（仙台市） 第24回地域産学官と技術士との合同セミナー（青森市）174名 テーマ「バイオマス利活用を進めるにはどうしたらよいか」	陸上自衛隊イラク派遣
33	2005	平成17年	2月4日 3月15日 6月28日 11月2日 10月15日 11月9日	技術士第一次試験合格者への修習技術士ガイダンス 合格祝賀会（ホテル仙台プラザ） 第33回東北支部定時総会（江陽グランドホテル） 第8回北東3支部技術士交流研修会（北陸支部、金沢） 東北支部ホームページリニューアル 東北支部会員拡大推進委員会の発足（委員長 横山正信）	JR福知山線脱線事故 第三次小泉内閣発足
34	2006	平成18年	1月 4月6日 5月31日 9月 10月4・5日 10月13日 3月2日	岩手県技術士会 技術士倫理宣言 東北福祉大学パートナーシップ協約を締結 第34回東北支部定時総会（ハーネル仙台） 株式会社ユアテックに感謝状贈呈 422名（委任状312通） 宮城県技術士会事務局を開設 株式会社仙台設計 第1回震災対策技術展に参加 第9回北東3支部技術士交流研修会（ホテルポールスター札幌） 2007年日韓技術士交流会（韓国ソウル市オリンピックパークホテル） 2007年技術士第二次試験合格祝賀会（KKRホテル）106名	安倍内閣発足
35	2007	平成19年	5月25日 7月15日 9月30日 10月31日 11月21日	第35回東北支部定時総会（パレス平安）431名（委任状339通） 技術士法制定50周年記念行事「東北で活躍する技術士からの発信」 2007年日韓技術士交流会（韓国ソウル市オリンピックパークホテル） 第2回震災対策技術展に参加 第10回北東3支部技術士交流研修会（KKRホテル仙台）	新潟県中越沖地震発生、防衛省発足 能登半島沖地震発生 福田内閣発足
36	2008	平成20年	5月22日 6月16日 9月29日 11月5・6日	第36回東北支部定時総会（パレス平安） 第27回地域産学官と技術士との合同セミナー（宮城県建設産業会館） テーマ「文明の転換と科学技術」293名 2008年日韓技術士交流会参加（新潟日航ホテル） 第3回震災対策技術展に参加	中国四川省大地震、岩手・宮城内陸地震 洞爺湖サミット開催、北京オリンピック開催 麻生内閣発足、郵政民営化、オバマ大統領就任 南部陽一郎、小林誠、益川敏英ノーベル物理学賞受賞、下村脩ノーベル化学賞受賞
37	2009	平成21年	3月13日 6月3日 10月16日 11月6日 10月7日	第11回北東3支部技術士交流研修会（北陸支部、新潟市） 第37回東北支部定時総会（パレス平安） 第36回技術士全国大会（仙台国際センター）700名 社会の安全・安心と技術士との役割～未来創造、東北からの発信～ 第12回北東3支部技術士交流研修会（KKRホテル札幌）75名 第39回日韓技術士会議 （韓国仁川広域市、仁川ハイアットリージェンシーホテル）	衆議院選挙で民主党大勝利 鳩山内閣発足
38	2010	平成22年	4月8日 6月3日 9月21日 10月22日 11月12日	技術士第二次試験合格祝賀会 第38回東北支部定時総会（KKRホテル仙台） 日本APEC仙台高級実務者会合（仙台SOM）支援行事 第30回地域産学官と技術士との合同セミナー（秋田市民交流プラザ） テーマ「地域活性化に向けた技術者の取組み」260名 第13回北東3支部技術士交流研修会（盛岡市プラザおでつて）	チリ地震発生、中国青海省大地震発生 根岸英一、鈴木章ノーベル化学賞受賞 菅直人内閣発足
39	2011	平成23年	4月11日 6月25日 7月15日 9月3日	「社団法人」から「公益社団法人日本技術士会」へ組織変更 第39回東北支部定時総会（ホテルメトロポリタン仙台）480名 技術士第二次試験合格祝賀会 97名 「東北支部」から「東北本部」に組織変更（地域本部制） 「県技術士会」から「県支部」に変更 第14回北東3支部技術士交流研修会（北陸本部、富山市）	東日本大震災、福島第一原子力発電所事故 野田内閣発足、北朝鮮金正日没
40	2012	平成24年	4月24日 6月6日 6月 7月 10月5日	技術士第二次試験合格祝賀会（ホテルメトロポリタン仙台）99名 第40回東北本部年次大会（ホテルメトロポリタン仙台）517名 青森県、秋田県支部設立 福島県、山形県、岩手県、宮城県支部設立 第32回地域産学官と技術士との合同セミナー（山形市） テーマ「東北創生」 212名 第15回北東3支部技術士交流研修会（北海道本部、札幌市）	東京スカイツリー開業 山中伸弥ノーベル医学・生理学賞受賞 中国、習近平政権発足 第二次安倍内閣発足
41	2013	平成25年	6月10日 7月12日 10月3日 11月21日	2012年度技術士第二次試験合格祝賀会（ホテルメトロポリタン仙台） 第41回東北本部年次大会（KKRホテル仙台） 第40回技術士全国大会（札幌ロイトンホテル） 第16回北東3地域本部技術士交流研修会（いわき市）	富士山が世界文化遺産に登録 韓国朴大統領就任

通算 年号	西暦	和暦	月日	東北本部活動（関連活動を含む）	国内外での主な出来事
42	2014	平成26年	1月1日 7月9日 9月5日 10月17日	公益社団法人日本技術士会の略称使用に関する規定施行 第42回東北本部年次大会（ホテル白萩） 第17回北東3地域本部技術士交流研修会（北陸本部、新潟市） 第34回地域産学官と技術士との合同セミナー（ホテルニューカリーナ） テーマ「輝くいわての未来を考える～復興、自立、未来創造～」145名	消費税8%に増税、郵便料金2円値上げ 広島豪雨災害発生 御岳山噴火 赤崎勇、天野浩、中村修二ノーベル物理学賞受賞
43	2015	平成27年	3月17日 3月18日 7月1日 10月 11月6日 12月	第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム（TKPガーデンシティ仙台） テーマ「巨大化する自然災害に備える技術者の役割」 同視察会 3.11震災復興現地視察会（仙台湾南部海岸）39名 第43回東北本部年次大会（KKRホテル仙台） 宮城県災害復興支援士業連絡会に加盟 第18回北東3地域本部技術士交流研修会（北海道本部、札幌市） ホームページリニューアル（広報委員会による）	北陸新幹線開業 マイナンバー制度導入 選挙権年齢18歳に引き下げ 大村智ノーベル医学・生理学賞受賞 梶田隆章ノーベル物理学賞受賞
44	2016	平成28年	6月10日 6月11日 7月7日 7月28日 10月28日	東日本大震災5年事業「公開シンポジウム」 （TKPガーデンシティ仙台AER21階）270名 東日本大震災5年関連行事視察会 「A：福島浜通り」「B：石巻市、女川町」 第44回東北本部年次大会（ホテル白萩） 宮城県と「大規模災害時における被災箇所の復旧に係る助言に関する協定書」を締結（宮城県支部） 第19回北東3地域本部技術士交流研修会（東北本部、仙台市）	熊本地震発生、日銀マイナス金利政策導入 オバマ大統領広島訪問 大隅良典ノーベル医学・生理学賞受賞 糸魚川市大規模火災
45	2017	平成29年	4月 7月 7月6日 9月26日	ふくしま未来委員会発足（委員長 赤井仁志） 男女共同参画推進委員会発足（委員長 石川弘子） 第45回東北本部年次大会（ホテル白萩） 第20回北東3地域本部技術士交流研修会（北陸本部・新潟）	九州北部豪雨発生、トランプ政権発足 韓国、朴大統領罷免、文在寅政権発足 北朝鮮弾道ミサイル発射 衆院選自民大勝、第四次安倍内閣発足
46	2018	平成30年	2月16日 7月5日 10月10日 11月12日	第37回地域産学官と技術士との合同セミナー（仙台） （ホテルメトロポリタン仙台） 第46回東北本部年次大会（ホテル白萩） 第21回北東3地域本部技術士交流研修会（北海道本部・札幌） 第45回技術士全国大会（福島）郡山市 （ホテルハマツ、ビューホテルアネックス）600名	西日本豪雨災害 史上初の米朝首脳会議 長崎天草キリシタン世界遺産へ 北海道胆振東部地震、道内ブラックアウト 本庶佑ノーベル医学・生理学賞受賞 大型台風開閉鎖浸水とタンカー事故
47	2019	平成31年 令和元年	7月4日 9月24日 10月25日	第47回東北本部年次大会（パレス宮城野） 第22回北東3地域本部技術士交流研修会（東北本部・仙台）75名 第39回地域産学官と技術士との合同セミナー（青森）190名	はやぶさ2号、小惑星リュウグウに着地 令和に改元 仁徳天皇陵等の古墳群が世界遺産へ 消費税10%に増税、沖縄首里城が焼失
48	2020	令和2年	7月16日 9月29日	第48回東北本部年次大会 Web開催 日本技術士会東北本部Web講演会 2019年度技術士第二次試験 合格者歓迎講演会 48名	新型コロナウイルス大流行全国緊急事態宣言 菅義偉内閣発足 新型コロナウイルスにより東京オリンピック延期
49	2021	令和3年	6月9日 7月8日 7月16日 10月1日 10月31日	2020年度技術士第二次試験合格者祝賀研修会（東北本部）67名 第49回東北本部年次大会（ホテルメトロポリタン仙台） 東日本大震災復興10年事業2021年事業 テーマ「レジリエンスな社会構築に向けた東北本部からの提案」275名 第41回 地域産学官と技術士との合同セミナー（秋田）251名 第50回日韓技術士国際会議（仙台市）Web開催	東京オリンピック開催 岸田内閣発足 新型コロナウイルス感染続く
50	2022	令和4年	1月1日 4月23日 7月1日 7月4日 7月22日 10月22日 10月29日 11月28日	ガイア74号発行1890部（うち外部配布575部） 技術士第一次試験合格者・JABEE課程修了者ガイダンス 33名 ホームページリニューアル（広報委員による） 第50回東北本部年次大会・第50回記念大会 （ホテルメトロポリタン）110名 東日本大震災復興10年事業2022年事業 テーマ「復興の前にあるべきもの」（仙台メディアテーク）161名 第51回日韓技術士国際会議（韓国）Web開催 第48回技術士全国大会（奈良・関西）（ホテル日航奈良） 第23回北東3地域本部技術士交流研修会（ホテル日航新潟）50名	北京冬季オリンピック開催 福島県沖地震発生 ロシアがウクライナに侵攻 知床観光船沈没事故 安倍晋三元首相銃撃事件 エリザベス女王死去 大谷翔平、ルース以来の2桁勝利、2桁本塁打 村上宗隆 史上最年少56本塁打・三冠王
51	2023	令和5年	1月19日 4月20日 5月30日 7月10日 9月1日 10月20日 10月27日 10月31日	新春講演会（仙台商工会議所） 技術士第一次試験・第二次試験合格者祝賀研修会 （仙台商工会議所）78名 東北本部設立50周年記念式典（ホテルモントレ仙台）150名 第51回東北本部年次大会（仙台商工会議所）80名 ガイアパラダイム東北本部設立50周年記念特集号刊行 第43回地域産学官と技術士の合同セミナー山形 （山形グランドホテル）（予定） 東日本大震災復興10年事業2023事業（コラッセふくしま） テーマ「複合災害の復興に学ぶ～ふくしまからの発信～」（予定） 第24回北東3地域本部技術士交流研修会（ホテルボールスター札幌）（予定）	宇宙飛行士候補に諏訪理氏と米田あゆ氏が選抜 WBC「侍ジャパン」が14年ぶりの世界一 JAXA H3ロケット打上げ失敗 新型コロナウイルス5類へ引き下げ 石川県能登地方を震源とする地震

東北本部管内開催会議のテーマ

技術士全国大会

回	開催年	大会テーマ	開催地 (参加人数)
第10回	1983年	技術士としての使命を自覚し、研さんに努め、地域社会の発展に寄与しよう	仙台市
第19回	1992年	あ・ゆ・み (愛・夢・未来) 21	仙台市 (325)
第27回	2000年	今、地球に生きて めざそう 21世紀に望まれる技術を！！	盛岡市 (513)
第36回	2009年	「社会の安全・安心と技術士の役割」 未来創造、東北からの発信	仙台市 (700)
第45回	2018年	未来技術の創生と展望～巨大災害を生き抜く～	郡山市 (600)

地域産学官と技術士との合同セミナー (旧：地方公共団体職員との合同セミナー)

回	開催年	テーマ	開催地 (参加人数)
【地方公共団体職員との合同セミナー】として開催			
第11回	1991年	21世紀へ向けての地域開発と技術開発の展望	仙台市 (150)
第13回	1994年	快適な生活環境の創出と技術者の役割 ー自然環境の保全と、景観の創出のためにー	盛岡市 (105)
第15回	1996年	快適な生活環境の創出と技術者の役割	仙台市 (109)
【地域産学官と技術士との合同セミナー】として開催			
第18回	1998年	「環境文化地域をめざして」	仙台市 (112)
第20回	2001年	宮城県沖地震にどう備えるか？	仙台市 (200)
第22回	2003年	科学技術者の育成を目指して地方からの発信 ～地方における技術者の養成と活用を考える～	郡山市
第24回	2004年	バイオマス利活用をすすめるにはどうしたらよいか	青森市 (174)
第27回	2008年	「文明の転換と科学技術」ーこれからの技術と技術者の役割ー	仙台市 (293)
第30回	2010年	「資源を活かした地域力の向上」ー資源有効活用の課題と技術者の役割ー	秋田市 (260)
第32回	2012年	『東北創生』社会創生・産業構造・食糧生産の視点から 新しい自立分散型社会システムの創生を考える	山形市 (212)
第34回	2014年	「輝くいわたの未来を考える」～復興・自立・未来創造～	盛岡市 (145)
第36回	2016年	「ふくしまの未来を考える」～未来・創生～	福島市 (122)
第37回	2018年	東北の発展、くらし・産業おこし・まちづくり ～みやぎ・東北の未来像～	仙台市 (130)
第41回	2021年	秋田の元気な未来に向けて ～超スマート社会Society5.0への対応に向けた活動～	秋田市 (251)

日韓技術士国際会議

回	開催年	テーマ	開催地
第32回	2002年	『持続可能な社会』における技術士の役割ー技術ユートピアー	仙台市
第50回	2021年	「もっと知ろう日本、もっと知ろう韓国」	仙台市

北東3地域本部技術士交流研修会（旧：北東3支部技術士交流研修会）

回	開催年	テーマ	開催地
【北東3支部技術士交流研修会】として開催			
第1回	1998年	雪と生活（暮らし）	仙台市
第2回	1999年	すみよい地域づくり	新潟市
第3回	2000年	積雪寒冷地の危機管理	札幌市
第4回	2001年	21世紀の地域づくり～個性的で多様な地域づくりを目指して～	仙台市
第5回	2002年	地域づくりと技術士の役割」地方分権・合併と今後の地域づくり	新潟市
第6回	2003年	【地方自立への課題】～技術士の役割～	札幌市
第7回	2004年	「地域の環境保全技術の現状と課題」～自然と共生する社会を目指して	仙台市
第8回	2005年	気象予測情報によるリスクの低減～予測はどこまで使えるか	金沢市
第9回	2006年	高齢化社会の問題と対策	札幌市
第10回	2007年	テーマなし（新潟中越地震）	仙台市
第11回	2009年	「里山・里海～海は山の恋人一川は仲人一里海、里山を考える	新潟市
第12回	2009年	変革の時代における地域活性化について	札幌市
第13回	2010年	地域活性化に向けた技術者の取組み	盛岡市
【北東3地域本部技術士交流研修会】として開催			
第14回	2011年	地元に根付く産業・技術	富山市
第15回	2012年	地域における技術の役割	札幌市
第16回	2013年	地域の復興・再生	いわき市
第17回	2014年	地域の活性化と規制緩和	新潟市
第18回	2015年	地方創生 一我々、技術士が果たすべき役割一	札幌市
第19回	2016年	地域交流による産業活性化と技術士の役割	仙台市
第20回	2017年	北東アジア地域を中心とした地域間技術交流	新潟市
第21回	2018年	変わりゆく地球環境と技術士の取組み	札幌市
第22回	2019年	若手技術者教育と技術の伝承	仙台市
第23回	2022年	ポストコロナ時代における持続可能な地域社会の創出 ～技術者の果たす役割～	新潟市

東北本部年次大会

回数	年度	タイトル	講演者	役職	開催地
【定時総会】として開催					
第 23 回	1995 年	建設工事と活断層	阿部 正宏	(株)テクノ長谷 相談役	仙台市
第 24 回	1996 年	技術放談-電源一生先輩に学ぶー	大島 達治	技術士 東北緑化環境保全(株) 取締役社長	仙台市
第 25 回	1997 年	「しんかい2000で見た海底温泉と金属資源」 について	中島 和夫	山形大学理学部教授	仙台市
第 26 回	1998 年	「教育と大学と学都仙台への想い」について	倉松 功	東北学院大学学長	仙台市
第 27 回	1999 年	パラダイムシフトと'循環・共生'の企業文化	天明 茂	宮城大学事業構想学部教授	仙台市
第 28 回	2000 年	技術士制度の改正	堀内 純夫	日本技術士会 専務理事	仙台市
第 29 回	2001 年	東北の産業変遷	阿部 友康	河北新報社論説委員会委員長	仙台市
第 30 回	2002 年	「リスクマネジメントの一環として見たコンプ ライアンスについて」 …技術者に求められる倫理観の誠実さとは?…	弓削田 博	弁護士	仙台市
第 31 回	2003 年	世界文化遺産の旅	三木五三郎	東京大学名誉教授 工学博士	仙台市
第 32 回	2004 年	伊達な仙台、街づくり	出雲幸五郎	前 荒町振興組合理事長	仙台市
第 33 回	2005 年	組織・制度改革への行動指針について	清野 茂次	日本技術士会 会長	仙台市
第 34 回	2006 年	食育と食の安全・安心について	本鍛冶千修	東北農政局消費・ 安全部消費・安全調整官	仙台市
第 35 回	2007 年	技術士法制定 50 年			仙台市
第 36 回	2008 年	未来を変えるコミュニケーション術	志伯 暁子	フリーアナウンサー (社) パフォーマンス教育協会 公認カウンセラー	仙台市
第 37 回	2009 年	CSRは企業戦略になり得るか?	針生 英一	ハリウコミュニケーションズ(株) 代表取締役	仙台市
第 38 回	2010 年	宮城県沖地震に関する最新の知見	三浦 哲	東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター 准教授	仙台市
第 39 回	2011 年	地震津波の評価と東日本大震災の津波被害	Suppasri Anawat	東北大学大学院工学研究科 災害制御研究センター 津波工学研究室 Ph.D	仙台市
		災害大国ニッポンからの発信	吉川 謙造	日本技術士会 東北本部 本部長	
【年次大会】として開催					
第 40 回	2012 年	災害と日本人のアイデンティティー	竹村公太郎	(公社) リバーフロント研究所 代表理事	仙台市
第 41 回	2013 年	技術士 C P D 登録上の留意点 ー C P D 定期監査結果を踏まえてー	桜井 福雄	宮城県技術士会 副支部長	仙台市
第 42 回	2014 年	「復興に向けた課題は何か? そして技術士は何が出来るか」	角田 陽介	大船渡市副市長	仙台市
第 43 回	2015 年	「第 3 回国連防災世界会議を終えて ～会議の総括と将来展望～」	柳津 英敬	仙台市まちづくり政策局 まちづくり連携担当部長	仙台市
第 44 回	2016 年	「福島第一原子力発電所の廃炉作業の現状と 今後の取組みについて」	石崎 芳行	東京電力ホールディングス(株) 代表執行役副社長福島復興 本社代表	仙台市
第 45 回	2017 年	「東日本大震災からの復旧・復興について」	遠藤 信哉	宮城県公営企業管理者 (前 宮城県土木部長)	仙台市

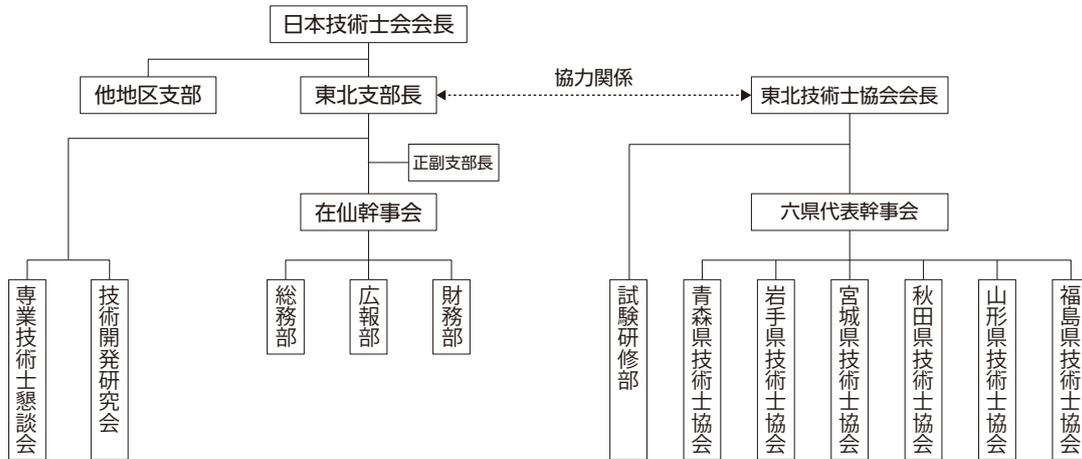
回数	年度	タイトル	講演者	役職	開催地
第46回	2018年	「レジリエンスエンジニアリングと持続可能な開発目標(SDGs)」	北村 正晴	(株) テムス研究所 代表取締役 所長 東北大学名誉教授	仙台市
第47回	2019年	「食と農の安全認証の現段階 -福島大学食農学類の取組み-」	小山 良太	福島大学 食農学類 教授	仙台市
第48回	2020年	開催無し			
第49回	2021年	東日本大震災から10年、大災害に備えるための技術士の役割とは	五十嵐 敬喜	法政大学名誉教授	仙台市
第50回	2022年	技術者の役割・未来 プロフェッションの確立と社会貢献	寺井 和弘	日本技術士会 会長	仙台市
		技術士50年	吉川 謙造	東北本部 本部長	

東日本大震災復興10年事業

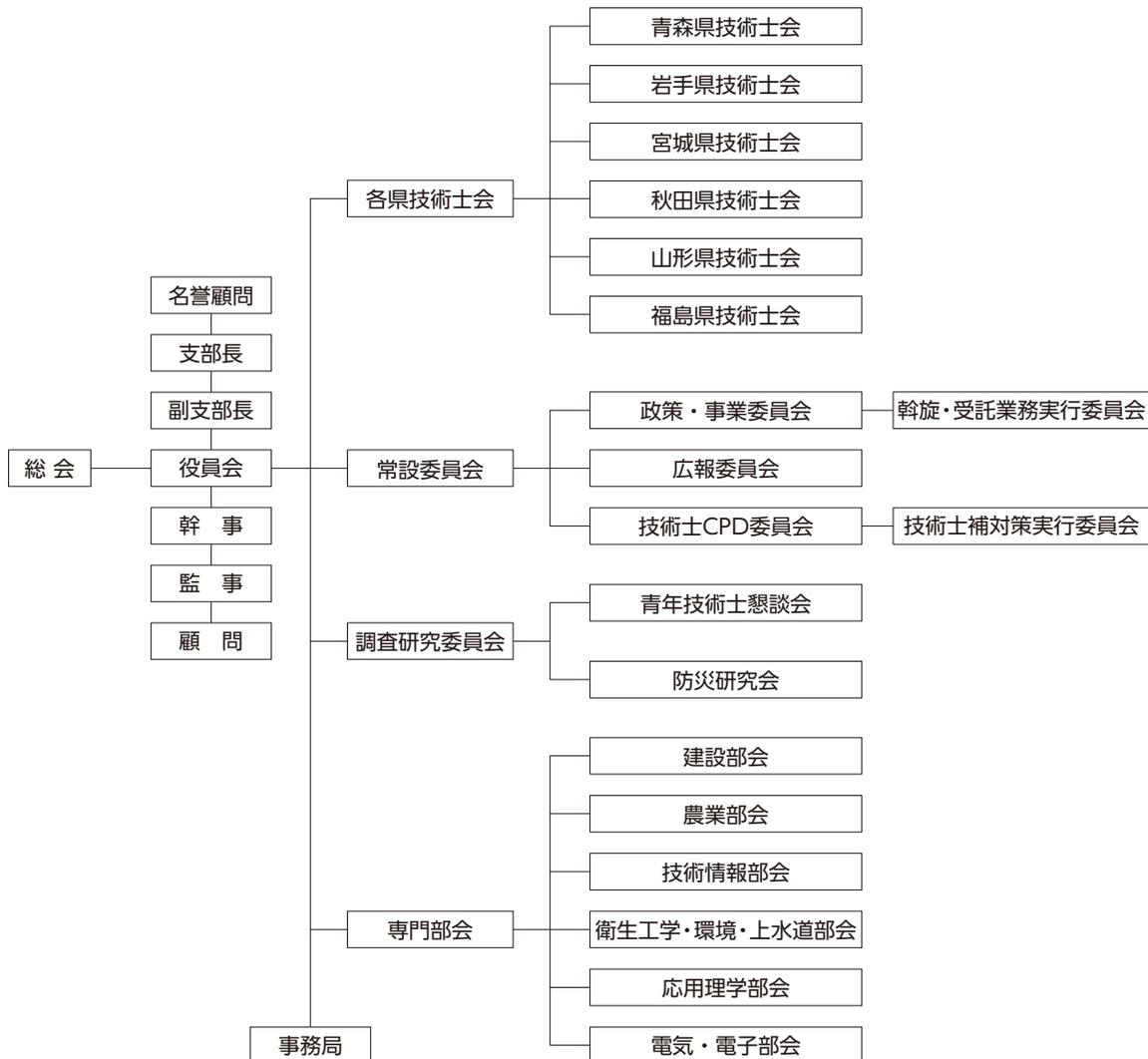
回	開催年	テーマ	開催地
第1回	2021年	レジリエンスな社会構築に向けた東北本部からの提案	仙台市
第2回	2022年	～復興の前にあるべきもの～ 宮城県災害復興支援士業連絡会の活動を通して	仙台市
第3回	2023年	複合災害の復興に学ぶ ～ふくしまから発信～	福島市

資料集 東北本部組織の変革

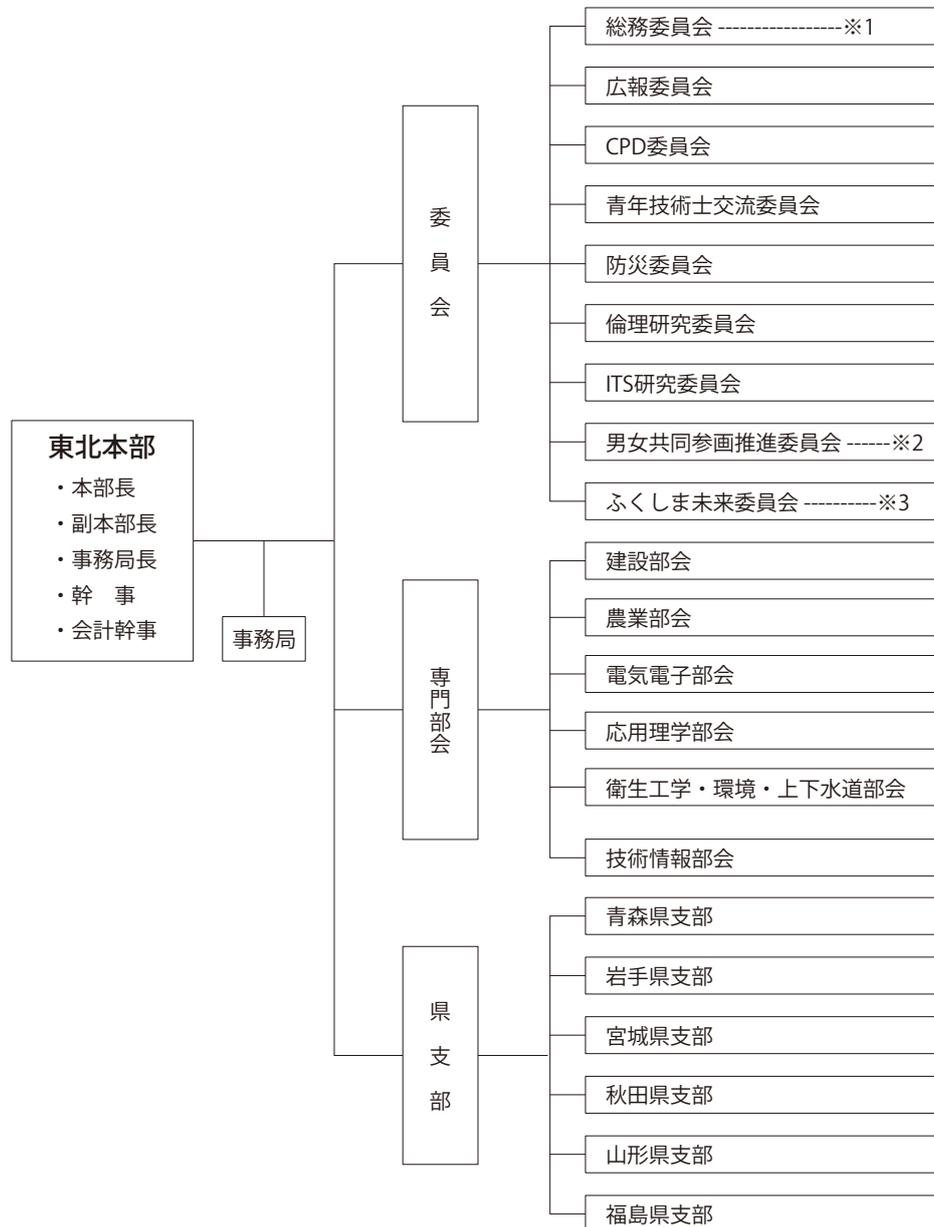
① 日本技術士会東北支部、東北技術士協会 1997 年（平成 9 年）



② 日本技術士会東北支部 2004 年（平成 16 年）～2011 年（平成 23 年）



③ 日本技術士会 東北本部2012年（平成24年）～2023年（令和5年）



※1：2021年に政策委員会から総務委員会へ名称変更

※2：2017年に新設

※3：2017年に新設

資料集 名簿

① 本部理事、東北支部、東北本部役員

年度 (東北支部)	理事 (東北)	理事 (部会)	支部長	副支部長	副支部長	副支部長	副支部長	副支部長
1973年	昭和48年							
1974年	49年							
1975年	50年							
1976年	51年	宮本 保	宮本 保					
1977年	52年							
1978年	53年							
1979年	54年							
1980年	55年	柴田安恵						
1981年	56年			千葉善巳				
1982年	57年							
1983年	58年							
1984年	59年	杉江正直						
1985年	60年							
1986年	61年							
1987年	62年		根本 清	杉江正直				
1988年	63年	長谷弘太郎		三澤寅和鹿	長谷弘太郎			
1989年	平成元年							
1990年	2年							
1991年	3年							
1992年	4年	吉川謙造						
1993年	5年							
1994年	6年					河野道信	吉川謙造	北松治男
1995年	7年	河野道信						
1996年	8年		北松治男					
1997年	9年				根本 清	吉川謙造		
1998年	10年	四戸立男		四戸立男				
1999年	11年					今井宏信	佐藤健一	
2000年	12年							
2001年	13年							
2002年	14年	今井宏信						
2003年	15年							
2004年	16年		吉川謙造		今井宏信			
2005年	17年							
2006年	18年	渡辺敬藏						
2007年	19年			附田守弘	吉田康彦			
2008年	20年							
2009年	21年	岸波照雄			平井良一			
2010年	22年							
年度 (東北本部)	理事 (東北)	理事 (部会)	本部長	副本部長	副本部長	副本部長	副本部長	副本部長
2011年	平成23年	岸波照雄		原田邦治	平井良一			
2012年	24年				長尾 晃			
2013年	25年							
2014年	26年	櫻井研治	吉川謙造	藤島芳男	原田邦治			
2015年	27年				村上 功	長尾 晃		
2016年	28年							
2017年	29年	三浦康二			田森 宏	熊谷和夫		
2018年	30年							
2019年	令和元年	熊谷和夫		遠藤敏雄		三森和裕		
2020年	2年		熊谷和夫		井口高夫			
2021年	3年	佐久間章夫				畠 良一		
2022年	4年							

② 東北支部各県会長、東北本部各県支部長及び事務局長他

年度 (東北支部)		青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	庶務	会計	総務	事務局
1973年	昭和48年										
1974年	49年										
1975年	50年										
1976年	51年										
1977年	52年										
1978年	53年										
1979年	54年										
1980年	55年										
1981年	56年							末永 信			
1982年	57年										
1983年	58年										
1984年	59年				松本秀三				相澤千秋		
1985年	60年					吉田 公			鈴木 武		
1986年	61年										
1987年	62年										
1988年	63年										
1989年	平成元年	相馬國基				今井宏信	梅津誠司	鈴木 武	吉川謙造		
1990年	2年										
1991年	3年										
1992年	4年										
1993年	5年	佐藤健一	四戸立男							守屋資郎	
1994年	6年										
1995年	7年	三上禮三郎									
1996年	8年										
1997年	9年				太田 規		大堀 浩			今井宏信	
1998年	10年	佐藤健一				土生乱平					
1999年	11年										
2000年	12年										
2001年	13年										
2002年	14年		保 憲一								
2003年	15年			吉川謙造							
2004年	16年										川端輝男
2005年	17年	附田守弘	長澤 幹	井上英雄			平井良一				
2006年	18年										
2007年	19年										
2008年	20年		村上 功	吉田康彦		本田康夫					
2009年	21年				佐々木俊吉						橋本正志
2010年	22年										
年度 (東北本部)		青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県				事務局
2011年	平成23年										
2012年	24年	原田邦治			佐々木俊吉	安彦宏人					
2013年	25年		村上 功	藤島芳男			長尾 晃				橋本正志
2014年	26年										
2015年	27年	八木橋実									
2016年	28年				田森 宏						
2017年	29年					三森和裕					
2018年	30年	馬渡光章									
2019年	令和元年		小野寺徳雄	遠藤敏雄			畠 良一				滝上忠彦
2020年	2年				菊池 豊						
2021年	3年					須藤勇一					
2022年	4年	八木澤聡									

③ 研究会等会長、委員会委員長

年度 (東北支部)		技術開発研究会	斡旋・受託 務実行委員会	政策事業 委員会	広報委員会	技術士CPD 委員会	青年技術 士懇談会	防災研究会	技術開発 研究会			
1973年	昭和48年											
1974年	49年											
1975年	50年											
1976年	51年											
1977年	52年											
1978年	53年											
1979年	54年											
1980年	55年											
1981年	56年											
1982年	57年											
1983年	58年											
1984年	59年											
1985年	60年											
1986年	61年											
1987年	62年											
1988年	63年											
1989年	平成元年											
1990年	2年	杉江政直										
1991年	3年											
1992年	4年											
1993年	5年											
1994年	6年					玉木 登						
1995年	7年											
1996年	8年											
1997年	9年					渡邊嘉男		永井一徳				
1998年	10年		吉川謙造									
1999年	11年											
2000年	12年					望月一良						
2001年	13年							佐々木甲也				
2002年	14年						永山克男					
2003年	15年											
2004年	16年				加納 実							
2005年	17年							藤川洋一	神田重雄	小野寺文昭		
2006年	18年				横山正信							
2007年	19年			佐々木甲也		井口高夫	橋本正志					
2008年	20年						佐々木真					
2009年	21年			長沢和夫				齋藤 明	江平英雄			
2010年	22年						開米浩久					
年度 (東北本部)			斡旋・受託 務実行委員会	政策事業 委員会	総務委員会	広報委員会	CPD委員会	青年技術士 交流委員会	防災委員会	倫理研究 委員会	ITS研究 委員会	
2011年	平成23年		佐々木甲也					開米浩久	齋藤 明			
2012年	24年									江平英雄		
2013年	25年			長沢和夫		丹 収一	加納 実				阿部忠正	
2014年	26年							堀内 深	神田重雄			
2015年	27年											
2016年	28年											
2017年	29年			熊谷和夫		村上康裕	井口高夫			名倉 隆	山田 進	
2018年	30年							齋藤大介				
2019年	令和元年			井口高夫			丹 収一		齋藤 明			
2020年	2年					伊藤貞二					武田芳丈	
2021年	3年						名倉 隆					
2022年	4年				井口高夫			高橋秀輔		末岡眞澄		

④ 委員会委員長 部会部会長

年度（東北支部）				建設	農業	電気電子	衛生・環境・ 上下水道	応用理学	技術情報
1973年	昭和48年								
1974年	49年								
1975年	50年								
1976年	51年								
1977年	52年								
1978年	53年								
1979年	54年								
1980年	55年								
1981年	56年								
1982年	57年								
1983年	58年								
1984年	59年								
1985年	60年								
1986年	61年								
1987年	62年								
1988年	63年								
1989年	平成元年								
1990年	2年								
1991年	3年								
1992年	4年								
1993年	5年								
1994年	6年								
1995年	7年								
1996年	8年								
1997年	9年								
1998年	10年								
1999年	11年								
2000年	12年								渡邊嘉男
2001年	13年			清水 哲					
2002年	14年				藤森惇一	伊藤重正			
2003年	15年							羽電忠男	
2004年	16年								
2005年	17年								
2006年	18年			松田泰二郎	増田明德		赤井仁志	滝田良基	小野寺文昭
2007年	19年				奥田統朗	櫻井研治			
2008年	20年								
2009年	21年								
2010年	22年				信濃安重			三浦 隆	
年度（東北本部）		男女共同 参画推進	ふくしま未来	建設	農業	電気電子	衛生・環境・ 上下水道	応用理学	技術情報
2011年	平成23年				信濃安重	伊藤重正			
2012年	24年							滝田良基	小野寺文昭
2013年	25年			遠藤敏雄	中野芳雄		赤井仁志		
2014年	26年					高橋健二			
2015年	27年				永倉正俊				
2016年	28年							中里俊行	
2017年	29年			神田重雄	畠山公男				松野裕二
2018年	30年					太田良治			
2019年	令和元年	石川弘子	赤井仁志		霰石和夫		菅原 晃		
2020年	2年			加納 実				黒墨秀行	
2021年	3年				山田育夫	佐久間章夫			丹 収一
2022年	4年								

⑤ 幹事・会計監査（会計幹事）

年度（東北支部）		会計監査		幹事 1	幹事 2	幹事 3	幹事 4	幹事 5	幹事 6	幹事 7	幹事 8	幹事 9	
1973年	昭和48年												
1974年	49年												
1975年	50年												
1976年	51年												
1977年	52年												
1978年	53年												
1979年	54年	三澤寅和鹿	角田久人	北沢秀雄	五十嵐貞男	長谷弘太郎	庄司誠一						
1980年	55年												
1981年	56年												
1982年	57年												
1983年	58年												
1984年	59年	安藤喜平治	扇 萬吉	坪内芳夫	根本 清	芳賀 宏	土方恕哉	若山萬壽夫	傳田勲郎	成田康介			
1985年	60年												
1986年	61年												
1987年	62年												
1988年	63年												
1989年	平成元年												
1990年	2年												
1991年	3年												
1992年	4年												
1993年	5年												
1994年	6年												
1995年	7年												
1996年	8年												
1997年	9年												
1998年	10年												
1999年	11年	鎌田正孝	本田忠明	佐々木甲也	齋藤武範	北原 賢	川端輝男	岸波輝雄	渡邊嘉男	望月一良	永井一徳	加納 実	赤井仁志
2000年	12年			平野節夫	会津正人	芳賀 宏	岸波輝雄		渡邊敬藏	加納 実			
2001年	13年	守屋資郎	本田忠明	加納 実	会津正人	芳賀 宏	岸波輝雄	渡邊敬藏	赤井仁志	井上英雄	齋藤武範	北原 賢	
2002年	14年			渡邊一也	阿部忠正	糠沢公二	渡邊敬藏	江平英雄	高橋正雄	岩永 隆	桂 利治	佐々木俊吉	
2003年	15年	有馬義二	高橋政雄	岸波輝雄	佐藤 啓	豊澤一浩	渡邊敬藏	江平英雄					
2004年	16年												
2005年	17年												
2006年	18年	中野芳雄	渡邊敬藏	藤島芳男	安彦宏人	柴田友禱	関口光司	長尾 晃					
2007年	19年												
2008年	20年	後藤徳男	林崎吉克	佐藤 靖	有地裕之	今西 肇	速藤信哉	佐々木源	櫻井 睦	齋藤武範	今村隆弘	渡邊將之	
2009年	21年												
2010年	22年												
年度（東北本部）		会計幹事		幹事1	幹事2	幹事3	幹事4	幹事5	幹事6	幹事7	幹事8	幹事9	
2011年	平成23年	中野芳雄		井口高夫	神田重雄		関口光司	長尾 晃	角田五郎				
2012年	24年			渡邊敬藏	佐々木甲也		柴田友禱	信濃安重	角田五郎	草野 信			
2013年	25年	嶋山公男	渡邊敬藏	岸波輝雄									
2014年	26年												
2015年	27年	小林昭雄	柴田友禱	長沢和夫	小山田孝一		小林 勝	吉田康彦	熊谷和夫	中野芳雄			
2016年	28年												
2017年	29年	後藤徳男	林崎吉克	佐藤 靖	有地裕之	今西 肇	速藤信哉	佐々木源	櫻井 睦	齋藤武範	今村隆弘	渡邊將之	
2018年	30年												
2019年	令和元年												
2020年	2年												
2021年	3年												
2022年	4年												

会長表彰受賞者一覧表（東北本部）

入会歴が10年以上であって、地域本部、支部、部会若しくは委員会活動を通じて本会の発展に著しく貢献のあった正会員

※1 部会推薦受賞者

年度	1	2	3	4	5	6	7	8 ※1	
1982年	昭和57年度	庄司 誠一							
1983年	昭和58年度	末永 信							
1984年	昭和59年度	長谷弘太郎							
1985年	昭和60年度								
1986年	昭和61年度	北沢 秀雄							
1987年	昭和62年度	扇 萬吉						根本 清	
1988年	昭和63年度	四戸 立男							
1989年	平成元年度								
1990年	平成02年度								
1991年	平成03年度	鈴木 武							
1992年	平成04年度	梅津 誠司							
1993年	平成05年度	相馬 國基							
1994年	平成06年度	佐藤 健一							
1995年	平成07年度	北原 五郎							
1996年	平成08年度	芳賀 宏							
1997年	平成09年度	土方 恕哉							
1998年	平成10年度	吉川 謙造							
1999年	平成11年度	安藤喜平治							
2000年	平成12年度	土生 丸平	小野 造成						
2001年	平成13年度	守屋 資郎	本田 忠明						
2002年	平成14年度	今井 宏信	渡辺 敬藏						
2003年	平成15年度	大堀 浩	鈴木 多賀						
2004年	平成16年度	佐藤 隆	渡邊 嘉男	北松 治男					
2005年	平成17年度	羽電 忠男	川端 輝男						
2006年	平成18年度	江平 英雄	太田 規						
2007年	平成19年度	岸波 輝雄	佐々木甲也						
2008年	平成20年度	井口 高夫	橋本 正志	小野寺文昭					
2009年	平成21年度	吉田 康彦	井上 英雄	松田泰二郎	長澤 幹	滝田 良基		赤井 仁志	
2010年	平成22年度	永井 益	松田 栄一	安彦 宏人	今野 隆彦	岩淵 善弘	加納 実	小関 恒夫	櫻井 研治
2011年	平成23年度	大森 信夫	吉岡 邦男	半田 敏久	岡田 誠之	佐藤 一夫	藤島 芳男		
2012年	平成24年度	三上禮三郎	井上 憲治	高橋 弘蔵	樽井 良一	平井 良一	長尾 晃	瀬川 恭	
2013年	平成25年度	遠藤 敏雄	丹 収一	神田 重雄	佐々木俊吉	糠沢 宏二	渡辺 豊彦	鈴木 正孝	
		附田 守弘	福士 豊	中里 俊行	角田 五郎	高田 泰英	藪田 直右	芳賀 壮一	
2014年	平成26年度	新沼 正彦	高橋 健二	櫻井 福雄	阿部 忠正	本田 康夫			
2015年	平成27年度	信野 安重	柴田 友禧	太田 勝之	下田啓太郎	中島 威			
2016年	平成28年度	中村 光作	佐々木洋治	櫻田 隆夫	白井 康博				
2017年	平成29年度	長沢 和夫	関口 光司	瀬尾 勝之	高松 和雄	石井 知征			
2018年	平成30年度	畠山 公男	原田 邦治	村上 功	太田 良治	岡崎 司			
2019年	令和元年度	今西 肇	梅津 齋	庄司 貞夫	出口 清悦	中野 芳雄			
2020年	令和02年度	松野 裕二	馬渡 光章	田森 宏	丸山 修	小林 昭雄			
2021年	令和03年度	齋藤 明	柳沢 新市	三森 和裕	畠 良一	守山 寛	大岩 敏男		
2022年	令和04年度	伊藤 貞二	石川 弘子	幡野 玲二	小関 憲一	齋藤 浩	押見 和義	小山田孝一	
2023年	令和05年度	佐藤 靖	名倉 隆	林崎 吉克	叶内 榮治	菊地 豊	相田喜一郎	太田 恵一	

東北本部長歴代表彰者

顕彰区分	顕彰種別	組織区分	推薦組織	2022年度	2023年度	
				氏名又は会社名	氏名又は会社名	
表彰状授与	第1号表彰状 (会務貢献)	東北本部		林崎 吉克		
		各県支部	青森県支部	池本 栄一	嶋本 勝	
			宮城県支部	中村鐵太郎	岸 憲之	
				叶内 榮治	平間 光雄	
				梶谷 真	森井 淳司	
		各県支部	秋田県支部	菊地 豊	加澤 隆昌	
			山形県支部	小島一二三	豊島 良一	
				上村 裕司	秋山 純一	
			福島県支部	佐藤 國裕	長尾 晃	
		地域委員会	倫理研究委員会	中田 嘉久	八巻 誠一	
				名倉 隆	末岡 真純	
				技術部会	電気電子部会	田代 良二
					農業部会	山田 育夫
		衛生工学・環境・ 上下水道部会	菅原 晃			
			安藤 政之			
			河村 芳男			
表彰状授与合計				16名	11名	
感謝状贈呈	第1号感謝状 (会務貢献)	東北本部		吉川 謙造		
				渡邊 嘉男		
				吉田 康彦		
				川端 輝男		
				吉川 毅		
		地域委員会	広報委員会	柴田 友禧		
	合計		6名			
	第2号感謝状 (協賛支援)	各県支部	青森県支部	東北建設コンサルタント(株)	(株)コンテック東日本	
			岩手県支部	東北エンジニアリング(株)	(株)土木技研	
			宮城県支部	(株)復建技術コンサルタント		
				(株)ユアテック		
秋田県支部			(株)創研コンサルタント			
山形県支部			(株)田村測量設計事務所			
福島県支部			日栄地質測量設計(株)	(株)東日本建設コンサルタント		
合計		7社	3社			
感謝状贈呈合計				13件	3件	

東北本部締結協定等

外部団体委員会への委員派遣

就任日	委員会名	委員	所属
2015年11月1日	宮城県建設工事紛争審査会	石川 弘子	東北本部
2017年7月11日	ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会	長尾 晃	福島県支部
2021年11月19日	八戸工業大学 外部評価 委員会	馬渡 光章	青森県支部
2021年6月1日	山形県コンクリート品質管理監査会議	河内 功	山形県支部
2023年6月16日	大崎地域広域行政事務組合 一般廃棄物処理施設整備有識者会議	佐々木 源	東北本部

公的団体への入会

入会日	団体名	入会者
2015年10月	宮城県災害復興支援士業連絡会	日本技術士会東北本部
2022年2月16日	地方創生SDGs官民連携プラットフォーム	日本技術士会東北本部
//	東北5Gデジタル変革推進フォーラム	日本技術士会東北本部

協定の締結

締結日	協定名	締結者
2006年4月6日	東北福祉大学パートナーシップ協約	東北本部長
2016年7月28日	宮城県との大規模災害時における被災箇所の復旧に係る助言に関する協定	宮城県支部長
2016年9月26日	八戸工業大学と青森県支部との連携・協力に関する協定	青森県支部長

地域への貢献

青森県支部

対象機関	概要
県内の測量設計および建設コンサルタント会社に勤務する技術者	2003年～2012年 技術士第一次試験受験対策セミナーへの講師の推薦
技術系の県職員および県内自治体の技術系職員	2009年～2022年 道路計画研修への講師の推薦
県内の建設会社、測量設計および建設コンサルタント会社に勤務する技術系職員	2013年～2015年 1級土木施工管理技術試験・実地試験対策への講師の推薦

岩手県支部

対象機関	概要
技術士会会員、県民	2012年～2022年 講演会の開催（シリーズ岩手を知る第1回～第25回）
県民	2016年～2022年 いわてサイエンスシンポジウムへの出展（いわてまると科学館）

宮城県支部

対象機関	概要
技術士会会員、一般市民	2005年～2022年 環境対応セミナーの開催（環境委員会が主催）
仙台市都市整備局技術管理室 宮城県測量設計業協会	2021年～2022年 「公共土木施設災害対応研修会」へ防災委員会が「出前講座」として参加

秋田県支部

対象機関	概要
秋田工業高等専門学校	2017年～2019年 専攻科1、2年生対象の「技術士制度と一次試験・二次試験の概要」研修会への講師の推薦
秋田県立大学	2020年～2022年 生物資源科学部1、2年生対象の食の6次産業化プロデューサー講座への講師の推薦
聖霊女子短期大学	2020年～2022年 健康栄養専攻学生への食品学講義への講師の推薦
県民	2020年～2022年 秋田県主催発酵カレッジ講義への講師の推薦

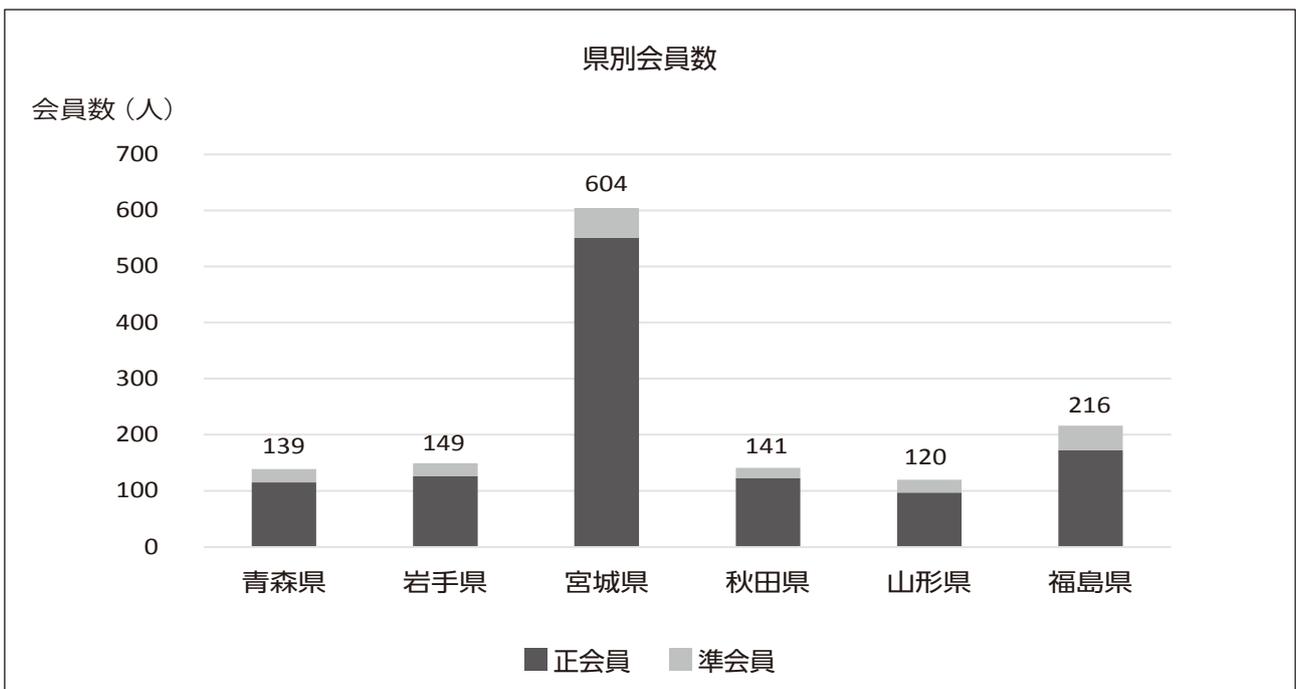
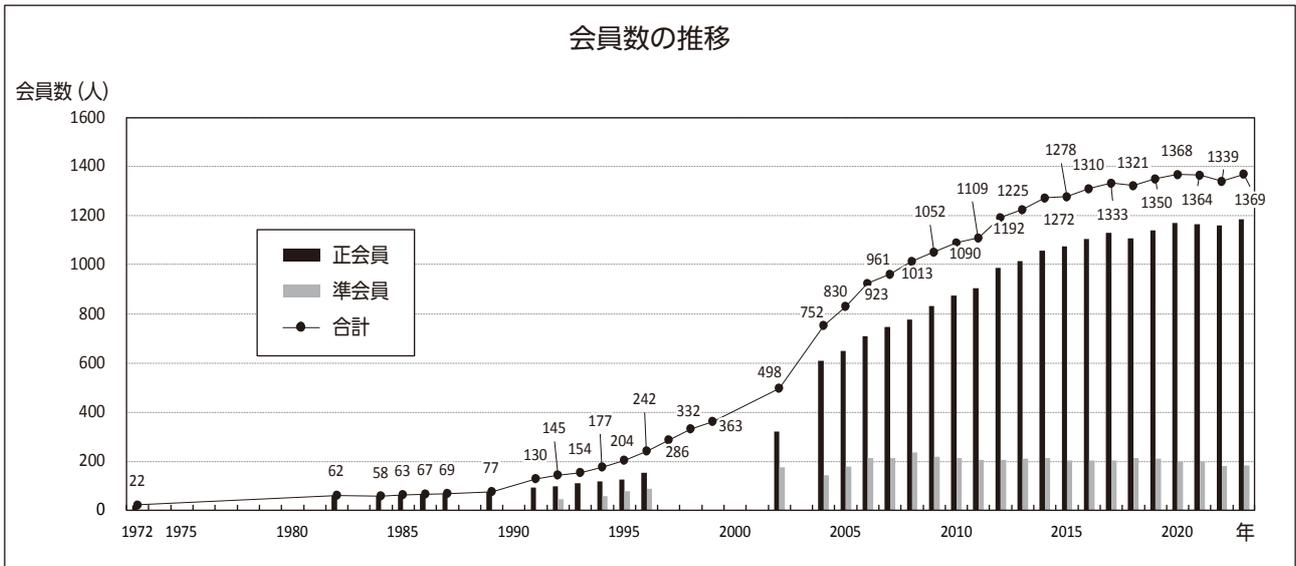
山形県支部

対象機関	概要
山形県生コンクリート工業組合	1997年～2022年 山形県生コンクリート品質管理監査会議へ委員を推薦
鶴岡工業高等専門学校	2012年～2016年 実践的デザイン工学実習への講師の推薦
山形県産業技術短期大学校	2013年～2022年 知能電子システム課及び情報システム課の共通科目「産業技術論」における「技術者倫理」への講師の推薦
小中学生（一部高校等もあり）	2016年～2017年 県内各地の小中学校等への出前授業
山形県県土整備部、県内市町村、 山形県建設技術センターの技術職員	2017年～2021年 山形県が主催するエキスパート育成研修への講師の推薦
県内の二級土木施工管理技術検定受験者	2017年～2022年 山形県建設業協会が主催する受験準備講習会への講師の推薦
(公社)山形県建設技術センター職員	2018年～2022年 一級土木土木施工管理技術検定試験対策研修会への講師の推薦

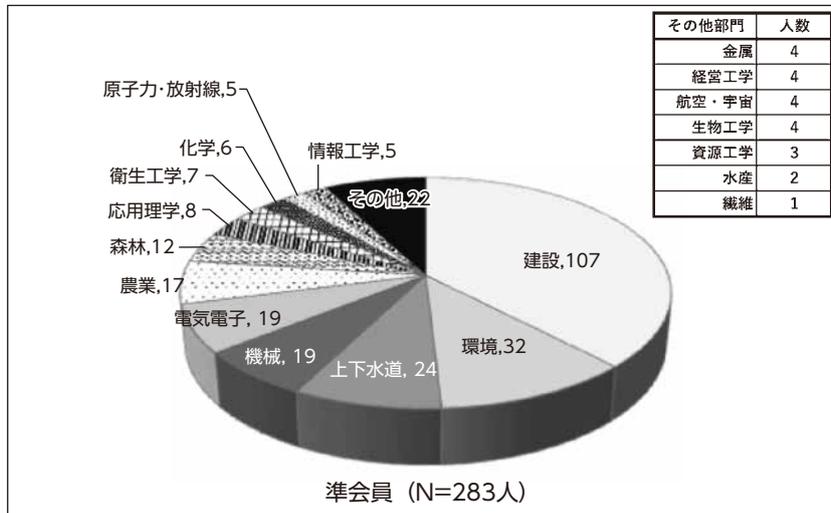
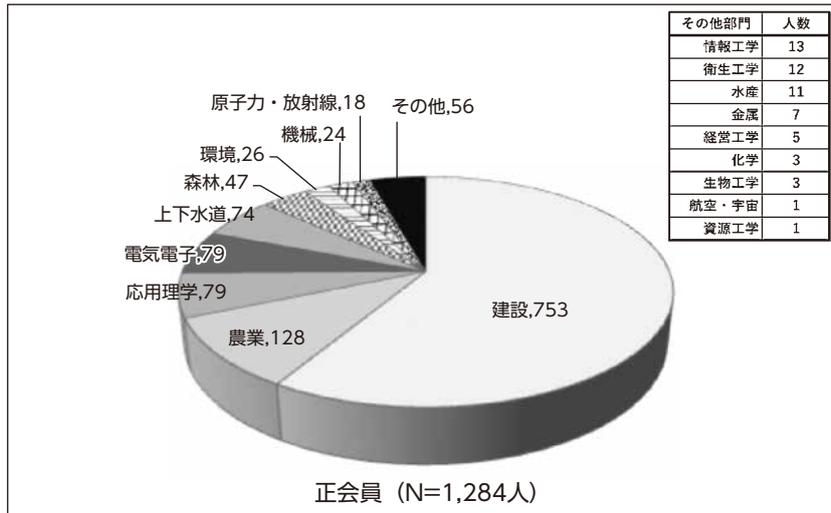
福島県支部

対象機関	概要
ふくしまインフラメンテナンス 技術者育成協議会	「ふくしまME」への講師の推薦
須賀川第三小学校	自然環境学習（準用河川 下の川）清流を取り戻す市民の会と協働
福島市立第一中学校 福島市立蓬萊中学校 いわき市立豊間中学校	中高生向けの出前授業

東北本部会員数の推移 (会員数、県別、部門別) (2023年3月末)

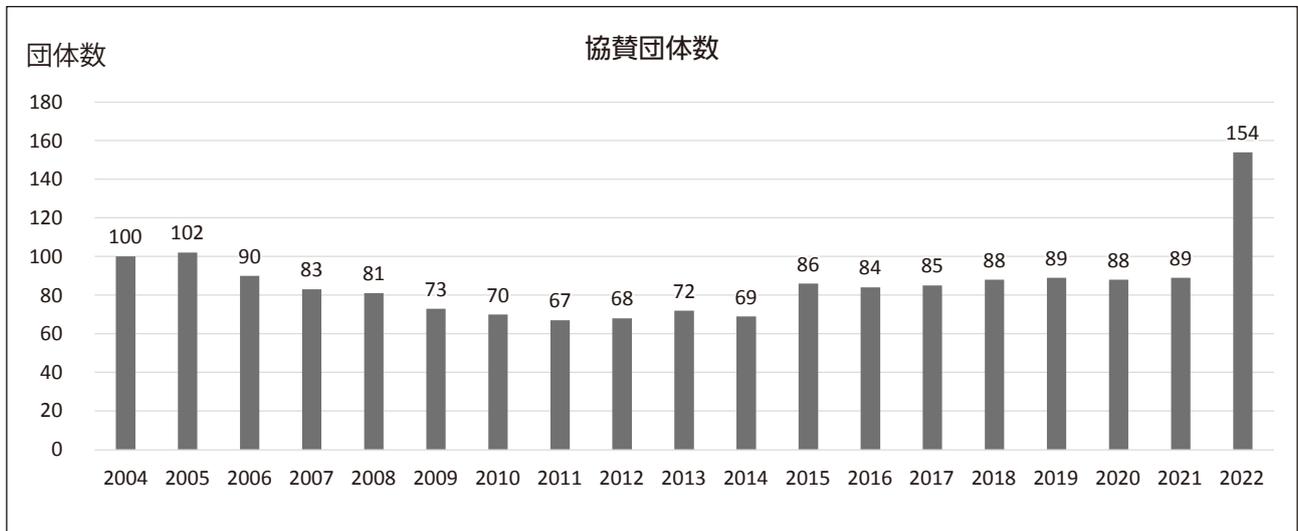


部門別会員数



※複数部門の取得者があるため延べ人数を示す。
 ※合計には総合技術監理部門を除いた延べ人数を示す。
 (正会員：総合技術監理部門取得者 302人、準会員：総合技術監理部門取得者 4人)

協賛団体数の推移 (2023年3月末)



写真で見る50年の歩み

◆ 東北支部長・本部長



故 宮本 保
昭和48年～昭和53年
(写真提供：(株)復建技術コンサルタント)



故 杉江 政直
昭和54年～平成7年



北松 治男
平成8年～平成9年



吉川 謙造
平成10年～平成30年



熊谷 和夫
令和元年～令和4年

【第11回 地方公共団体職員と技術士の合同セミナー】 1991（平成3）年11月1日

第11回 地方公共団体職員と技術士の合同セミナー次第

主催：社団法人 日本技術士会
 後援：科学技術庁・青森県・秋田県・岩手県・山形県・宮城県・福島県・
 仙台市
 日時：平成3年11月1日(金) 13:00～17:00 合同セミナー
 13:00～15:40 話題提供（7名）
 15:40～17:00 パネルディスカッション
 17:00～19:00 懇親会
 場所：仙台市 ホテル白萩 3F萩の間（セミナー） 2F錦の間（懇親会）

次第：

1. 開会の辞 (社)日本技術士会東北支部長 杉江 政直
2. ご挨拶 (社)日本技術士会 会長 上田 稔
3. 来賓ご挨拶 宮城県 知事 本間俊太郎 様
4. 話題提供 テーマ：21世紀へむけての地域開発と技術開発の展望
 - 話題(1) 「青森県の都市計画と港湾について」
青森県土木部次長 木村 肇 様
 - 話題(2) 「秋田県南部内陸部における開発について」
元秋田県開発局長 村山四喜男 様
 - 話題(3) 「岩手県における技術振興施策の現状と今後」
岩手県工業試験場長 岡田 豊明 様
 - 話題(4) 「地方の特性を生かした技術振興」
山形県商工労働開発部工業振興課技術振興主幹 馬場 幹義 様
 - 話題(5) 「宮城県の地域開発における工業振興について」
宮城県商工労働部工業振興課長 高橋 信哉 様
 - 話題(6) 「地場産業と先端技術との融合化について」
福島県会津若松工業試験場長 木村 弘 様
 - 話題(7) 「仙台の都市づくりとその方向」
仙台市都市整備局計画部長 村上 茂 様



日本技術士会 上田 稔 会長 挨拶



杉江政直 支部長 挨拶

【第19回 技術士全国大会 (仙台)】

大会テーマ **あ・ゆ・み・21**
愛 夢 未来

技術士法施行35周年記念
第19回技術士全国大会
—都市と地方の調和・人と自然の和解—

平成4年10月21日(水)
午前9時30分～午後5時15分

於 ホテルメトロポリタン仙台
主 催：社団法人 日本技術士会



大会式典

●研究発表会 9:30～14:30
特別講演 環日本海TOP構想 (Total Ocean Network Project)
堀田 好太郎 氏 (飛鳥建設 取締役)
他、東北支部会員による研究報告13編。

●パネルディスカッション 9:30～14:30
【テーマ】環境と地域をにらんだ国土の再構築
—有限から無尽大へ—

近代の科学技術は、「極端な富の湧出」と「地球規模での環境破壊」を引き起こした。人類文化がこの地球上で、持続的な発展を遂げるためには、有限な資源を効率的に活用し、生活体系を自然と調和したものに変換していく必要が叫ばれている。

東北地方は、かつて縄文時代に「森の文化・亀ヶ岡文化」が栄え、わが国でも最も豊かな地域の一つであったことが知られている。いま、政治的にも環境的にも東北地方のみならず、日本の産業構造は大転換期を迎えようとしているが、我々の生活をもう一度原点から問い直し、今後の地域開発のあり方を大自然とのバランスの上で、再構築すべき時であると考えます。

本パネルディスカッションでは、その視点から今後の技術志向や、技術士の貢献すべき分野からの提案を問うものである。

●大会式典 15:00～15:45

●講演会 15:45～17:15

東北大学文学部長 渡辺 信夫 氏
「海からの文化 —東北史を考える—」



パネルディスカッション

【広報誌 ガイアパラダイム】

第1号 1996 (平成8) 年6月

第12号 1999 (平成11) 年4月

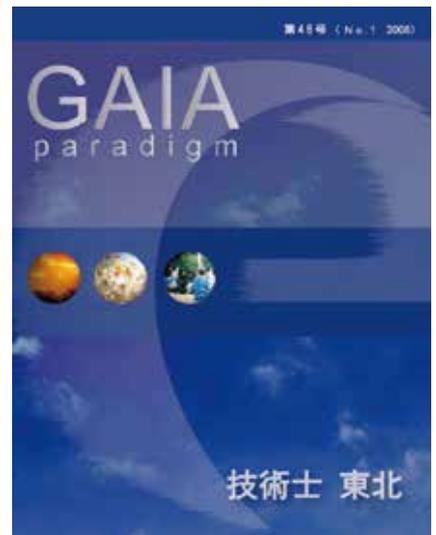
第46号 2008 (平成20) 年1月



目次

- ◆創刊に当たって..... 2
- ◆東北支部の歩み..... 3
- ◆東北技術士協会の健全な活動を目指して..... 5
- ◆(注) 日本技術士会東北支部・東北技術士協会第24回定時総会..... 7
- ◆(注) 日本技術士会東北支部・東北技術士協会事業等..... 7
- 平成7年度事業報告 平成7年度決算報告 平成8年度事業計画 平成8年度収支予算
- ◆本部・支部・各県協会だより..... 12
- ◆お知らせ..... 14
- 技術士受験日程 受験支援について (PDF4) 【技術士受験案内】
- ◆ハイテク・トレンド No.1..... 17
- ◆趣味も仕事広場..... 17
- ◆名譽顧問 (10名) 名簿..... 18
- ◆第23回全国大会への誘い..... 19
- あとがき..... 20
- 編集係より..... 20

社団法人 日本技術士会 東北支部
東北技術士協会



社団法人 日本技術士会 東北支部
東北技術士協会

社団法人 日本技術士会 東北支部
東北技術士協会



【青年技術士懇談会】設立総会：1997（平成9）年4月23日



吉川謙造 副支部長挨拶



左から、根本清副支部長、佐々木甲也青技懇幹事長、一人おいて吉川謙造新支部長



建設部門の会員



平成10年ビアパーティ
(技術士二次試験監督員の慰労会)



電気電子部門の会員

【第1回 北東3支部（北海道・東北・北陸）
技術士交流研修会（仙台）】
1998（平成10）年9月24日



東北支部 根本清 副支部長挨拶

【第16回 北東3地域本部
技術士交流研修会（いわき市）】
2013（平成25）年11月21日



吉川謙造 東北本部長 挨拶



東北支部発表者 赤井仁志氏（電気・電子）



基調講演
常磐興産（株）
斎藤一彦 社長



会場のスパリゾートハワイアンズ

【第27回 技術士全国大会（盛岡）】 2000（平成12）年10月12日～15日

平成12年度
第27回 技術士全国大会（盛岡大会）
《平成12年10月12日～15日》

= 大会テーマ =
「今、地球に生きて めざそう 21世紀に望まれる技術を！！」



社団法人日本技術士会東北支部
全国大会実行委員会



大会式典

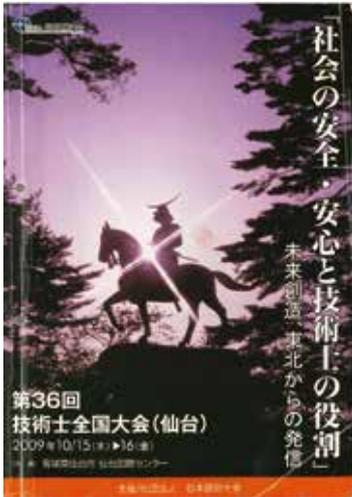


特別分科会「岩手山の火山活動と地域防災」



大会実行委員

【第36回 技術士全国大会（仙台）】 2009（平成21）年10月15日～16日



日本技術士会
高橋 修 会長



吉川 謙造
大会委員長



大会式典



基調講演 西澤 潤一 氏(元東北大学学長)



【日本APEC仙台高級実務者会合（仙台SOM）支援事業】2010（平成22）年9月21日

平成22年度 日本APEC仙台高級実務者会合（仙台SOM）支援事業
 「国際交流を深めるタウンフォーラム仙台」
 「持続可能な成長と人々の安全・安心」
 2010年9月15日～18日（12日間）に亘り、仙台市において、日本APEC仙台高級実務者会合（仙台SOM）が
 開催されました。仙台市において重要な国際会議であり、技術的な成長の向上が期待されます。
 『日本技術士会東北支部』はこの会合を支援するために、市営及び臨時の会場に、APEC（Asia-
 Pacific Economic Cooperation）アジア太平洋経済協力、メソリアンエコノミーの経済活動や科学技術の技術交流を
 より一層促進するために、APEC仙台在日外国人の方をお招きし、タウンフォーラムを開催します。
 市営及びAPEC会場併用、官公庁・日泊所・定額、学生、技術士の皆様多数の参加をお待ちしております。

9/21(水)
13:00-16:50

◇第1部 基調報告 13:10～14:50
 『APEC活動の現状と期待される技術交流』
 内務省 APEC推進室 (講師 未定)
 経済産業省 APEC推進室 (講師 未定)
 『中国の食糧・農産物流通のインフラ整備』
 中国 東北大学大学院農学研究科 博士課程修了1年 国際開発学研究課
 張 威 氏
 『APEC地域での地震津波の評価』
 タイ 東北大学大学院工学研究科 博士課程修了修士 土木工学専攻
 建設工学研究課
 ユウジヤウ アナワット 氏
 『下水道のマネジメント技術とその国際標準化』
 日本 仙台市建設局下水道課長 総合企画課長管理課長
 三島 水谷 昌也 氏 (現学博士)

◇第2部 パネルディスカッション 15:00～16:45
 『持続可能な成長と人々の安全・安心』

プロフィール
 コーディネーター 審パネリスト

東北工業大学 工学部
 環境システム工学専攻
 工学博士(修士)
 宇野 謙 氏
 東北大学大学院農学研究科
 博士課程修了1年
 国際開発学研究課
 張 威 氏
 東北大学大学院工学研究科
 博士課程修了修士 土木工学専攻
 建設工学研究課
 ユウジヤウ アナワット 氏
 仙台市建設局下水道課長
 総合企画課長管理課長
 三島 水谷 昌也 氏 (現学博士)

〇七 日:平成22年9月21日(水) 13:00～16:50 〇場 員:150名(決着額) 〇進行:日本橋
 〇ところ:仙台大いメディアアーク「アーク」スタジオシアター(〒980-0824 仙台市青葉区巻町2-1
 〇主 催:(社)日本技術士会 東北支部 東北支部 東北支部 東北支部 東北支部 東北支部 東北支部
 〇協 賛:宮城県 仙台市 仙台市工業局 (社)地産地消推進センター 東北大学 東北大学(中核中)
 〇協 賛:(社)日本土木工学会東北支部 (社)建設コンサルタント協会東北支部 (社)土木学会東北支部
 (社)建設工学協会東北支部 (社)建設上下水道コンサルタント協会東北支部(中核中)
 〇特別協賛者:技術士(土) 一級主任 技術士会助産者 官公庁:自治体-企業関係、学生
 〇参加費:無料 〇観覧料:各費3,000円(1階ホールA席)17:20～
 〇申込み先:(社)日本技術士会 東北支部 〒980-0012 仙台市青葉区陸町1-6-25 電話:022-723-3755
 〇観覧日:平成22年9月21日(水) E-mail:tohokugai@stn.jp FAX:022-723-3812



シンポジウム

【テクニカルツアー】



仙台市葛岡工場 ↑ (クリーンセンター)

新幹線車両基地 (利府) →

【第30回地域産学官と技術士合同セミナー（秋田）】2010（平成22）年10月22日

第30回 地域産学官と技術士合同セミナー 秋田大会

テーマ「資源を活かした地域力の向上」

副題 ー資源有効活用の課題と技術者の役割ー

- 開会の辞 13:00～13:05 (社)日本技術士会 東北支部長 吉川 謙造
- 主催者挨拶 13:05～13:10 (社)日本技術士会 会長 高橋 修
- 来賓挨拶 13:10～13:30 秋田県知事代理 建設交通部 県土整備技監 山下 武宣氏 秋田県商工会議所連合会会長代理 常任幹事 岩本 孝一氏 秋田県立大学 学長 小林 俊一氏
- 基調講演 13:30～14:40 (70分) 演題 「資源を活かした地域力の向上」 秋田大学 学長 吉村 昇氏
 < 休 憩 (準備) > 14:40～14:50 (10分)
- パネルディスカッション 14:50～16:55 (125分) テーマ「資源有効活用の課題と技術者の役割」 コーディネーター 秋田大学 学長 吉村 昇氏
 - パネリストの発表
 - 産業界-1 14:50～15:10 (20分) 「環境リサイクルビジネスの展開と地域力の向上」 小坂製練 (株) 代表取締役社長 島田 和明氏
 - 産業界-2 15:10～15:30 (20分) 「地域の特性を活かした小型風車開発の課題と対応について」 大森建設 (株) 環境事業部長 (技術士) 石井 昭浩氏
 - 学 界 15:30～15:50 (20分) 「秋田方式の地球熱活用技術について」 秋田大学大学院 工学資源学専攻 准教授 山口 伸次氏
 - 官 界 15:50～16:10 (20分) 「秋田県の新エネルギーの取り組み」 秋田県産業労働部 新エネルギー政策統括監 佐々木 誠氏
 - ディスカッション 16:10～16:45 (35分)
 - 会場質問・とりまとめ 16:45～16:55 (10分)
- 閉会の辞 16:55～17:00 (5分) 「第30回 地域産学官と技術士合同セミナー」実行委員長 佐々木 俊吉



開会の挨拶



パネルディスカッション

震災復興シンポジウム
「復興に向けて技術士の果たすべき役割と課題」

■第1回 技術士（実務担当者）からの報告

○日 時：平成23年7月23日（土）
13：30～16：45（受付開始：13：00）
○場 所：仙台 KKR ホテル

＜プログラム＞		司 会：橋本 正志
①基調講演：地盤とリスクマネジメント	13：30～14：00	今西 肇 氏（東北工業大学 工学部 教授、技術士）
②技術士からの報告（復興事業に携わった会員技術士から） 報告者予定者（15分/人程度）	14：00～15：40	1. 宅地地盤の被災と復興 佐藤 真吾（復建技術コンサルタント） 2. 市街地の復興パターン 斎藤 明（オオハ） 3. 下水道終末処理場の被災と復興 氏家 敦（日本上下水道設計） 4. 漁港施設の被災と復興 高田 清（日本工営） 5. 国道45号の津波浸水被害状況 濱中 拓郎（日本工営） 6. 建築設備の被害 赤井 仁志（エアテック）
③パネルディスカッション	16：05～16：35	コーディネータ 今西 肇 氏（東北工業大学 工学部 教授、技術士） ※会場からのご意見・討論を主体とします

主 催 公益社団法人 日本技術士会 東北本部（7月14日より）
The Institution of Professional Engineers, Japan



基調講演：
今西 肇 教授



「漁港施設の被災」
高田 清氏



大元 守 防災委員会委員長
（後に、石巻市建設技術管理監）

シンポジウム「東日本大震災の復旧・復興に向けて」2012（平成24）年12月10日
～ 災害廃棄物処理の現状と適正な再利用を目指して ～

公益社団法人 日本技術士会東北本部、宮城県支部 主催行事
シンポジウム「東日本大震災」の復旧・復興に向けて
12/10(月)
12:00～17:00

～災害廃棄物処理の現状と適正な再利用を目指して～

東日本大震災からの11日目の復旧・復興が望まれるなか、喫緊の課題の一つとなっているのが、災害廃棄物（がれき）の適やかな処理です。環境省の統計によると、地震・津波によって発生した災害廃棄物は岩手県、宮城県、福島県合計で22,528千トンにのぼり、これは3重で排出される一般廃棄物の約11年分に相当しています。しかし、津波被災地の災害廃棄物処理は、東北地方の再建に資する重要な課題であるにもかかわらず、広範囲にわたり分布しているほか、最終処分場の確保が困難な点など、過去の震災時における対応と大きく異なる点が多く、除去・処分、活用すべきかなどの検討課題も山積みされています。これらの課題は、建設部門を始めとする20技術部門を有する技術士会がまさに取り組むべきテーマと考え、災害廃棄物処理の現状と有効利用への対応について、産官学からのパネリストをお招きしたシンポジウムを開催します。市院及び官会庁・自治体・企業関係者、学生、技術士の皆様多数参加をお待ちしております。

プログラム		～12月10日(月)～
◇受付開始		12:00～
◇第一部 講演		13:00～15:30
●基調講演 「(仮)震災復興への建設業と産学官連携について」	50分	
東北大学工学部研究科教授・ガレキ処理コンソーシアム代表 久田 真 氏		
●講演1 「災害廃棄物の処理について」	20分	
環境省東北地方環境事務所 所長 島居 敏男 氏		
●講演2 「(仮)災害廃棄物・津波埋没物の有効利用と課題」	20分	
東北工業大学工学部都市マネジメント学科 教授 今西 肇 氏 技術士(建設)		
●講演3 「災害廃棄物処理の現状と課題」	20分	
鹿島建設株式会社 東北支店 専任役員 加納 実 氏 技術士(建設)		
●講演4 「コンクリート方打」津波被災土の建築廃土への有効利用について」	20分	
国土交通省仙台河川国道事務所所長 武田 謙司 氏		
●講演5 「災害廃棄物(がれき)と臭気の課題」	20分	
東北文化学園大学 教授 岡田 誠之 氏 技術士(衛生工学)		
◇休憩		15:30～15:45
◇第二部 パネルディスカッション		15:45～17:00
【コーディネーター】日本技術士会 東北本部長 吉川 謙造		
【パネリスト】		
●久田 真 氏(東北大学工学部研究科教授・ガレキ処理コンソーシアム代表)		
●島居 敏男氏(環境省東北地方環境事務所 所長)		
●今西 肇 氏(東北工業大学工学部都市マネジメント学科 教授)		
●加納 実 氏(鹿島建設株式会社 東北支店)		



久田 真
東北大学教授



島居 敏男
東北地方環境事務所所長



加納 実 技術士
鹿島建設東北支店



パネルディスカッション



会場参加者

【第3回 国連防災世界会議】パブリック・フォーラム 2015 (平成27) 年3月17日



3月17日(火) 開始時間 / 17:00 31

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホールC (30階)

巨大化する自然災害に備える技術者の役割

近年は、巨大地震や津波以外にも、台風・洪水・高潮災害、火山噴火、気候変動など地球規模の自然災害に対する備えの必要性が叫ばれている。それらに対し、市民あるいは社会はどう備えるべきか、また技術者が果たすべき役割は何か。今回の東日本大震災での反省や改善点も踏まえ、全国から産・学・官のスピーカを招き、今後の防災・減災に関する地域連携や社会貢献のあり方について議論する。

●主催者/公益社団法人日本技術士会



日本技術士会
鮫島信行 副会長



コーディネーター：
吉川謙造 本部長



パネリスト



会場参加者

【東北大震災5周年公開シンポジウム】2016 (平成28) 年6月10日

東日本大震災5周年公開シンポジウム
～ 復興の現状と未来 ～
2016年 6/10(金) 13:00-17:15 (開場 12:30~)

会場: TKP ガーデンシティ仙台 (アエル 21階 Aホール)

【開催主旨】
2011年3月11日の東日本大震災から5年が経過しました。日本技術士会 震災会議は、2012年3月に「復興に向けた技術士宣言」を発表し、「復興の推進・復興への取り組みのあり方、本会への青年参画」とした今後の日本災害対策のあり方を提示し、具体的項目として、「防災・減災支援の推進」、「復興実現のための現場調査の実施と調査会の開催」、「被災者への助言」、「復興計画づくりの支援」、「復興支援技術士データベース構築と行先案内」の紹介などをあげ、会をあげて被災地に復興支援活動に動向してきました。
震災後の5年間で多くの知見が蓄積されてきましたが、この時期に臨むこれらを集約し、復興の現状から課題を抽出し、未来への展望を行うとするものです。

開会のあいさつ・主催者挨拶 13:00~13:15
祝辞 13:15~13:35
◇第1部 基調講演 13:40~15:10
『宮城県女川町の復興と未来』
講師 須田 善明 氏 (宮城県女川町町長)

◇第2部 パネルディスカッション 15:25~17:15
コーディネータ 吉川 謙造 氏 (日本技術士会 東北本部長)
パネリスト 上野 雄一 氏 (日本技術士会 防災支援委員長)
大元 守 氏 (石巻市建設技術管理監/技術士)
遠藤 秀文 氏 ((株)ふたば代表取締役/技術士)
大久保 義人氏 (大手県風土整備部技術企画課課長/技術士)

◇交際会 (会費5,000円) 17:30~19:30
会場: TKP ガーデンシティ仙台 (アエル 30階 Bホール)

日 時: 平成28年6月10日(金) 13:00~17:00 (開場 12:30~)
場 所: TKP ガーデンシティ仙台(アエル 21階 Aホール)
仙台市東区中央1丁目2-1 (仙台駅よりペDESTリアンデッキ直結徒歩2分)
主 催: 公益社団法人日本技術士会
主 幹: 公益社団法人日本技術士会 防災支援委員会、公益社団法人日本技術士会 東北本部
後 援: 国土交通省東北地方整備局、宮城県庁建設部、宮城県水産部、宮城県農林部、経済産業省東北経済産業局、石巻市、宮城県、福島県、山形県、秋田県、岩手県、青森県、岩手県建設局、岩手県建設技術管理監、岩手県復興支援本部、11県建設局、東北計研財、一般社団法人東北建設協会
協 賛: 11県、国土交通省東北地方整備局、国土建設工学研究会東北支部、一般社団法人建設コンサルタント協会東北支部、一般社団法人東北建設協会、一般社団法人宮城県建設協会

入場 無料



日本技術士会
吉田 克己 会長



女川町町長
須田 善明 氏



パネルディスカッション



会場参加者

【第45回 技術士全国大会（福島）2018（平成30）年11月11日～14日



大会式典



分科会報告

【エクスカーション】



福島第一原発

【東日本大震災復興10年事業<2021年度>】 2021（令和3）年7月16日

東日本大震災復興10年事業
復興10年事業
 《2021年度》
 7月16日(金) 午後1時より

基調講演1「東日本大震災の教訓と今後の防災・減災対応」
 東北大学災害科学国際研究所所長 今村 文彦氏
 津波工学分野教授

基調講演2「東日本大震災からの復興と地域防災力の強化
 ～未来への礎～」
 宮城県副知事 遠藤 信哉氏

パネルディスカッション
 パネル1 復興・復興・再生の10年
 パネル2 復興10年節目のとなえ
 パネル3 教訓と伝承
 パネル4 技術士の役割

コーディネーター
 モデレーター

大元 守氏
 野村 貢氏
 田村 裕美氏
 橋本 正志氏
 齋藤 明氏
 神林 翠氏

東日本大震災復興10年事業
 (2021年～2025年)
 開催日時：2021年7月16日(金) 13時～17時
 場 所：ホテルストロボリタン(仙台)4F(千代の間)
 会場よりリモート配信
 主 催：公益社団法人 日本技術士会東北本部



基調講演 東北大学災害科学国際研究所所長 今村 文彦氏



パネルディスカッション



会場参加者

【第50回 日韓技術士国際会議（仙台）】2021（令和3）年10月30日



分科会報告



会場参加者

【東日本大震災復興10年事業<2022年度>】2022（令和4）年7月22日

復興の前にあるべきもの
宮城県災害復興支援士業連絡会の活動を通して

2022年シンポジウム
東日本大震災復興10年事業

午前の部 13時～17時
午後の部 13時30分～17時

特別講演「一国民の安全と安心の確保に向けてー 国際共通の安全文化を築くプロジェクトの提案」
杉本泰治氏（技術士）

講演1「大災害に学び・備える」
高橋清秋氏 宮城県災害復興支援士業連絡会会長・建築士

講演2「被災者支援制度の課題と災害ケースマネジメントの提案」
宇都彰浩氏 宮城県災害復興支援士業連絡会副会長・弁護士

パネルディスカッション

パネリスト 高橋清秋氏（建築士） 宇都彰浩氏（弁護士）
佐々木源氏（技術士） 佐藤真吾氏（技術士）

コーディネーター 齋藤明氏（技術士）
モデレーター 田中葉鋼氏（技術士）

① 丸森町の災害復旧活動を通して
② 東日本大震災等発災時の対応
③ 災害ケースマネジメント
④ 相談会の事例

日時：2022年7月22日（金）
10時～12時：特別講演
13時30分～17時：パネルディスカッション
会場：ゼンダイメディアテーク
10時～12時：7階スタジアムシアター
13時30分～17時：1階オープンスクエア

定員：午前の部 90名 午後の部 150名 リモート併用開催
（定員は変更する場合があります）
（参加費）無料（後日配信）
（配信先）合同会社メディアージュ

参加：どなたでも参加できます
申込：7月15日まで <https://t.chocofestival.jp/3637>

主催：公益社団法人 日本技術士会 東北本部
後援：復興庁宮城県支庁、農林水産省東北農政局、経済産業省東北経済産業局、国土交通省東北地方整備局、環境省東北地方環境事務所、宮城県、宮城県、福島県、仙台市、独立行政法人都市再生機構東北復興支援本部、NPO法人みやぎ防災、河北新報社、㈱ 東北経済連合会、宮城県災害復興支援士業連絡会
協賛：公社水学舎東北支部、公社地盤工学会東北支部、㈱ 東北建設業連合会、東北支部、東北建設業連合会、㈱ 建設コンサルタンツ協会東北支部、㈱ 東北測量設計協会、㈱ 城島測量設計事務所東北地区協議会



特別講演：杉本 泰治 氏



パネルディスカッション



会場参加者

実行委員会名簿

日本技術士会東北本部設立50周年事業実行委員会名簿

※ ◎はグループ長○は副グループ長

役職・グループ	氏名	役職	役割
実行委員長	熊谷 和夫	本部長	・実行委員会会議の開催 ・全体の進行管理、ほか
副委員長	畠 良一	副本部長	
企画立案グループ (兼、実行委員会会議メンバー)	◎ 実行委員長、副委員長、グループ長、およびアドバイザー、事務局		・式典の概要決定 ・記念誌の内容決定 ・その他、重要事項
渉外グループ	◎ 遠藤 敏雄	副本部長	・来賓対応 ・祝辞依頼 ・祝辞原稿依頼等 ・協賛団体対応
	○ 渡辺 将之	幹事	
	長澤 和夫	幹事	
	糸井 秀実	防災委員	
特集号編集グループ	広報委員会 ◎ 伊藤 貞二 ○ 丹 収一 柴田 友禧 大重兼志郎 小沼千香四 田中 菜摘 林 洋一郎 橋本 純 橋本 正志 有馬 義二		・原稿依頼 (各委員会、各部会、各県支部または主要な会員等への原稿依頼) ・年譜の整理 ・歴代役職者等名簿編集 ・年次大会（旧支部総会）や活動写真の記録整理 ・特集号全体の校正、編集 ・その他（HP掲載等）
式典運営グループ	◎ 井口 高夫	副本部長	・司会・進行 ・受付、会場準備 ・配布資料作成 ・Web配信
	○ 名倉 隆	CPD委員長	
	今村 隆広	CPD委員	
	齋藤 大介	CPD委員	
	武田 芳丈	ITS委員長	
	佐藤 靖	ITS委員	
	高橋 秀輔	青年技術士委員長	
顧問団	八木澤 聡	青森県支部長	・県支部長 原稿依頼やPR等要請があった場合、積極的に支部として協力する。 ・アドバイザー 実行委員会に出席するなど、本企画準備に関して長年の経験から必要に応じて助言する。
	小野寺徳雄	岩手県支部長	
	遠藤 敏雄	宮城県支部長	
	菊地 豊	秋田県支部長	
	須藤 勇一	山形県支部長	
	畠 良一	福島県支部長	
	吉川 謙三	アドバイザー	
	渡邊 嘉男		
	吉田 康彦		
事務局	◎ 滝上 忠彦	事務局長	・実行委員会の開催 ・各グループの支援
	○ 片岡 充英	事務局次長	
	吉川 毅	事務局員	

※ 役職名は2023年5月30日付のものである

第2章

活動報告（2022年度後期 活動報告）

催事報告

東北本部

令和4年度 技術士第一次・第二次試験合格者祝賀研修会

1. はじめに

日本技術士会東北本部の試験合格者祝賀研修会が、4月20日に仙台商工会議所で開催されました。コロナ禍が完全に去らない状況で、今年もWeb配信併用での開催となりました。

今年は、合格者の参加は26名、内Web参加5名でした。また講演会と合格者体験発表、懇親会も実施されて、非常に有意義な交流の場となりました(写真1)。ここにその概要を報告致します。



写真1. 会場の様子

2. 日時・場所・参加者

日 時：2023年4月20日(木)

15:00～17:30

場 所：仙台商工会議所 7階大会議室
(オンライン併用開催)

参加者：会場51名、Web11名

3. 合格者祝賀研修会

(1) 開会挨拶

要旨：皆さんの顔を見ながら、おめでとうの言葉を言えることが大変うれしく思っております。一次、二次の合格者の皆さんが技術士の仲間として、お集まりいただきありがとうございますと存じます。若い人に入っただけいて組織の活性化に寄与していただきたい。高い技術を使って課題を解決するのが我々の仕事です。課題解決に知識を実装していくなど、今後仲間として、たくさんの方々と巡り会い交流が広がることがあります。合格、本当におめでとうございます(写真2)。



写真2. 熊谷本部長 挨拶

(2) 祝辞

要旨：皆様自主学习をかなり行っの合格と存じます、改めまして、「おめでとう」という言葉をお伝えしたいと思います。技術士試験は多岐にわたる情報を習得して、設問に対する的確な言葉を抽出しながらわかりやすく表現するという問題だと思います。2次試験は合格した時点で、技術士として自分の業務、社会活動としての行動が始まると思います。東北本部では、東日本大震災を経験して技術を次の世代に継承することが大切だということで、活動しております。皆様も今後多岐にわたる技術の継承を心がけていただければと思います。本日は誠にありがとうございます(写真3)。



写真3. 佐久間理事 祝辞

(3) 日本技術士会からの案内

要旨：合格された方々にお祝いの言葉を述べさせていただきます。合格者の参加は26名、内Web参加5名です。

その後、画面資料を用いて日本技術士会全体、東北本部の組織内容や活動について以下の項目ごとに、説明がなされた（写真 4）。

- ・令和 4 年度第一次、二次試験結果、技術士試験制度、修習技術者、第二次試験受験の受験資格、最近の試験内容の変更概要、日本技術士会の組織、技術士 CPD 制度、東北本部組織、活動（写真 4）。



写真 4. 滝上事務局長 説明の様子

(4) 合格者体験発表

1) 株式会社 ドーコン 東北支店

志小田 可奈子 氏

要旨：自己紹介に始まり受験の動機、受験申込書の作成、筆記試験対策、口頭試験対策について、自分の体験を通して説明いただいた。受験申込書の作成では、詳細論文の選択がカギを握ること。筆記試験対策では、社内制度利用や情報収集のコツが大切なこと。事前に他の資格取得を行ない知識向上につなげたこと。口頭試験対策では、模擬試験を繰り返し実施したことや、宿泊場所の選定や心の余裕の持ち方についてのアドバイス。等々、細かくリアルな説明をしていただいた（写真 5）。



写真 5. 志小田氏 発表の様子

2) アルプスアルパイン株式会社

遠藤 新一 氏

要旨：自己紹介に始まり受験の動機、試験対策について説明していただいた。特に総合技術監理部門の特徴と、苦労した部分を詳しく説明いただいた。潜

在するリスクを低減する対策を講じるということに主眼を置く、ということが筆者にとっても印象的で伝わるものがあった（写真 6）。



写真 6. 遠藤氏 発表の様子

(5) 記念講演

演題：技術士の倫理 ～実践への手がり～

講師：田中菜摘氏（田中菜摘技術士事務所代表）

要旨：技術士の倫理という演題で、倫理全般について、なぜ技術者の倫理か、予防倫理と志向倫理、技術士に求められる資質能力、倫理の実践は一人では手ごわい、ということなどが述べられた。

規範一本やりではなく、共感が大切である。という言葉が筆者にとって印象に残った。（写真 7）



写真 7. 田中講師 講演状況

4. 交流会

TKP ガーデンシティ仙台勾当台

(18:00-20:00)

島副本部長から開会挨拶、遠藤前宮城県副知事からの祝辞をいただき、石川男女共同参画推進委員長の乾杯の音頭で交流会を開始。その後、第一次合格者 6 名の「今日の感想」、第二次合格者 5 名の「今後の意気込み」をいただきました。交流会は、コロナ対策を十分配慮しつつ、井口副本部長の閉会の言葉で終了となりました。

(事務局次長 片岡 記)

委員会・部会活動報告

青年技術士交流委員会

活動報告

～ 直近の取組みについて ～

1. はじめに

青年技術士交流委員会の直近の取組みについてご報告させていただきます。

2. 青年技術士支援委員会拡大委員会について

日時：2023年6月23日

場所：機械振興会館（東京都港区）

参加者：48名

青年技術士支援委員会は、統括本部の委員会組織です。私は地域本部委員として、本会に参画しております。毎年6月には全国規模での拡大委員会が開催され年間の活動報告を行っております。また、同時開催される地域本部交流会においては、各地域本部の取組みを相互に紹介する場があります。コロナ禍も一段落し、久方ぶりの対面開催とのこともあり、全国より48名の技術士・修習技術者が機械振興会館に集結しました。東北本部からは齋藤前青年委員長と私の2名にて参加致しました。東北本部の取組みについて発表する時間を15分ほど頂戴いたしましたので、過日行われた東北本部50周年記念式典の様式を中心に、東北本部が今後取組むべきビジョンについてご紹介させていただきました。

特に、技術士の知名度の向上を図るための取組みとして、教育研究機関に対する出前授業の開催を予定していることを挙げました。

キャリアデザインにかかわる授業の一コマを拝借し、技術士についてPRすることにより、技術系の学生が、将来なりたい技術者像として「技術士」が具体的に思い描けるようにしたいと考えております。今年度は3回程度の開催を目標にたどりま計画中です。

拡大委員会翌日の6月24日にはミニテクノツアーも実施されました。内容は、機械振興会館のすぐ隣にある東京タワーを、徒歩にて登頂するものでした。登頂前には約30分間のスクーリング形式の講義がセットになっており、東京タワーのあらまじや、技術的な取組みなどについて学んだ上で、いざ登頂に臨むといった趣のものです。600段の長丁場でしたが、



写真1. 東京タワー徒歩登頂口

建設当時の情景に思いを馳せながら楽しく昇ることができました（写真1）。

3. 青年技術士交流委員会について

日時：2023年6月23日

場所：(株)ユアテック会議室（宮城県仙台市）

参加者：11名

青年技術士交流委員会は、現行19名のメンバーにて構成されております。

皆様業務により忙しいこともあり、約2か月に1回開催しております定例委員会はおよそ5名程度の参加に留まっておりました。

本委員会は45歳を一つの区切りとしておりますが、現在45歳に迫るメンバーが多く、次代を担う技術者の集いを継続させることは、現委員長である私の使命であると考えております。

そこで、今年度は修習技術者も含め多数の方々にお声掛けさせていただいたところ、6月度委員会は県外者も含め新たに6名の方にご参加いただくことができました。

青年技術士交流委員会は27年前の設立当初より、青年技術者の相互交流の場を提供することを目的としております。委員会では直近の技術士会の取組みを紹介するとともに、メンバー持ち回りによる技術的な話題提供やディスカッションを行っております（写真2）。



写真2. ディスカッションの様子

4. おわりに

間口が広く開いた委員会ですので、参加いただける方は、ぜひお声がけください。

（青年技術士交流委員会委員長 高橋 記）

委員会・部会活動報告

防災委員会

2022 年度後期活動報告

～ 防災支援委員会・土業連絡会・現場見学会 ～

1. はじめに

防災委員会の後期活動について、防災支援委員会、土業連絡会、現場見学会などを報告する。

2. 防災支援委員会

1 ヶ月に一度委員会が開催され東北本部は毎回 Web で参加している。後期は 10/13 (木) 11/10 (木) 12/8 (木) 1/12 (木) 2/9 (木) 3/9 (木) に開催されている。

地域本部や県支部単位で大規模自然災害発生時対応・災害時支援活動計画 (SAPD) を策定する動きとなっている。統括本部版の計画は作成されており、東北本部でも来年度から策定に向けた検討に入る。

3. 宮城県災害復興支援土業連絡会

(1) 11 月 24 日理事会

3 件 (福島地震相談会、静岡豪雨被害支援、仙台弁護士会との事務委託) の審議後に、深松努氏 (株式会社深松組代表取締役) による学習会「仙台市集団移転跡地利活用事業 (アクアイグニス仙台) について」が行われた。

(2) 2 月 2 日理事会

来年度の活動について協議後、杉本泰治氏 (T. スギモト技術士事務所代表) による学習会「一国民の安全と安心の確保に向けて一国際共通の安全文化を築くプロジェクトの提案」が行われた。

この学習会は、2022 年 7 月 22 日に開催された東日本大震災復興 10 年事業 2022 年シンポジウムの杉本泰治氏による特別講演を再度行ったもので、仙台弁護士会所属で土業連絡会副会長の宇都彰浩氏より強い出演要請があった。

判例依存が法学の発展を阻むとした講演内容に関する弁護士からの質問や、安全文化とリスクアセスメントに関する会計士からの質問があった。Web で配信され技術士会では中国本部、近畿本部や災害復興支援機構など多数の聴講参加があった。

4. 現場見学会

2023 年 3 月 9 日に、宮城県支部防災委員会、東北本部建設部会と当会の共催で福島第一原子力発電

所の構内視察を行った (参加 20 名)。

午前中に J ヴィレッジの視察を行い、東京電力廃炉資料館でのガイダンス後に発電所構内の視察を行った。改めて原子力事故の大きな影響と廃炉に向けた活動の壮大さを感じとれた。

5. 東日本大震災復興 10 年事業 2023 年シンポジウムの準備

2023 年シンポジウムは福島県で開催することとしており、10 月 27 日に福島市のコラッセふくしまで開催する予定としている。

福島県支部で準備委員会を結成し精力的に準備を行っている。テーマは「複合災害の復興に学ぶ～ふくしまからの発信～」とし、基調講演を福島大学の川崎興太教授に依頼している。

内容は、1 部基調講演、2 部複合災害から学ぶ、3 部復興への取組みの 3 部構成で午前と午後の終日開催である。福島ならではの情報発信がある。進行も事前にシンポジウム資料を公開し、質問回答に臨むこととしている。Web 視聴も可能なので是非参加をお願いしたい。

6. 「安全文化」の刊行

東日本大震災復興 10 年事業 2022 年シンポジウムの杉本泰治氏による特別講演を期に、杉本泰治氏、福田隆文氏、森山哲氏による共同執筆の安全文化に防災と災害復興の文化 (齋藤明) を加えて書籍を刊行するプロジェクトを進行している。編者を日本技術士会東北本部とし、2023 年内を目途に刊行を予定している。

プロジェクトは寺井会長の承諾を経て 2022 年 9 月より実施している。

7. おわりに

東日本大震災復興事業は 2023 年シンポジウムを福島県で開催することにより、この事業の意義を改めて会員みなさまに考えていただきたい。

(防災委員会委員長 齋藤 記)

委員会・部会活動報告

倫理研究委員会 SGEEの会

2022年度後期活動報告

～ 技術士倫理綱領の改定 ～

1. はじめに

今年日本はG7の議長国でありその広島首脳コミュニケが発出された。それは多様化、デリスキング、グリーンエネルギーへ移行、質の高いインフラ、SDGs、脱炭素・再生可能エネの加速、包括的なAIガバナンスが挙げられている。一方技術士倫理綱領が3月に統括本部で改定された。改定の背景は大規模自然災害、シビアアクシデント、組織がらみの不正の多発により技術者倫理に係る重大事象が発生、COP21においてパリ協定が採択された事である。SGEEの会は最新の情報も視点に入れ、研修会を毎月開催している。是非ご参加を気軽に検討して頂きたい。

2. 2022年度下半期活動状況及びテーマ

研修場所はエル・パーク仙台（仙台三越定禅寺通り館）で、毎月1回、木曜日、14:00～17:00にリアルで宮城県支部及び山形県支部合同で研修会を実施している。研修方法は毎回テーマを決め、各自発表を行い会員同士で相互に議論を重ね倫理の本質に迫る手法を取っている。後期の開催日時とテーマは以下の通り。

第5回研修会：11月10日①全国大会技術者倫理情報連絡会、②第48回技術士全国大会、③東北学院大学の2022年度技術者倫理講義、④変電所に電力貯蔵設備。

第6回研修会：2月8日①日本工学会技術者倫理協議会第18回公開シンポジウム、②平均気温上昇1.5度目標、次世代炉、GX

第7回研修会：1月12日①日本におけるプロフェッション概念の欠如、東北エネルギーの今、②中島隆博教授：普遍を鍛え直す、③グレタ：気候変動と環境危機、④東北ビジョン、高村ゆかり：カーボンニュートラルに向かう世界、TCFD。

第8回研修会：2月16日①SDGs、全体主義の克服、②ケアと憲法理念の緊張関係、③山形第2回技術者倫理ワークショップ、企業不正とその後、④読書ノート戸谷洋志：未来倫理、⑤原発運転延長に

規制委前のめり、⑥原発60年超運転、EUタクソノミー。

第9回研修会：3月9日①未来倫理、2035年の世界地図、先細る人財、読書ノートNHK失敗の法則、②鉱物脈法、③3/3ワークショップ報告、④企業不正とその後、⑤ChatGPT

第10回研修会：4月20日①田中氏講演会、②対話AI。

第11回研修会：5月11日①新型コロナ5類への変更、②少子化加速、ダイハツ不正、合成燃料、③三菱電機不正、④社会と技術。

第12回研修会：6月8日①第4の革命カーボンゼロ、②脱最速、技術士倫理綱領の改定、トラック脱炭素、③偽ニュース。

3. 外部団体との連携

日本技術士会登録技術者倫理研究会への参加

上記研究会の講演会に参加し、情報交換を行っている。参加費は東北本部会員は当委員会で支払います。申し込みは上記研究会HPより各自でお申込みください。

4. 地域の倫理教育に貢献

東北本部設立50周年記念式典で講演：5月30日に末岡が技術士倫理綱領の改定について講演した。

大学等での講義：東北学院大学の学生にJABEE教育の一環で、技術者倫理に関して会員田中氏が授業を行っている。また要請があれば外部に出かけ技術者倫理について講演を行っている。

山形県支部との連携：県内でのワークショップに参加している。

5. おわりに

今後SNSなどによるオンライン会議も検討している。コロナの状況を見ながら研修会後の顔合わせも再開しているのでご参加を。

(倫理研究委員会 SGEEの会委員長 末岡 記)

委員会・部会活動報告

ITS研究委員会

2022年度後期活動報告

～ 革新的技術の導入と活用 ～

1. はじめに

2022年度後期に、第3回定例会（12/28）とオンラインセミナー2（12/2、2/28）の活動を行った。

2. 第3回定例会

日時：2022年12月2日（金）13：30～15：00
会場：仙台市男女共同参画推進センター
議題：次年度の活動方針等について

3. オンラインセミナー

(1) 第2回オンラインセミナー

演 題：「東北における公共交通の現状と課題」
講 師：東北運輸局 交通政策部交通企画課
課長補佐 林 栄一 氏

日 時：2022年12月2日（金）15：00～17：00
会 場：仙台市男女共同参画推進センター
参加者：54名

概 要：公共交通利用者の減少し、需要の少ない路線の減便や廃止など「負のスパイラル」が発生している東北地方の現状を踏まえ、公共交通の重要性や国土交通省の取組みについてご講演頂いた。

- ・国土交通省の取組みとして「地域公共交通活性化再生法」という法律により地域の主体的な取組み等を後押し。
- ・各地の取組み事例として、八戸市では、まちづくり政策と交通政策の整合性を保ちながら一体的に取組みを実施。
- ・移動ニーズに対応して、移動検索・予約・決済を一括で行うサービスをMaaS（Mobility as a Service）を試行。
- ・ローカル線を巡る最近の動向として、沿線自治体を中心となり法定協議会等を設け、地域モビリティのあり方について検討。
- ・対策を実行するにあたり、道路運送法等の規制緩和等の法改正と関係者の利害調整が不可欠。

(2) 第3回オンラインセミナー

演 題：「選択を左右する認知バイアス
（行動経済学入門2）」
講 師：東北工業大学工学部都市マネジメント学科
教授 菊池 輝 氏

日 時：2023年2月28日（火）15：30～17：15
会 場：仙台市市民活動サポートセンター
参加者：49名

概 要：このセミナーは、2022年9月9日に開催した「行動経済学：なぜ人は判断を誤るのか」のセミナーの続編で、菊池先生から技術士として大変有用なご示唆を頂いた。

- ・アンカリング効果とは、人々が情報の最初の提示（アンカー）に過度に依存し、それを基準として判断や評価を行う認知バイアスの一つである。
アンカーに近い情報が提示されると、人々の判断もそのアンカーに引っ張られる傾向がある。意思決定時には、複数の情報や視点を考慮し、自己の認知バイアスに気づくことが重要。
- ・フレーミング効果とは、情報や選択肢の提示方法が人々の判断や意思決定に影響を与える現象で、同じ情報でも、その言い回しや表現方法によって受け取り方が異なる。フレーミングは、情報をポジティブな側面（利益、成功）やネガティブな側面（損失、失敗）で提示することによって、人々の意識や感情を操作し、意思決定に影響を与える効果がある。
- ・アンカリングもフレーミングも人間がもっともらしい決断ができるように進化する過程で身につけたもの。
- ・常識とは、18歳までに身につけた偏見のコレクション。
- ・これらの認知バイアスに対しては、「気をつければ間違いをなくすることができる」とは考えずに、エラーや失敗に対してシステム（社会や組織）の中で多様な相互チェック機能を備えることが重要である。

4. おわりに

今後も会員各位のご意見を反映して、実りの多い委員会にしたいと思っております。ご興味のある方のご参加をお待ちしています。

(ITS研究委員長 武田 記)

委員会・部会活動報告

男女共同参画推進委員会

東日本大震災12年後の復興見学会

～ 関係機関との連携で継続した防災の伝承を～

1. はじめに

昨年に引き続き、関係8団体で見学会を開催しました。今年は東日本大震災後12年ですので亡くなられた方の13回忌にあたります。また、関東大震災から100年の節目にもあたります。鎮魂の思いを込めて、震災被害の大きかった名取市を対象に復興見学会としました。東北だけでなく全国からの参加者がありました。

各施設では、国土交通省仙台河川国道事務所や3.11伝承ロード推進機構、震災語り部など、関係機関の方々による丁寧な説明を受け、より一層理解を深めることができました。

2. 概要

日時：2023年3月16日（木）13：00～17：00

場所：名取市震災復興伝承館

名取市震災メモリアル公園

みちのく潮風トレイル名取センター

かわまちてらす関上

主催：（公社）土木学会東北支部

共催：国土交通省東北地方整備局

（公社）地盤工学会東北支部

（公社）日本技術士会東北本部

（一社）日本建設業連合会東北支部

（一社）土木技術者女性の会東日本支部

（一社）建設コンサルタンツ協会東北支部

（一社）日本橋梁建設協会東北事務所

協力：（一財）3.11伝承ロード推進機構

参加者数：25名

3. 見学場所

(1) 名取市震災復興伝承館

「復興への歩み」コーナーでは、震災前の関上地区のジオラマや、復興に携わった方たちの証言が展示されていました。

震災以降、震災語り部や復興だよりなどで情報発信を続けている（一社）ふらむなとりは、1893年ノルウェーを出発した木造探検船「フラム号」に名を

借りたそうです。北極へ向かう途中、グリーンランド海で氷に閉じ込められたものの3年かけて自力で脱出して寄港した奇跡の船の史実に、前進への希望を込めているとのこと（写真1）。



写真1. 震災語り部の話を聞く

(2) 名取市震災メモリアル公園

追悼のための「祈りの広場」、自由に集える「憩いの広場」、震災の教訓を未来へ伝承する「遺構の広場」などがありました。遺構の広場は、震災がれきで製作した平板ブロック7千枚を、かつての関上の街区の形に敷き詰めた場所です。道路や橋などの名前、貞山運河の他に、小中学校や公民館など公共施設の写真が焼き付けられたタイルがはめ込まれていて、震災前の関上がどのような街だったかをイメージできるようになっていました（写真2）。

また、津波への油断を戒める石碑も並んでおり、昭和三陸津波後の石碑には「地震があったら津波の用心」、東日本大震災後の石碑には「地震がきたらとにかく逃げろ！」と刻まれていました（写真3）。



写真2. 「遺構の広場」と日和山（左端）



写真3. 津波への油断を戒める石碑

(3) みちのく潮風トレイル名取センター

「みちのく潮風トレイル」は、青森県八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦までの4県28市町村の三陸沿岸を1本でつないだ自然歩道です。総延長1,025kmで令和元年に全線開通しました。トレイルの名前のとおり「歩く道」です。美しい自然と風土を楽しむとともに、震災を語り継ぎ、地域に暮らす人との交流を通して、豊かな自然と文化を次世代へ受け継いでいくことを目指しているそうです。

「名取トレイルセンター」は、みちのく潮風トレイルを歩くうえで必要な情報を発信し、ハイカーや地域住民、来館者が交流できる場を提供している場所で、談話室や会議室の他、情報コーナーやハイカーズラウンジ、野営場などがありました。

みちのく潮風トレイルは太平洋岸に面したトレイルのため比較的積雪が少なく、山間部の一部を除いては冬でも歩くことが可能だそうです。各地のトレイルセンターを経由しながら、全長1,025kmをいつかゆっくり歩いてみたいと思いました(写真4)。



写真4. 名取トレイルセンター

(4) かわまちてらす閣上

名取川の河川堤防がかさ上げされ、そこに地元商店が長屋のように立ち並んでいました。従来は河川堤防をはじめとする河川部における営業行為は行えませんでした。しかし、「河川を賑わいのある水辺空間として積極的に活用したい」との全国的な要望

の高まりを受けて国土交通省が新たに制度を創設し、この区域の指定を受けることで商業施設の建築が実現したそうです。飲食店や土産、店めぐりだけでなく、小型周遊船クルーズやSUP、笹かま焼きなどの体験も楽しめるそうです(写真5、6)。



写真5. かわまちてらす閣上



写真6. 国土交通省による説明

4. おわりに

被災経験を伝えていくことはつらい面もありますが、防災への備えに重要です。今後も関係機関と連携しながら、減災・防災の大切さについての伝承を継続していきたいと思います。

本見学会の開催にあたっては、国土交通省東北地方整備局、(公社)土木学会東北支部をはじめとして、共催団体各位、3.11伝承ロード推進機構の多大なるご協力をいただきました。ここに記して改めてお礼申し上げます。

(男女共同参画推進委員会委員長 石川 記)

委員会・部会活動報告

農業部会

2022年度後期活動報告

～ 役員会の開催、研修会参加 ～

1. はじめに

農業部会の後期活動として役員会及び研修会を開催したので報告します。活動体制は前期同様新型コロナウイルスに係る緩和がなされたことから、引き続き感染症対策を実施しながら、従前と同様の活動状況に戻ったところです。第3回役員会と第4回研修会を1回ずつ開催し、多数の会員が集まって有意義な意見交換がなされました。

2. 第3回役員会 (Web会議)

日時：2023年2月8日 (水)

場所：日本技術会東北本部

参加者：9名 (写真1)

議事：①農業部会年次報告会について
②来年度農業部会役員改選について
③本部長表彰等候補者の推薦について



写真1. 役員会の様子

3. 第4回研修会

東北本部農業部会、東北農業土木技術士会、農業農村工学会技術者継続教育機構主催

日時：2023年2月8日 (水)

場所：宮城県土地改良会館5階大会議室

参加者：48名

内容：令和4年度第4回研修会

～ 農業農村整備事業の現状と農業水利施設のストックマネジメントに向けた技術開発 ～

演題1 「農業農村整備事業の現状と今後の動向」

講師：川村 文洋氏 農林水産省東北農政局

農業農村整備事業の現状と今後の動向、2023年度予算内容・新規制度と拡充、今後の農村整備の展開について、講演していただいた。



写真2. 対面での研修会の様子

演題2 「農業水利施設のストックマネジメントに向けた技術開発と今後の課題」

講師：森 充広氏 農村工学研究部門

農業・食品産業技術総合研究機構

最新のストックマネジメントの研究成果として、パイプライン、ポンプ施設、トンネル等の機能診断・補修工法並びにデジタル化に対応した技術開発について、講演していただいた (写真2)。

4. おわりに

2022年度は役員会3回と研修会を4回開催することができました。農業部会本来の活動に戻ることができ、研修会を通じて部会員の元気な姿を確認して、活発な交流を復活させることができました。まだまだ新型コロナウイルスの感染が続いておりますが、油断せず感染症に留意しつつ農業部会活動を続けてまいります。2023年度は各県支部とも交流を図り、より有意義のある活動内容になるように努めてまいります。

(農業部会 櫻井 記)

委員会・部会活動報告

電気電子部会

2022年度後期活動報告

1. はじめに

電気電子部会の2022年度後期の活動は、講演会、見学会を開催しました。その内容を以下に記載します。

2. 第1回見学会 ナノテラス(次世代放射光施設)

日 時：2022年11月16日(水)

場 所：仙台市青葉区

(東北大学青葉山新キャンパス内)

主 催：電気設備学会東北支部

後 援：日本技術士会東北本部電気電子部会

参加者：15名(内：電気電子部会参加者5名)

(写真1)



写真1. 見学会集合写真

3. 第5回講演会(Web講演会)

日 時：2022年12月14日(水)

場 所：日本技術士会 東北本部

参加者：4名

統括本部電気電子部会主催によるWeb講演会として実施

演 題：国内外の直流技術・ビジネスの最新動向
～海外における直流技術と実証、商用化の動向～

講 師：廣瀬 圭一氏

物質・材料研究機構 液体水素材料
研究センター名誉・特別研究員

講演内容

直流利活用の歴史、直流の特徴並びに欧州、米国、中国、韓国など各国の動向と日本の事例についての説明があった。

4. 第6回講演会(Web講演会)

日 時：2023年2月17日(金)

場 所：日本技術士会 東北本部

参加者：2名

統括本部電気電子部会主催によるWeb講演会として実施

演 題：2050年カーボンニュートラルに向けたイノベーション課題を考える～次世代全固体電池材料から地層処分に向けたガラス固化体まで～

講 師：大倉 利典氏

工学院大学 先進工学部応用化学科教授

講演内容

次世代全固体Naイオン電池の低コストで安全性の高い材料、新たな結晶化ガラスとその電気化学的特性について説明があった。

また、高レベル放射性廃棄物の地層処分に向けた、MgO-P₂O₅系ガラス固化体とその溶解挙動についても説明があった。

5. 第2回役員会(書面開催)

日 時：2023年3月31日(金)

場 所：日本技術士会 東北本部

参加者：13名(電気電子部会役員)

内 容：①2022年度活動報告(案)

②2023年度役員(案)

③2023年度活動計画(案)

6. おわりに

2023年度も引き続き、講演会、見学会を計画していきますので、ご参加のほどよろしくお願いいたします。

(電気電子部会 小嶋 記)

委員会・部会活動報告

応用理学部会年度

2022年度後期活動報告

1. はじめに

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、計画していた行事の半分ほどが中止となりました。前期は第1回技術サロンと研修会、後期は第2回技術サロンと第3回技術サロンを開催することができました。2022年度は、前期・後期のすべての計画行事を開催することができ、本報告では10月に実施した第3回技術サロン、12月に実施した第4回技術サロンについて報告いたします。

2. 活動報告

(1) 第3回技術サロン

日 時：2022年10月21日 18:00～20:30
会 場：日立システムズホール仙台研修室2
参加者：7名

①演題：「マイクロプラスチックの国内外の現状」

講師：利部 哲氏（株式会社パスク）

マイクロプラスチックとは何か、自然界の排出される量や何が問題になっているか等、具体例を挙げてお話しいただきました（写真1）。



写真1. 講演の様子（利部氏）

②演題：「試験孔を用いた地下水調査（2）」

講師：菊地 真氏（東北ボーリング株式会社）

海岸近傍の地下から海水に近い塩分濃度の高い地下水を揚水するために実施した調査事例を紹介していただきました。地質条件の異なる場所での揚水時の水温および塩分濃度の測定結果からそれぞれの井戸の特性や違いについてお話しいただきました（写真2）。



写真2. 講演の様子（菊地氏）

(2) 第4回技術サロン

日 時：2022年12月2日 18:00～20:30
会 場：日立システムズホール仙台研修室2
参加者：8名

演題：「プラスチックの分類とリサイクル」

講師：栗山 恭直氏（山形大学理学部教授）

プラスチックの分類法について実体験するために、数種類のプラスチック小片が異なる液体（水、エタノール溶液、食塩水）中で浮くか、沈むかによる分類実験を2名1組にて実施させて頂きました。その後、写真や映像を交えて、プラスチックのリサイクルについて、詳しく説明して頂きました（写真3）。



写真3. 実験の様子

3. おわりに

応用理学部会では、2023年度も各種CPD行事を企画しておりますので、ぜひご参加下さい。

（応用理学部会 菊地・森 記）

委員会・部会活動報告

衛生工学・環境・上下水道部会

2022年度後期活動報告

～ 再生可能エネルギー有効活用の地・秋田を訪ねて ～

1. はじめに

衛生工学・環境・上下水道部会の現地見学会は新型コロナウイルス禍のため2年間中止してきたがコロナ感染者が落ち着きを取り戻してきたことから、秋田県風の松原自然エネルギー施設や能代港洋上風力発電施設等の見学会を秋田県支部との共催で実施した。

2. 概要

日時：2022年11月1日（火）
～11月2日（水）

場所：①風の松原自然エネルギー施設
②八峰町役場庁舎地中熱ヒートポンプ施設
③秋田洋上風力発電

今回の見学会には、東北本部から5名、秋田県支部から7名（コーディネーター及びアドバイザーを含む）計12名が参加した。

3. 内容

(1) 風の松原自然エネルギー施設

風の松原自然エネルギー株式会社は、風力発電所（北地区10基・南地区7基）と蓄電池施設からなり、地元業者と能代市による事業で、一部に市民ファンド方式を取り入れている。蓄電池による変動緩和制御を行っており、災害時には蓄電池から防災拠点への電力供給が可能となっている（写真1, 2）。

運転期間：2016年12月～2036年11月
総発電量：39,100kW（2,300kW×17基）
事業目的：東北電力への全量売電



写真1. 蓄電池設備



写真2. 風の松原北地区風力発電施設

(2) 八峰町役場庁舎地中熱ヒートポンプ施設

庁舎移転に伴い2009年9月から稼働。現在の稼働状況の視察を行った。

(3) 秋田洋上風力発電

港湾管理者から港湾区域における洋上風力発電の導入経緯についての説明があり、発電事業者を公募により選定し、特別目的会社「秋田洋上風力発電株式会社」が2016年7月に設立された。この会社は、秋田港（13基）と能代港（20基）に風車33基を新設し2022年末から商業運転（発電容量140メガワット）を開始するもので、国内初の商業洋上風力発電事業である。今回は、能代港の洋上風力発電施設を見学した（写真3）。



写真3. 能代港の洋上風力発電施設

4. おわりに

今回初めて秋田県支部との共催として見学会を開催しましたが、菊地支部長はじめ秋田県立大学の高橋氏（地域連携コーディネーター）には関係機関との折衝等、多大なるご協力を頂いたことに感謝いたします。

（衛生工学・環境・上下水道部会部会長 菅原 記）

委員会・部会活動報告

技術情報部会

2022年度後期活動報告

～ 第1回講演会報告他 ～

1. はじめに

技術情報部会の2022年度後期活動としては、第3回定例会を開催し、当部会の主要な対象部門（13部門）に関連する講演会のテーマ設定に注力してきた。後期活動報告として、第3回定例会報告とこの結果を踏まえて開催した2023年第1回講演会について報告する。

2. 第3回定例会

日 時：2023年3月3日（金）15:00～17:00

場 所：日本技術士会東北本部

参加者：5名（うちWeb参加1名）

議 事：2023年度第1回講演会および今後の企画について

- ①第1回講演会内容（組織づくり）
- ②今後の企画（事業活動内容）
- ③今後の予定

3. 第1回講演会

日 時：2023年5月19日（金）14:30～16:30

場 所：仙台商工会議所 4階小会議室

演 題：「理論と事例—なぜ人を大切にするという人財が集まり業績が良くなるのか？」

講 師：桂 利治氏

（合同会社 桂利治コンサルタント事務所 代表社員）

参加者：45名（うちWeb参加31名）

内 容：

講演手法は、通常、パワーポイントを用いながら演題の説明を行っていくスタイルが主流であるが、今回はホワイトボードを使って、会場と意見交換しながらキーワードや関係性を記載して話を進め、最終的な解答を共有する手法であり、桂氏の聴衆が考える間の取り方が絶妙であった。

ホワイトボードに記載した言葉等を踏まえ、桂氏が講演した内容を以下にとりまとめた。

（1）人を大切にする経営とは（経営者からみた順番）

- ①従業員とその家族
- ②社外社員とその家族
- ③顧客
- ④地域社会
- ⑤株主

（2）建設会社の経営ではどうか

- ①安全・健康
- ②主体性（成長）
- ③やさしさ（福利など）
- ④利益（以上、レンガ職人を例に説明）

（3）目指すべきこと

- ・人を育てる会社ではなく、人が育つ会社
- ・雰囲気をよくする（雰囲気が良い＝人間関係）
- ・上司は部下の話聞き、良いところは朝礼で話す（上司が信頼される存在になる、何かあったときに気づいてくれる、相談に乗ってくれる人になる）
- （4）人を大切にする会社（離職率が低い会社など）
を実際に見学して実感することが大事

・伊那食品工業（株）、石坂産業（株）、西精工（株）等

◆ アンケート結果（22名回答）：

- ・今後のテーマについては、Chat GPTの活用と限界、SDGs、登録部門の少ない分野についての要望が多かった。
- ・多くの現地参加者から、聴講者との対面型の討論会形式が新鮮、他の参加者の幅広い考えを聞いて良かったとの感想をいただいた。
- ・一方で、Web参加者からは、講師の進め方を映像でとらえることができないなど、討論会形式が伝わらず、音声の途絶え（集音マイクが原因）も含めて、今後の伝達方法に課題が残った（映像の工夫、レジュメの用意、手持ちマイクの用意など）。

4. おわりに

今回の講演会は、現地参加者からは、通常の講演会とは異なり、講演シナリオを予め固定しないで、聴講者との対話型を進めていたのが好意的に受けとめられました。しかし、Web参加者からは、音声、映像に関する課題、レジュメの必要性などの意見をいただきました。

技術情報部会では、皆様の貴重なご意見を参考に、皆様の新技術の把握と開発創造が図られるよう、講演会・研修会を開催してまいりますので、ご支援の程よろしくお願い致します。

（技術情報部会長 丹 記）

各県支部活動報告

青森県支部

2022年度後期活動報告

～ 2022年度第2回継続研鑽研修会報告 ～

1. はじめに

連携協定を結んでいる八戸工業大学の協力の下、第18回八戸工業大学セミナーを開催した。

カーボンニュートラル (CN) は、SDGsが目標とする目標07「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、目標09「産業と技術革新の基礎をつくろう」、目標13「気候変動に具体的な対策を」等、環境に対する直接的な影響だけではなく、経済活動などのさまざまな分野に影響を与え、SDGs達成に欠かすことのできないテーマである。

2. セミナーの内容

日 時：2022年11月12日 (土)

場 所：八戸工業大学番町サテライトキャンパス

参加者：15名

(1) 青森県および八戸市のカーボンニュートラルに向けて(八戸工業大学教授 折田久幸氏)

CNは、CO₂の放出と吸収が相殺され、CO₂排出が実質ゼロの状態になることであり、その目的は、電力流通、燃料流通、熱流通を横断する技術によりエネルギーを蓄積して、時間的、空間的にエネルギーの需要と供給をバランスさせる社会を目指すものである。

2050年のCNの目標に向けて、技術および経済社会のイノベーションが必要になるため、関係省庁は、国、自治体、企業、国内外大学等との連携強化と発信力を高める場として「大学等コアリション」を立ち上げ、八戸工業大学はこれに参加表明した。

CN社会は、各地域に適した多種多様なCNシステムと、それらを束ねる統合システムで構成され、八戸工業大学では、地域のCNを目指して地域と連携した取組みを行っている。取組みの1つとして、ほとんど廃棄されていた200℃以下の排熱を水から氷になる際の潜熱を利用して、氷を製造することができる新型の吸収冷凍機を開発した。これを八戸港等で活用することにより、未利用エネルギーの拡大が期待される(写真1)。



写真1. 折田 久幸氏 写真2. 信山 克義氏

(2) カーボンニュートラルに貢献するバイオプラスチック(八戸工業大学教授 信山克義氏)

「カーボンニュートラル」の実現を目指す中で、化石資源をはじめとする枯渇性資源の使用削減や温室効果ガスの排出抑制、海洋の新たなプラスチックごみによる汚染をゼロとしていくための必要な施策として、環境に優しいバイオプラスチックの利用が注目されている。

プラスチックは、石油を精製する過程で得られるナフサが主原料となっており、文房具や包装、家庭用品等、幅広い分野で使われている。

バイオプラスチックは、植物などの再生可能な有機資源を原料とするバイオマスプラスチックと、微生物等の働きで最終的に二酸化炭素と水にまで分解する生分解性プラスチックとの総称である。

廃プラスチックの有効利用率の低さや、海洋ゴミ問題(マイクロプラスチック汚染)等が深刻となっている中、プラスチック資源循環促進法が2022年4月にスタートし、プラスチック製品の3R(削減、再使用、再利用)の取組みと再生可能な資源(紙、バイオプラスチック等)の使用が強化されることになった(写真2)。

3. おわりに

カーボンニュートラルとバイオプラスチックの取組みについて学んだ。どちらも我々の生活環境を改善し、持続可能な社会を実現する上で必要な取組みと感じた。

(CPD委員会 鈴木 記)

各県支部活動報告

岩手県支部

2022年度後期活動報告

1. はじめに

今期は、当支部各研究会の活動が非常に活発化した時期であり、本格的なポストコロナ社会への移行という局面を実感した時期でもありました。今期に活動した岩手県支部、各研究会の内容を以下に報告します。

2. 2023年新春講演会

日時：2023年1月28日（土）15:00～16:30

場所：エスポワールいわて（岩手県盛岡市）

参加者：48名（内Web聴講参加者8名）

講師：井良沢 道也 氏

（岩手大学名誉教授・非常勤講師 前岩手大学農学部森林科学科教授）

演題：シリーズ岩手を知る（第26回）

「地域と共に創る減災を目指して」

～ 近年の東北地方で多発する

土砂災害から学ぶこと～

NPO法人土砂災害防止広報センター理事の井良沢氏を招き「地域と共に創る減災を目指して」と題して御講演頂きました（写真1）。



写真1. 井良沢氏による講演の様子

井良沢氏からは、東北地方の土砂災害の特徴や、住民の警戒避難時の課題など、全国各地の事例をもとにきめ細かく御説明頂きました。近年の東北地方の土砂災害は、現時点では予測が非常に困難であると認識されており、火山灰、風化花崗岩などで谷の

形成が未発達な斜面では、気象条件の影響を受けやすいと述べられていました。また、住民の警戒避難時の課題では、地域全体での避難行動を高める行政主導の「送迎避難」の検討や、土砂災害の避難訓練など実効性のある取組みの重要性を述べられるとともに、災害を語り継ぐためには学校と行政が連携して多くの土砂災害防災教育の実践がなされ、「学ぶ立場」「ボランティアの立場」「語り部の立場」など様々な立場での関与の必要性を述べられていました。

最後に、スマートフォンのライダー機能を斜面防災に活用した事例を述べ、「皆様方は他にも良いアイデアをお持ちだと思います。ぜひ実践&情報共有願います」と訴えられていました。

3. 委員会・研究会活動

3.1 2022年度農業研究会現場研修会

日時：2022年10月27日（木）12:30～17:30

場所：岩手県盛岡市、八幡平市、紫波町、

参加者：31名（説明者5名含む）

説明者：盛岡地域振興局 農政部農村整備室
農村環境課2名、農村整備課3名

岩手県支部農業研究会では、会員の技術研鑽に資する活動として、「農地整備事業（農道橋、ほ場整備とスマート農業、揚水機場整備）」をテーマにした、下記地区の現地研修会を実施しました。

- (1) 農地整備事業（通作条件整備）巻堀2期地区
- (2) 農地整備事業（経営体育成型）後藤川地区
- (3) 農地整備事業（経営体育成型）星山・犬吠森地区

今年度の現地研修会は、農道橋工事の現場や、スマート農業の取組み、揚水機場整備での水利権変更手続き、電力料金の検討などを実施しました。昨年に続き若い技術者の参加が多く、女性技術者は全体の1/3を占めていました。また、研修会場では活発な質疑があり、その都度、説明者の方からは丁寧なわかりやすい説明・回答を頂きました。

3.2 2022年度応用理学研究会野外見学会

日時：2022年10月28日（金）9:00～16:30

場所：岩手県北上市和賀町岩崎新田、山口、横川目、岩沢地内

参加者：24名（講師1名、現地案内2名含む）
 テーマ：北上市西部における新第三紀の地質見学と
 水沢鉱山跡を訪ねて

講師：大石 雅之氏

（理学博士/元岩手県立博物館学芸部長）

※水沢鉱山跡現地案内：早川 英信氏

泉 喜久雄氏

※オブザーバー：佐藤 修一郎氏

（岩手県立博物館 専門学芸調査員）

応用理学研究会では、昨年度に引き続き、継続研鑽の一環で現場見学会を企画しました。当日は大石先生から多くの貴重な地質の話を頂けた他、急崖ありの山道を歩いての地質観察、沢を渡っての魚鱗化石と断層観察、隆盛に思いを馳せての水沢鉱山跡の見学、紅葉を愛でながらの貴重な秋の一日となりました。

3.3 鉄道研究会現場研修会

日時：2022年11月17日（木）14:00～15:30

場所：JR東日本 東北本線 岩手飯岡駅

参加者：4名

鉄道研究会では岩手飯岡駅の現場研修会を実施し、下記内容について詳しく説明を頂きました。

- (1) 現場事務室での事業概要及び工事内容説明
- (2) 工事現場から事業概要及び工事内容、及び各施設の仕上がり状況の確認
- (3) 今後の工事として、既設こ線橋の撤去等



写真2. 岩手飯岡駅の工事現場内

3.4 建設ICT生産システム研究会

盛岡広域振興局土木部BIM/CIM勉強会

日時：2022年11月30日（水）13:30～15:30

場所：盛岡市広域振興局8F大会議室

参加者：16名

講師：村上 功氏

（日本技術士会東北本部岩手県支部 建設ICT生産システム研究会副代表）

佐々木 高志氏

（株式会社昭和土木設計 ICT推進室室長）

国土交通省が推進しているBIM/CIM（建設生産・管理システム）が2023年に原則適用になるなど、建設分野でのDXの動きが活発化しています。さらに、岩手県土整備部では「BIM/CIM活用業務実施要領」が12月1日から適用になるなど、国土交通省に追随した施策が展開されています。こうした中、建設ICT生産システム研究会では盛岡広域振興局土木部から勉強会の要請があったため、今回の開催に至りました。勉強会は、下記内容をペーパーレス形式で実施しました。

(1) 建設分野の変革に向けて

(2) BIM/CIM勉強会

3.5 施工研究会現場研修会

日時：2023年2月17日（金）

場所：岩手県盛岡市盛岡駅前通1丁目

～ 本宮松幅地内

参加者：19名

説明者：盛岡地方振興局土木部2名

大成建設株式会社1名

施工研究会では杜の大橋上部工工事について、発注者からは事業概要を、施工者からは現在までの進捗状況を、説明板を使用して説明頂きました。

事業期間：2012度～2024年度

事業概要：杜の大橋2期上部工工事 L = 494 m
 7径間連続PC箱桁移動作業車での張り出し工法

4. いわてまるごと科学・情報館

日時：2022年12月16日（金）～17日（土）

場所：ビッグルーフ滝沢

参加者：4名（岩手県支部より）

最先端の科学技術や最新ICT（情報通信技術）に触れて、学べる展示・体験会である、いわてまるごと科学・情報館に当支部が参加しました。内容は協賛団体である株式会社タックエンジニアリングによるCVESmap Viewerや3DマップとVRによる自然体験、UAV操縦シミュレーション等のブース出展の他、パネル展示では今まで当支部で実施した講演会「シリーズ岩手を知る」のポスター一覧と技術士の紹介パネルを作成しました。

5. おわりに

最近では当支部主催の講演会や各研究会の活動等が、コロナ禍以前のように対面で実施されることが多くなりました。今期は個人的に対面、オンライン両方の形式で参加し、そのどちらにも長所があると改めて感じました。今後も引き続き、それぞれの長所を生かして講演会や研修会活動に参加し、継続研鑽していきたいと考えています。

（広報委員会委員長 利部 記）

委員会・部会活動報告

宮城県支部 (1/2)

2022年度 第1回 技術委員会 講演会報告

～「道の駅」第3ステージの取組みについて～

1. はじめに

宮城県支部技術委員会企画の2022年度第1回講演会は、仙台河川国道事務所田中事務所長をお招きし、前職の本省道路局企画課評価室企画専門官でご担当された「道の駅」第3ステージの取組みについてご講演いただいた。

当日は、コロナ感染対策から少数の会場参加とWebによる参加の併用開催とし、会場28名、Web47名の合計75名の参加者となった。

日時：2022年12月9日(金)

14:30~16:25

場所：株式会社復建技術コンサルタント 4F会議室

2. 講師紹介

講師：田中 誠柳氏 (仙台河川国道事務所所長)



写真1. 田中氏による講演の様子

田中氏は秋田県美郷町ご出身で、建設省東北地方建設局湯沢工事事務所に採用され、長く道路行政に携わってきた。東日本大震災時には仙台河川国道事務所直接現場を、本局道路部道路計画第一課課長補佐では膨大な予算管理を担当した。その後は2度の本省勤務、三陸国道事務所事務所長、道路部道路調査官を歴任し、本年4月から現職に就いている(写真1)。

3. 講演内容

- (1) 「道の駅」の目的と機能について
- (2) 「道の駅」第3ステージについて
- (3) ポストコロナを見据えた対応について
- (4) その他

以上の4つの項目について図表や国内外の事例を用いて詳しく解説していただいた。

(1) 「道の駅」の目的と機能について

1993年の制度創設時は103駅が現在では1198駅、すべての都道府県に設置されている。2016年のデータでは、道の駅の年間売上額が約2500億円でコンビニ業界であれば4位に匹敵する規模で、全国に拡大されてきた。

【道の駅の目的】

- ・ 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・ 地域の振興や安全の確保に寄与

【道の駅の基本コンセプト】

- ・ 地域とともに作る個性豊かなにぎわいの場
- ・ 休憩機能、情報発信機能、地域連携機能、災害時には防災機能を発現

「道の駅」は、24時間使用できる駐車場及びトイレ(原則洋式化)、ベビーコーナーの他、道路や地域に関する情報提供、文化教養観光レクリエーション施設などの要件を備え、市町村長等が国土交通省に申請した後に登録される。

(2) 「道の駅」第3ステージについて

道の駅は社会情勢の変化に対応して、第1、第2ステージを経て第3ステージに入った。

- ・ 第1ステージ (1993年～)
『通過する道路利用者のサービス提供の場』
- ・ 第2ステージ (2013年～)
『道の駅自体が目的地』
- ・ 第3ステージ (2020年～2025年)
『地方創生・観光を加速する拠点』

新「道の駅」のあり方検討会において第3ステージの目指す3つの姿が提言された。

①道の駅を世界ブランドへ

外国人案内所は2021年9月で1561か所と年々増加、道の駅においても237個所が認定を受けている。また、旅の拠点となるホテルを道の駅等の隣接地に開業（以下◆は紹介された事例）。

◆道の駅「ニセコビュープラザ」[発酵の里こうざき]

◆地方創生 TripBase 道の駅プロジェクト

②新「防災道の駅」が全国の安心拠点に

中越地震では、道路利用者や地域住民の一時的な避難場所として活用、駐車場は支援物資の集配基地、災害復旧車両の中継基地として機能

◆道の駅「クロス十日町」

東日本大震災でも20以上の道の駅が避難や救援から復興に至るまで拠点として活躍

◆道の駅「大谷海岸」「三本木」「やまだ」「そうま」「遠野風の丘」

制度面からは、都道府県の広域的な防災計画及び国交省の新広域道路交通計画に位置付けられ所定の要件を満たすことで「防災道の駅」として認定、ハード・ソフト面から重点的な支援を実施。

◆全国で約100駅を想定、現在39駅うち東北はしちのへ等5駅を認定

また、市町村を含めた地域防災計画等に位置付けがある道の駅やSA・PAを対象として災害時に防災拠点としての利用以外を禁止・制限できる防災拠点自動車駐車場指定制度を創設。

◆道の駅「津山」「あ・ら・伊達な道の駅」「上品の郷」「おおさき」

③あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターキッズルームや図書ルームの整備、親子教室や子育て相談や講演を実施。地域の子育て世代を幅広く応援。

◆道の駅「パレットピアおおの」

自販機でおむつのばら売りや液体ミルクを販売し子育て応援に配慮。

◆道の駅「北オホーツクはまとんべつ」「ふたつ」「あらエッサ」「国見あつかしの郷」「赤城高原」
大学と連携し新たな価値の創造、観光や地域づくりを担う将来の人材育成や地方創生などに寄与

◆道の駅「いちごの里よしみ」+立教大学、「瀬女」+金沢星稜大学、「吉野路大塔」+帝塚山大学、「鴨川オーシャンパーク」+城西国際大学 など26大学

地域の高齢化に対応し、役場機能など多様な住民サービスのワンストップ化、週5日の移動販売で日常生活を支援

◆道の駅「美山ふれあい広場」「七ヶ宿」

高齢化が進行する中山間地域で生活の足を確保する自動運転サービス、ドローンによる新鮮野菜の集荷販売の実証実験、ケーブルテレビリモコンを活用してドローンやトラックでデリバリーサービス

◆道の駅「かみこあに」「やよい」「南アルプス長谷」

(3) ポストコロナを見据えた対応について

コロナ禍においても感染症対策を実施しながら地域の日常生活を支援するため、販売経路拡大やインバウンド対応に繋がる取組みが実施された。

日常生活を支援する取組みでは、手作りマスク、地元野菜のドライブスルー、弁当等のテイクアウト販売

◆道の駅「とみうら」「ましこ」「上田おとぎの郷」

ポストコロナを見据えオンラインショップの開設、キャッシュレスの導入

◆道の駅「庭園の郷 保内」「常陸大宮」

ニューノーマル対応として道の駅公式通販「おうちで道の駅」「朝採りマルシェ」「台湾向けEC」を運営（(一社)全国道の駅連絡会）、地元農家や加工業者、道の駅で働く方々を支援

◆道の駅「もてぎ」

その他、首都圏のビジネスパーソンを受け入れるワーケーション環境の整備、ドライブインシアターの社会実験などへ取組み

◆道の駅「開国下田みなと」「川場田園プラザ」

(4) その他

道の駅は「Michi-no-Eki」として主にJICAの支援により海外で整備が進められ、インドネシア南スラウェシ州パンタエン県に2018年以来10個所をオープン、ベトナム、タイ、カンボジア、アルメニア、エルサルバドル等で進められている。

国内では、(一社)全国道の駅連絡会や各ブロック連絡会が活動、地域の課題（ニーズ）、賛助会員の企業ノウハウ（シーズ）をオンラインでマッチングする取組みを実施している。

4. おわりに

田中所長にはご多忙の中、我々にも身近な道の駅についての貴重なご講演ありがとうございました。道の駅の将来が大いに楽しみで感じました。

会員各位には、紹介のあった道の駅について検索し、是非機会を作って足をお運びください。

(技術委員会 柴田 記)

委員会・部会活動報告

宮城県支部 (2/2)

2022年度 第2回豊年技術士懇談会活動報告

「伊達政宗の城づくりと国づくり」

1. はじめに

東北のコロナ感染者が減ってきた中で、講演を会場とWebのハイブリッドで実施した。

「戦国日本と大航海時代」を著した書籍で当時のスペインとポルトガルから日本を守ったという語り口やその分かり易さ、テーマの興味性などから大変好評だった平川新先生に再度登壇をお願いした。

TVドラマの「どうする家康」から同時代に生きた「どうする政宗」に焦点をあて城づくり国づくりを語っていただいた。

2. 内容

日 時：2023年2月17日(金) 15:00～17:00

場 所：(株)復建技術コンサルタント 4F 会議室
Web併用で開催

参加者：62名(会場38名 Webは24名)

講 師：平川 新氏

(サン・ファン館館長、東北大学名誉教授)

2.1 藩都移転先の流れ

政宗は米沢で生まれ育ち25歳のとき秀吉の命により岩出山に遷った。34歳のとき関ヶ原の合戦を経て翌年1601年に仙台築城に着手した。家康に気遣い本命の榴ヶ岡を外し青葉山に申請した所その通りの認可になった。この城は要害堅固な巨大な山城で平城の北目城との組み合わせで政宗好みの城郭構想にも一致した。当時の上杉氏の春日城や甲斐武田の躑躅ヶ崎館も平城と山城の組み合わせであった。

2.2 仙臺センダイへの思い

城普請の縄張り始めの時、国分氏時代の「千代」から「仙臺」へ改字した。これは、不老不死の仙人が住む悠久の場として政宗の理想をこめたもので「唐詩選」の長安の五城楼から着想した。実際仙台城には5つの櫓があって(巽、艮、西門、西脇、東脇の各櫓)それが五城楼ともいわれた。政宗の和歌に「入りそめて 国豊かなるみぎりとや 千代と限らじ 仙臺の松」がある。

2.3 仙台城の築き「石垣」

戦国時代以前は空堀や土塁などが曲輪の標準だが、織田信長や豊臣秀吉の頃はすでに石垣があった。政宗は朝鮮出兵の際、肥前名護屋城を造るときに石垣を利用した城づくりを習い、朝鮮では上方の大名に

劣らないほどの倭城(金海竹島和城)を築城した。これらのやり方は朝鮮の城造りと石切りや石積み^{いしづみ}の仕方、城郭構造に大きな違いがあった。朝鮮の城は邑城^{いけい}といわれ、世界遺産の水原邑城が有名である。

仙台の築城は1期から3期に分かれ、1期1601年の石垣は野面積みで石を横に積んだ。2期1616年で野面積みに石を縦積みした。3期1683年には、石の表面を加工したもので、切石整層積みで処理した。政宗時代のものは2期と同種のものを追廻の広瀬川で見ることが出来る。

3. 伊達政宗公の都市ビジョン

政宗は1601年には城と城下町づくりを開始し、街道、宿場、木挽堀(貞山運河)を始め、寺社、新田開発、さらに慶長遣欧使節など海外進出を進めた。

仙台は南北軸に奥州街道、東西軸に大手門から仙臺緑彩館、アーケード、仙台駅がある。この東西線の通りには統一性がなく、ストーリーが見えないことから、人流を増やす工夫と大手門を再建し「大手門通り」を新しい通称にすべきと提案している。



写真1. 平川新氏による講演の様子

4. おわりに

政宗の町づくりの説明にはまだまだ紙面・時間が足りない。次回に再度講演を行うことで先生にお願いしたら快く引き受けていただいた。

(豊年技術士懇談会委員長 岸 記)

委員会・部会活動報告

秋田県支部

2022年度 後期活動報告

1. はじめに

秋田県支部では、2022年度第3回CPD事業として、秋田県支部会員による技術発表「講演会」を開催いたしました。

以下にその活動概要を報告致します。

2. 秋田県支部会員による技術講演会

(第3回CPD事業)

(2023年1月27日実施 参加者81名)

会員による技術発表として、2名の講師を迎え、それぞれの専門に関して御講演をして頂きました。

講演①：「i-Constructionの推進 コンクリート構造物の設計施工段階における生産性向上について」

講師：藤田 勝氏（株式会社 ウヌマ地域総研）
技術士（建設部門／総合技術監理部門）

国土交通省でi-Constructionのトップランナー施策の一つとして進められている「コンクリート構造物の設計・施工段階における生産性の向上について」の御講演をして頂きました。

特に、小型コンクリート構造物のプレキャスト製品活用やValue for moneyを考慮した比較検討方法について、豊富な事例を交えてのわかりやすい講演でした。

最後に、経済比較時のLCCおよびCO₂削減効果の評価については、今後の継続的な検討課題であるとして御講演を閉じられました（写真1）。



写真1. 藤田氏の講演の様子

講演②：「九州・四国で経験した土砂災害への対応例」

講師：小田桐 七郎氏（株式会社 さくら技研）
技術士（建設部門）

全国で毎年のように梅雨前線や台風等の豪雨により土砂災害が頻発する中、講師が九州および四国で勤務されていた時代に経験した、各種災害業務についての御講演をして頂きました。

主に、「道路改良区間で発生した地すべり」「主要国道で100mの高さから発生した1.9tの落石」「山地内で発生した深層崩壊を起因とする土石流」について、一連の調査提案から対策工の設計事例やシミュレーションを用いた検討事例などが紹介されました。

10年以上前の災害対応事例とのことでしたが、今でも、着目点、考え方、手法等を含めた検討内容は色あせることなく、今後の災害業務においても十分に役立つ有益な御講演内容と感じました（写真2）。



写真2. 小田桐氏の講演の様子

3. おわりに

どちらの講演も、我々技術者にとって業務に直接関連する非常に興味深い内容でした。今後も支部会員の皆様のご協力を得ながら、多数の方々への有意義な企画と情報提供に心がけ、技術力の向上につながるようなCPD活動に努めたいと考えております。

（企画広報担当 浅川 記）

委員会・部会活動報告

山形県支部

2022年度後期活動報告

～ 令和4年度技術教養講座 ～

1. はじめに

「技術教養講座」は、山形県支部の前身である山形県技術士協会の時代から山形県、他協会の後援を得て、継続して実施している事業です。参加費は無料で、技術士会会員のみならず、どなたでも参加できる市民向け教養講座として毎年開催しています(写真1)。

2. 技術教養講座の開催概要

令和4年度(第28回)技術教養講座

日時:2022年11月11日(金)

場所:山形県高度技術研究開発センター
多目的ホール

参加者:49名(会員26名、一般23名)

講演内容

(1)「ガラパゴス諸島の保全の科学」

講師:里見 嘉英氏

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会
理事 博士(獣医学)

(2)「印刷エレクトロニクス - 開発と標準化 -」

講師:古川 忠宏氏

山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター准教授

3. ガラパゴス諸島の保全の科学

ガラパゴス諸島は、19の主要な島と小島などから成り立っており、ホットスポットによって島が形成されたため、新旧の島が列状に並んでいる。これにより、諸島の中で変化に富む環境を生み、生物が環境に適応して進化する要因となる。



写真1. 技術教養講座の様子

ガラパゴスゾウガメは、2015年に新種が1種認

定され16種となった。そのうち3または4種が絶滅種となっている。絶滅種の島搜索のほか、交雑種による繁殖プログラムや、飼育個体からの絶滅種の搜索、人工繁殖プログラムが行われている。かつて20万頭いたゾウガメが戻るためには、諸島の環境整備も必要である。

4. 印刷エレクトロニクス - 開発と標準化 -

山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンターは、有機EL技術をコアテクノロジーとして研究開発を高度化・加速化し、ニーズファースト型産学官連携により地域におけるイノベーション創出と活性化を図っている。

エレクトロニクス印刷は、フレキシブル基板を用いたRoll to Roll法大面積有機EL照明製造の技術開発と有機ELを用いて、米沢伝統工芸品とのコラボ商品の開発などを行っている。標準化には、デファクト標準、デジュール標準、フォーラム標準などがあり、標準化することでコストダウンを図れる一方で、標準化することを条件に特許の無償提供を求められる場合もある(写真2)。



写真2. 古川氏の講演の様子

5. おわりに

今年度の教養講座は、ガラパゴス諸島の種の保存に向けた取り組みでは、人によって生息数を減らした一方、人為的に移動させられ生まれた交雑種が絶滅した種の遺伝子を残していることや、フレキシブル基板の技術開発から製品開発や、標準化によって生まれる新たな技術開発など、多角的な視点を持つ必要性を得る事が出来ました。

高度な内容を身近な事例で紹介していただき、有意義な講座でありました。

(広報委員 安部 記)

委員会・部会活動報告

福島県支部

2022年度 後期活動報告

1. はじめに

福島県支部2022年度後期の活動期間では、依然新型コロナウイルス感染症の第8波による影響で様々な制約が継続されていましたが、ピークを越えてからはアフターコロナへの兆しが見え始めているところでした。福島県内では、2022年8月の豪雨によりJR磐越西線の橋梁の一部流失等の再来する大規模災害による甚大な被害が発生しましたが、2011年7月の新潟・福島豪雨により被害を受けたJR只見線が2022年10月に全線で運転が再開される等、復興を発信する明るいメッセージがありました。

一方本県では、原子力災害により失われた震災前の本来の町並みと活気が戻らない限り依然復興とは言えない現状にあります。これはロシアのウクライナ侵攻による悲劇を目にする事により一層思いが深まる事でもあります。避難指示区域解除の拡大と住民の皆さんが戻られる地区も徐々に増えていますが、私たち技術者は現実を糧にする事とこれからの世代が開く未来に広く目を向ける事が使命であると考えます。

2022年度福島県支部後期活動では、12月に第4回CPD研修会を講演会場（福島市）への参加とオンラインによるハイブリッドで開催する事ができました。

以下に研修会の概要と各講演の要旨について報告いたします。

2. 第4回CPD研修会

第4回CPD研修会は、会場開催により二人の講師をお招きしての貴重な講演会となりました。

ハイブリッド開催は本支部では2回目となりますが、会場は関係者の皆様のご協力により、万全の感染症対策と事前準備等により円滑なオンライン配信を行う事ができ、通常の会場開催同様の環境で多くの方が参加されました（写真1）。

日時：2022年12月12日（月）

13:20～16:55

場所：コラッセふくしま多目的ホール（福島市）



写真1. 第4回CPD研修会講演会場の様子

(1) 講演1

演題：「身を守る『術』としての倫理」

講師：名倉 隆氏

（日本技術士会東北本部CPD委員会委員長）

講師の名倉氏は、日本技術士会東北本部のCPD委員会委員長に就かれており、東北学院大学環境建設工学科非常勤講師、日本技術士会東北本部倫理研究委員会委員長を歴任される等、日本道路公団時代からの卓越した経験に裏付けられた高い見識をお持ちの方で、多方面でご活躍されています。

本講演では、贈収賄事件はどのように起きるかについて、東京五輪汚職事件を例に関係する立場で変わってしまう事の脆弱性についてご解説いただきました。また、「理屈の倫理」から「実践の倫理」への考え方について技術士を支える「法」と「倫理」の関係から、事例から見る技術者の倫理と公衆の利益の優先と安全文化について、国家公務員倫理規定と想定問答により分かりやすくご解説いただき、福島県倫理審査会議事録等についてもご紹介いただきました（写真2）。



写真2. 第4回CPD研修会講演の様子(名倉氏)



写真4. 第4回CPD研修会講演の様子

2) 講演2

演 題：「コンポストからはじまる地域づくり」

講 師：鴨志田 純 氏(鴨志田農園)

講演2では、鴨志田農園を主宰されている鴨志田氏を講師にお迎えし、農園に係わるコンポストの取組みとこれによる様々な社会活動について、貴重なご講演をいただきました。

鴨志田氏は、数学教育がご専門で防災士としても防災教育に取り組まれておりますが、コンポスト(堆肥)によって社会を変えていく、どうゆう野菜をつくるかは、どうゆう社会をつくるかに繋がる事を様々なプロジェクトや成功事例のご紹介により、自立分散型コンポストシステム構築に向けた小規模実証実験について詳しくご説明いただきました。



写真3. 第4回CPD研修会講演の様子(鴨志田氏)

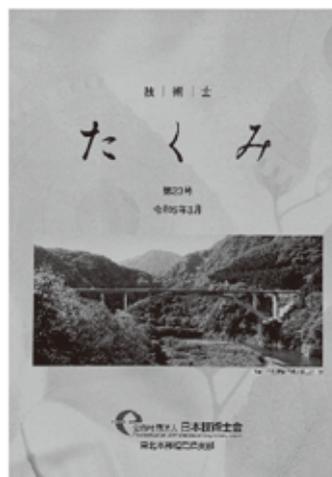
鴨志田氏は福島大学大学院食農学類修士課程で2023年度から新たな学びを得る予定です。

講演では数多くの専門的なデータと具体的な状況について非常に理解しやすい資料とご説明で、普段では目にする事が少ない農業技術等の非常に興味深い内容で、新たな知見を得る事ができました(写真3、4)。

3. おわりに

福島県支部では、継続する支部活動として、機関誌「たくみ」を年度末の3月に発行しております。掲載内容は福島県支部の各委員会活動や特集に関する寄稿、技術論文、技術士試験合格体験記等から構成されます。本号では特集として「只見線全線運転再開」に関する寄稿やCPD研修会の概要につきましても支部会員による参加報告として掲載されております。「たくみ第23号」につきましては、執筆いただきました皆様のご協力により、2023年3月に発行する事ができました(資料1)。

また、本研修会の内容につきましては、「たくみ第24号」での掲載を予定しております。



資料1. 支部機関誌「たくみ」

当支部のホームページでは、本機関誌のWeb版を第13号より第23号まで掲載しておりますので、皆様にご覧いただくことができます。

(広報委員会副委員長 佐藤 記)

技術士試験合格体験記**2022年度 建設部門 建設環境****技術士二次試験に合格すると、何かが変わる！****志小田 可奈子**技術士（建設部門 建設環境）
株式会社ドーコン 東北支店
環境保全チーム 主任技師**1. はじめに**

私は株式会社ドーコンに入社し、今年で9年目、現在は東北支店で生物系技術者として、生き物と人間の懸け橋となるべく日々奮闘しております。

大学を卒業後、美術館で学芸員の補助をしつつ、周辺の里山で野生生物の調査をしていました。次に公務員となり、家畜伝染病を取り締まる部署で働きました。そこからの建設コンサルタントです。しかし、軸は常に生き物です。

2. 二次試験に関するいくつかの覚書**2.1 勉強方法よりもマインドの持ち方**

私の場合、先輩方の体験記や受験対策の書籍などを色々見て、自分にフィットするものを少しずつ選んで組み合わせました。具体的には、①イラスト化、②模範解答の書き写し等、自分が得意且つ飽きない方法を取り入れ、モチベーションを保ちました。

合格した今思うことは、勉強方法よりも合格したいという気持ちを強く持つことだったと感じます。「取らなくてはならない」から「獲りに行ってやる」に意識が変わった年、私は合格しました。私の場合は、ライフワークである世界の国立公園巡りの経験を技術士として活かしたい、という思いを持ったことがきっかけで本気になりました。昔から好きな言葉のひとつは、「動機は不純な方が良い」です。

2.2 周りに思いっきり甘える

私は会社の資格取得支援を徹底的に利用しました。筆記試験では、多忙な上司や先輩が指導に多くの時間を割いてくださり恐縮しましたが、合格することが恩返し、ここは甘えようと決めて取り組みました。

口頭試験でもまた思いっきり甘えました。模擬面接を社内で6回、建設コンサルタンツ協会で1回、合計7回も受けさせて頂いたのです。口頭試験＝会話形式の自己紹介プレゼンテーションだと思います。プレゼンを成功させるには、練習あるのみです。

2.3 ラスボス打倒の鍵は受験申込書

業務の初動に追われつつ作成する受験申込書ですが、実はここがラスボス打倒＝合格の鍵です。ラスボスとは「技術士に求められるコンピテンシー」です。

口頭試験は受験申込書の詳述論文を中心に、コンピテンシーに沿って質疑応答が行われます。書き方は割愛しますが、受験申込書はこちらを意識して作成しておくことと安心です。私は上司の指導の下、ある程度こちらを踏まえて詳述論文を記述していたので、試験当日は自信をもって回答することが出来ました。

3. 二次試験に合格すると、何かが変わる！

令和5年3月31日、深夜に帰宅すると技術士会から封書が届いていました。待ちきれずにキッチンで封書を開け、まるで賞状のような登録証を眺めていると、これまで携わった業務が次々と思い出されました。とても悩み苦労した業務もありましたが、振り返ると、その記憶には必ず生き物の姿があり、そしてそれを見守る笑顔がありました。

技術士の資格を持ったことで、これまでの経験に対する自信が持てるようになったと同時に、技術士として人々や生き物の役に立てるよう、より一層責任感を持って臨もうと考えるようになりました。

これからも、日々技術研鑽に努め、樹木のようにまっすぐ成長していきたいです。そして、人々にとっても、生き物にとっても、「何だか心地よくて明日も楽しみ」な社会作りに貢献したいと思います。

4. おわりに

お忙しい中、資格試験のサポートや面接指導をしてくださった上司や先輩、建設コンサルタンツ協会の皆様に心から感謝申し上げます。また、コロナ禍の中でも安心して受験できたことは、技術士会をはじめ、多くの方々のご尽力のお陰であると感じております。本当にありがとうございました。

技術士試験合格体験記



2022年度 総合技術監理部門

技術士第二次試験に合格して

遠藤 新一

博士（工学）

技術士（情報工学部門, 総合技術監理部門）

アルプスアルパイン株式会社

デバイス事業担当 第1ソフト技術部

1. 総監技術士を目指す決意

情報工学部門の技術士になったのが令和元年度である。業務では、車載製品の組込みソフトウェアの設計を専ら行っている。しかし、ここ数年、車載製品の難易度が非常に高くなり、製品品質の確保に苦戦している。「これは今から何とかしないと、将来大変な事になる」という危機感を常に抱いていた。この現状を打破するための施策の1つとして、「総合技術監理」の視点、つまり製品に関係する部門を横串で見て、全体最適を図る事が必要ではないかと考えた。これを契機に「総監技術士になりたい!」という思いを強く抱き、第二次試験を受験した。

2. 試験対策

2.1 業務経歴票の作成で勝負が決まる!

一番の注意点は総合技術監理の原理原則に基づく事である。もし自分の専門分野で業務経歴を書いてしまうと、一般20部門との違いが無く、口頭試験で苦戦することになる。業務経歴の詳細は、総監技術士として適切な内容を記載しなければならない。何度も推敲を重ね、5つの管理・トレードオフといった総監の肝となる「リスク管理能力」に焦点を当てた記載になるように努めた。

2.2 筆記試験攻略に向けて:

「択一式7割、記述式5割作戦」を実行!

筆記試験には、択一式と記述式の2種類がある。択一式では、日本技術士会が発行している「キーワード集」、過去問をベースに知識の補充を図った。記述式については、株式会社新技術開発センターの通信教育講座を受講し、論文の記述訓練を行った。筆記試験は択一式と記述式の合計点が6割以上で合格なので、択一式は、消去法を駆使して7割正解を狙いたい。そうすれば、記述式は5割を目指せばよいので、精神的に楽になる。これは択一式が絶対評価、記述式が相対評価であることを踏まえている。記述

式では、自分がよく知っているプロジェクト（車載製品プロジェクト）に関する記述を必ず求められるので、そのネタを事前に用意した。

2.3 口頭試験攻略に向けて:

完璧を目指さず6割以上を目指そう!

筆記試験合格後に、口頭試験の対策を練った。業務経歴書の詳細内容に関する想定質問を考え、それに対してどう答えるかをノートに書き出した。その後、声に出して回答する訓練も行った（本番で緊張しても声を出せるようにする為）。回答の仕方に悩み始めてしまうと、本来持っている力を出すことができなくなるので、完璧を目指すのではなく、合格基準の6割以上を目指すことにした。

3. 試験本番、そして合格へ

筆記試験では、緊張はしなかった。ただ、まとまりのある論文にするために、時間ギリギリで論文を書き終える展開となった。「択一式7割、記述式5割作戦」は功を奏し、筆記試験に合格した。その後の口頭試験では、予想に反して、答えやすい質問ばかりであった。比較的和やかな雰囲気でも口頭面談は進み、力を出し切る事はできた。第二次試験合格発表日に自分の受験番号を発見し、嬉しさが一気にこみ上げてきた。苦労が報われた瞬間である。

4. 総監技術士になった今思う事

こうして「総監技術士になりたい!」という思いは実現できた。日本国に認められたという事である。しかし、ここからが真価を問われることになる。業務における製品品質の確保に加えて、公衆の利益を最優先に行動を取っていく事が求められる。一方で、2部門を取得したプレッシャーを感じている。常に継続研鑽を行いながら、日本の将来を明るくする為、「科学技術」で大いに貢献したいと思っている。

表彰者の紹介

2023年度会長表彰受賞者

日本技術士会 第65回定時総会が2023年6月15日（木）大手町サンケイプラザにて行われ、東北本部から以下7名の方が2023年度日本技術士会会長表彰を受賞されましたのでお知らせします。

氏 名	功 績
相田喜一郎 	長年にわたり青森県支部幹事、支部委員会委員長などを務め、本会の発展に貢献した。
太田 恵一 	長年にわたり山形県支部幹事、支部倫理委員会副委員長を務め、支部並びに本会の発展に貢献した。また、継続研鑽と日本技術士会会員の拡大を目的として2003年に鶴岡技術士会を設立し、県支部と連携して本会の発展に貢献した。
叶内 榮治 	長年にわたり宮城県支部幹事、東北本部活動に尽力し、東北本部並びに本会の発展に貢献した。
菊地 豊 	長年にわたり東北本部幹事、政策事業委員を務め、また秋田県支部幹事として、本会の発展に貢献した。
佐藤 靖 	長年にわたり東北本部幹事として東北本部活動に尽力し、東北本部並びに本会の発展に貢献した。
名倉 隆 	長年にわたり東北本部幹事として東北本部活動に尽力し、東北本部並びに本会の発展に貢献した。
林崎 吉克 	長年にわたり東北本部幹事として東北本部活動に尽力し、東北本部並びに本会の発展に貢献した。

表彰者の紹介

2023年度東北本部長表彰受賞者

7月10日に仙台商工会議所で開催された「東北本部 第51回年次大会」において、2023年度東北本部長表彰式が行われ、表彰状授与11名、協賛企業3社に感謝状が贈呈されましたのでお知らせします。

顕彰区分	顕彰種別	組織区分	推薦組織	氏名又は会社名	主な貢献内容
表彰状授与	第1号表彰状（会務貢献）	各県支部	青森県支部	 嶋本 勝	長年にわたり、青森県支部CPD委員会委員、副委員長並びにCPD委員会委員長などを努め、東北本部の発展に貢献した。
			宮城県支部	 岸 憲之	長年にわたり、宮城県支部幹事並びに宮城県支部豊年技術士懇談会委員長などを努め、東北本部の発展に貢献した。
				 平間 光雄	長年にわたり、宮城県支部幹事並びに宮城県支部防災委員会委員長などを努め、東北本部の発展に貢献した。
				 森井 淳司	長年にわたり、宮城県支部会計幹事並びに宮城県支部豊年技術士懇談会委員などを努め、東北本部の発展に貢献した。
			秋田県支部	 加澤 隆昌	長年にわたり、秋田県支部副支部長を努め、東北本部の発展に貢献した。
			山形県支部	 豊島 良一	長年にわたり、山形県支部幹事並びに山形県支部広報委員会委員長などを努め、東北本部の発展に貢献した。
				 秋山 純一	長年にわたり、山形県支部幹事並びに山形県支部広報委員会副委員長などを努め、東北本部の発展に貢献した。
			福島県支部	 長尾 晃	長年にわたり、福島県支部長並びに東北本部副本部長などを努め、東北本部の発展に貢献した。
				 八巻 誠一	長年にわたり、福島県支部広報委員会委員長などを努め、東北本部の発展に貢献した。

顕彰区分	顕彰種別	組織区分	推薦組織	氏名又は会社名	主な貢献内容
表彰状授与	第1号表彰状(公務員献)	地域委員会	倫理研究委員会	 末岡 眞純	長年にわたり、東北本部幹事、倫理委員会委員並びに東北本部倫理委員会委員長などを努め、東北本部の発展に貢献した。
		技術部会	農業部会	 粟石 和男	長年にわたり、東北本部農業部会幹事並びに東北本部農業部会部会長などを努め、東北本部の発展に貢献した。
感謝状贈呈	第2号感謝状(協賛支援)	各県支部	青森県支部	 <p>建設コンサルタント 株式会社コンテック東日本 代表取締役 金 隆 夫 青森県青森市大字野尻字今留91-3 TEL 017-738-9346 / FAX 017-738-1811</p>	長年にわたり協賛企業として本会運営を支援し、青森県支部並びに東北本部の発展に貢献した。
			岩手県支部	 <p>総合建設コンサルタント 株式会社土木技研 代表取締役社長 佐藤 信 本社/盛岡市津志田町二丁目16番20号 TEL 019-63888131</p>	長年にわたり協賛企業として本会運営を支援し、岩手県支部並びに東北本部の発展に貢献した。
			福島県支部	 <p>株式会社東日本建設コンサルタント 代表取締役 水野 正樹 代表 山ノ下 康樹 技術員 高橋 晃 代表 山ノ下 康樹 代表 山ノ下 康樹 設計課長 山ノ下 康樹 代表 山ノ下 康樹 ※本社/福島県いわき市昭和町M125-5 TEL 8246-63-5003(FU)</p>	長年にわたり協賛企業として本会運営を支援し、福島県支部並びに東北本部の発展に貢献した。



2023年度 東北本部長表彰者

お知らせ

2022年度後期新規入会者

日本技術士会東北本部への2022年度後期新規入会者は表1に示すとおりで、正会員入会者10名、準会員入会者11名の合計22名となります。

また、2023年7月20日現在の東北本部における支部別会員数は表2に示すとおりで、会員総数は1,394名となっています。

表1. 日本技術士会東北本部入会者一覧（2022年10月～2023年3月入会分）

〔正会員〕

氏名	技術部門	所在地	所属
尾形 学	上下水道	岩手県	(株)三協技術 盛岡支店上水道室
安部 和夫	建設、総合技術監理	宮城県	東日本高速道路(株)東北支社技術部技術企画課
荒木 強	応用理学	宮城県	アラキジオオフィス
齋藤るみ子	生物工学	宮城県	アジレント・テクノロジー(株)診断・ゲノミクス部門
佐竹 浄彦	建設	宮城県	東友エンジニアリング(株)技術部 技術課
佐藤 慶治	建設	宮城県	(株)復建技術コンサルタント 調査防災部河川課
山尾 昭	建設	宮城県	(株)IHI インフラシステム 東北営業所
京野 伸人	建設	山形県	ティ・ケイエンジ(株)技術部
佐藤 一司	建設	山形県	みちのくコンサルタント(株)酒田支店
本間 明	情報工学	福島県	エクシオグループ(株)東北支店法人営業部門

正会員入会者10名

〔準会員〕

氏名	技術部門	所在地	所属
大橋 駿	建設	青森県	エイト技術(株)調査設計部設計課
小笠原多周	金属	青森県	大平洋金属(株)製造部製造二課
小堀 伸	環境	青森県	日本環境総合研究機構
安田 優也	応用理学	青森県	日本原燃(株)再処理事業部 再処理工場 計装保全部 計装技術課
佐野 智一	森林	岩手県	岩手南部森林管理署遠野支署 業務グループ
児玉 恵太	上下水道	宮城県	(株)復建技術コンサルタント 水工技術部技術2課
佐藤 貴拓	上下水道	宮城県	(株)復建技術コンサルタント 水工技術部技術2課
高根澤 誠	建設	宮城県	(株)大盛設備工業 工事課
大和田 翔	機械	山形県	山形大学 工学部技術部
村上 智之	上下水道	山形県	山形県企業局 鶴岡電気水道事務所
藤井 康平	建設	福島県	(株)富士ピー・エス 関東支店いわき工場製造課

準会員入会者11名

表2. 日本技術士会東北本部会員数

2023年7月20日現在

県	会員	準会員	名誉会員	合計
青森県	117	22	0	139
岩手県	121	20	1	142
宮城県	563	59	4	626
秋田県	124	15	0	139
山形県	100	20	0	120
福島県	177	50	1	228
合計	1202	186	6	1,394

注) 本部会員数は、技術士会ホームページの「WEB名簿検索システム」から集計

お知らせ

2023 年度協賛団体

日本技術士会東北本部における 2023 年度協賛団体は、表 1 に示すとおりで、青森県支部が 14 社 (1 社減)、岩手県支部が 9 社、宮城県支部が 94 社 (7 社増)、秋田県支部が 5 社 (1 社増)、山形県支部が 29 社 (1 社増)、福島県支部が 8 社 (2 社増)、全体で 159 社 (10 社増) となっています。

また、日本技術士会東北本部では賛助団体会員入会の募集を行っています。詳細は、東北本部のホームページをご覧ください。

表 1. 日本技術士会 東北本部 協賛団体

2023 年 7 月 20 日現在

■青森県支部の協賛団体 (14 社)		
エイコウコンサルタント(株)	エイト技術(株)	(株)キタコン
(株)コサカ技研	(株)コンテック東日本	(株)しんとう計測
セントラル技研(株)	(株)測地コンサルシステム	(株)大成コンサル
東北建設コンサルタント(株)	(株)日測コンサルタント	ハートエンジニアオフィス(株)
(株)八光コンサルタント	(株)みちのく計画	
■岩手県支部の協賛団体 (9 社)		
(株)一測設計	(株)岩手開発測量設計	(株)菊池技研コンサルタント
(株)タカヤ	(株)東開技術	東北エンジニアリング(株)
(株)土木技研	(株)南部測量	(株)藤森測量設計
■宮城県支部の協賛団体 (87 社)		
(株)秋元技術コンサルタンツ	(株)アサノ大成基礎エンジニアリング 東北支社	アジア航測(株)
(株)安藤・間東北支店	e-JEC 東日本(株)	(株)いであ 東北支店
岩倉測量設計(株)	岩田地崎建設株式会社東北支店	(株)ウエスコ東北事務所
(株)エイト日本技術開発東北支店	エヌエス環境(株)東北支社	(株)大江設計
(株)オオバ東北支店	大橋調査(株)	(株)大林組東北支店
○・T・テクノリサーチ(株)	(株)奥村組東北支店	(株)オリエンタルコンサルタンツ東北支社
オリエンタル白石(株)	鹿島建設(株)東北支店	川崎地質(株)北日本支社
基礎地盤コンサルタンツ(株)東北支社	(株)キタック仙台事務所	(株)協和コンサルタンツ東北支社
(株)熊谷組東北支店	(株)建設技術研究所東北支社	(株)構研エンジニアリング
(株)光生エンジニアリング	国際航業(株)	国土防災技術(株)東北支社
五洋建設(株)	佐藤工業(株)東北支店	(株)サトー技建
佐野コンサルタンツ(株)	(株)三協技術	サンコーコンサルタント株式会社東北支店
清水建設(株)東北支店	(株)新星コンサルタント東北支社	(株)新日本興発コンサルタント
仙建工業(株)	(株)仙台土木設計	セントラルコンサルタント(株)東北支社
大成建設(株)東北支店	大日本コンサルタント(株)東北支社	(株)ダイヤコンサルタント東北支社

(株)ダイワ技術サービス	(株)竹中土木東北支店	中央開発(株)東北支店
中央復建コンサルタンツ(株)東北支社	(株)長大仙台支社	(株)千代田コンサルタント東北支店
(株)テクノ東北	(株)テクノ長谷	鉄建建設(株)東北支店
東亜建設工業(株)東北支店	東急建設(株)東北支店	(株)東建工営
東光電気工事(株)東北支社	(株)東北開発コンサルタント	(一社) 東北測量設計協会
東北ボーリング(株)	東北緑化環境保全(株)	(株)ドーコン 東北支店
戸田建設(株)東北支店	飛島建設(株)東北支店	土木地質(株)
西松建設(株)東北支店	日本工営(株)仙台支店	(株)日本水工コンサルタント東北支店
日本製紙(株)石巻工場	日本ハイウェイ・サービス(株)仙台支店	(株)日水コン東北支所
(株)NIPPO 東北支店	(株)ネクスコ・エンジニアリング東北	(株)ネクスコ・メンテナンス東北
パシフィックコンサルタンツ(株)東北支社	(株)パスコ東北事業部	(株)ピーエス三菱東北支店
東日本コンクリート(株)	日野測量設計(株)	(株)福田水文センター東北支店
(株)福山コンサルタント東北支社	(株)フジタ東北支店	(株)復建技術コンサルタント
北武コンサルタント(株)仙台事務所	前田建設工業(株)東北支店	みちのくコンサルタント(株)
三井住友建設(株)東北支店	(株)宮城環境保全研究所	宮城県土地改良事業団体連合会
八千代エンジニアリング(株)東北支店	(株)ユアテック	陽光建設(株)
リコージャパン(株)		
■秋田県支部の協賛団体 (5社)		
(株)石川技研コンサルタント	(株)ウヌマ地域総研	(株)創研コンサルタント
(株)測地コンサルタント	(株)三木設計事務所	
■山形県支部の協賛団体 (29社)		
(株)朝日測量設計事務所	安達技術士事務所	(株)春日測量設計
(株)協同測量設計センター	(株)工藤測量設計	(株)ケンコン
(株)寒河江測量設計事務所	(株)佐藤工務	三協コンサルタント(株)
(株)三和技術コンサルタント	(有)ジステム	(株)庄内測量設計舎
(株)新東京ジオ・システム	新和設計(株)	(株)菅野測量設計
(株)鈴木測量事務所	スリーエー(株)	(株)成和技術
(株)大成技術コンサルタント	大和工営(株)	(株)高田地研
(株)田村測量設計事務所	(株)出羽測量設計	日本地下水開発(株)
(株)双葉建設コンサルタント	山形県建設コンサルタント協会	山形県土地改良事業団体連合会
(株)結城測量設計コンサルタント	(株)横山測量設計事務所	
■福島県支部の協賛団体 (8社)		
(株)東コンサルタント	(株)アーバン設計	(株)北日本ボーリング
(株)郡山測量設計社	佐藤工業(株)	日栄地質測量設計(株)
陸奥テックコンサルタント(株)	山北調査設計(株)	

あ と が き

このたびガイア77号は、日本技術士会東北本部設立50周年記念特集号として発行となりました。編集企画を昨年の9月から開始し約1年間かけて、50年間にわたる活動の歴史を調査して本号にまとめたものです。資料調査に大きく役立ったものは、以外にも過去に発行されたガイアの記録でした。記録を紙面で残すことの重要性を再認識したものでした。東北本部、各委員会、各部会及び各県支部等の設立に至るまでの諸先輩方の紆余曲折の苦労が記録を辿っていきながら知ることができ、私たちが普段所属している東北本部、各委員会、各部会及び各県支部組織の有難さを再認識

するものでした。「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」という言葉が頭をよぎりました。私たち技術士は、過去から学び、そして新たに未来を創っていくことが使命であり、その指標となるものが、今回発表された「東北本部10年ビジョン」（東北の技術士会が実現すべき将来像）だと思います。私たち広報委員会は、10年ビジョンに対するこれからの技術士会の取組みをガイアへ記録として残し、会員で共有化し、かつ次世代へ伝えることを使命として活動していきたいと思

(広報委員 伊藤 記)

■ 広報委員会委員

委員長

伊藤 貞二 (建設、総合技術)

委員

・ 会誌検討会

丹 収一 (建設、総合技術)

柴田 友禧 (建設、総合技術)

井口 高夫 (建設、総合技術)

大重兼志郎 (建設)

田中 菜摘 (建設、環境、総合技術)

小沼千香四 (建設、応用理学、総合技術)

林 洋一郎 (建設、総合技術)

橋本 純 (応用理学)

利部 哲 (建設、環境)

高木 正一 (建設)

・ 広報検討会

有馬 義二 (建設)

宮崎 典男 (建設)

桂 利治 (建設、総合技術)

県支部広報担当

・ 青森県 芳賀 光幸 (建設、農業、総合技術)

・ 岩手県 利部 哲 (建設、環境)

・ 宮城県 梶谷 真 (建設)

・ 秋田県 高橋 誠 (建設)

・ 山形県 伊藤 信生 (建設)

・ 福島県 宮崎 典男 (建設)

技術士東北 第77号 (No.2 2023)

東北本部設立50周年記念特集号

2023年9月1日発行

公益社団法人 日本技術士会東北本部

〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-6-25 宮酪ビル 2F

TEL 022-723-3755 FAX 022-723-3812

E-mail : tohokugijutushi@nifty.com

http://www.tohoku.gijutusi.net/

編集責任者：東北本部・広報委員会 (責任者 伊藤貞二)

印刷所：本田印刷(株) TEL 022-288-5231(代)



公益社団法人 日本技術士会 東北本部
The Institution of Professional Engineers, Japan

